

**京都市**  
**家族や家庭生活のあり方に関する**  
**意識調査**  
**【結果報告書】**

令和元年6月

京都市

# 目次

---

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1
II. 調査結果	2
1 あなたご自身について	2
2 少子化について	25
3 結婚について	34
4 出産について	64
5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について	74

# 1. 調査の概要

## 1 調査の目的

結婚・出産に関する意識や、働き方などに対する意識等を把握し、今後の本市の少子化対策や真のワーク・ライフ・バランスの推進に向けた基礎資料とすること。

## 2 調査設計

- 調査対象者：京都市に在住する18歳から49歳までの市民
- 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- 調査期間：平成30年9月7日～9月21日
- 調査方法：郵送による配布・回収

## 3 回収結果

		調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
家族や家庭生活のあり方に関する意識調査		6,500件	1,866件	28.7%
（参考）	平成25年調査	6,500件	1,842件	28.3%
	平成20年調査	6,500件	2,140件	32.9%

※平成20年、平成25年の調査名は「結婚と出産に関する意識調査」

※平成20年調査の対象者は18歳以上35歳未満の市民

## 4 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。

## II. 調査結果

### 1 あなたご自身について

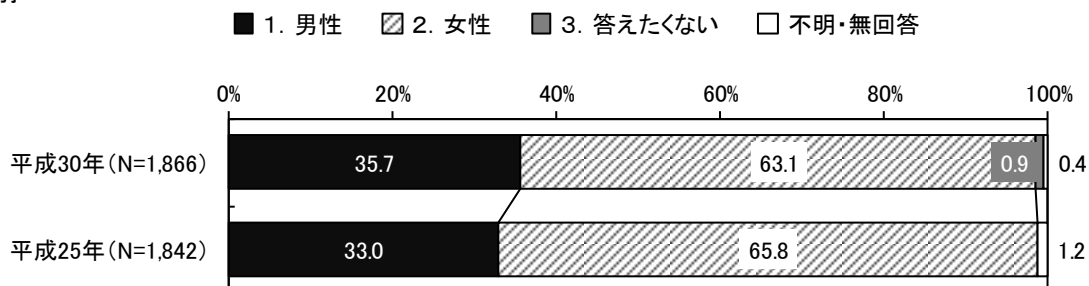
問1 あなたの性別と年齢をお答えください（年齢は平成30年9月1日現在）。（〇は1つ）

性別は、「1. 男性」が35.7%、「2. 女性」が63.1%となっています。

年齢は、「7. 45～49歳」が21.5%と最も高く、次いで「6. 40～44歳」が19.3%、「5. 35～39歳」が17.9%となっています。

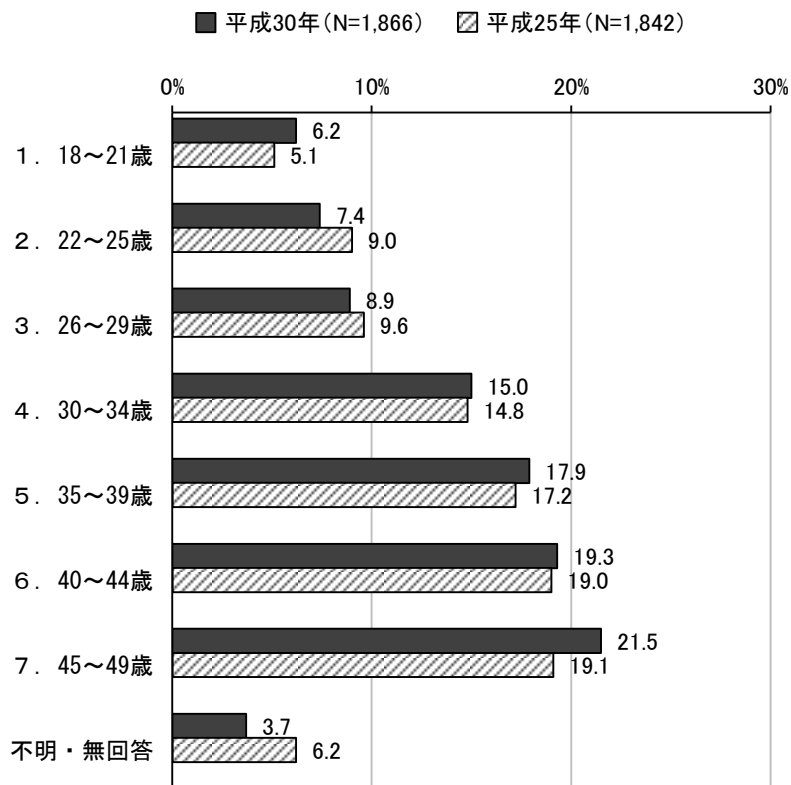
平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

#### ◆性別



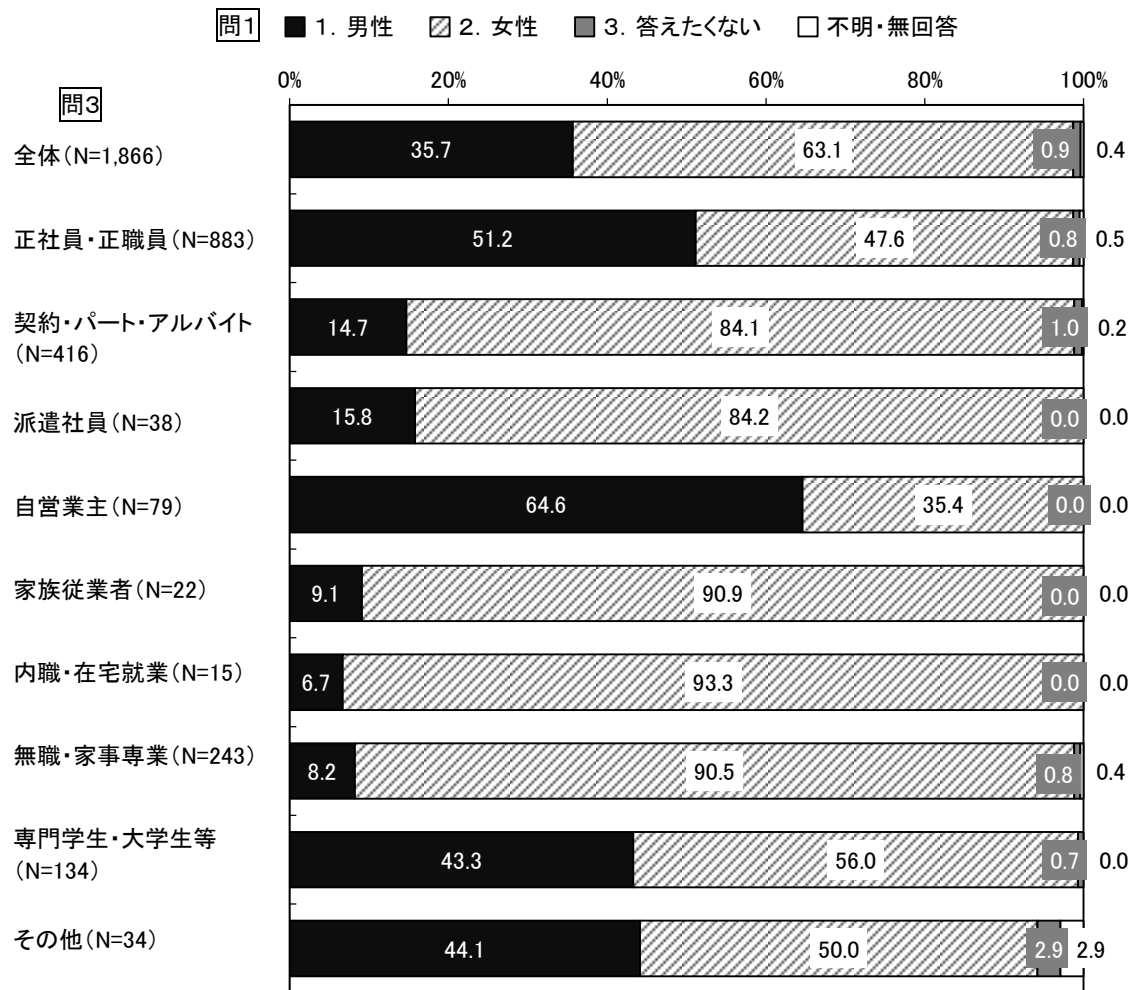
※「3. 答えたくない」は平成30年のみの選択肢

#### ◆年齢



### 《問1 性別×問3就労形態別》

「正社員・正職員」「自営業主」では「1. 男性」、それ以外の区分では「2. 女性」の割合が最も高くなっています。

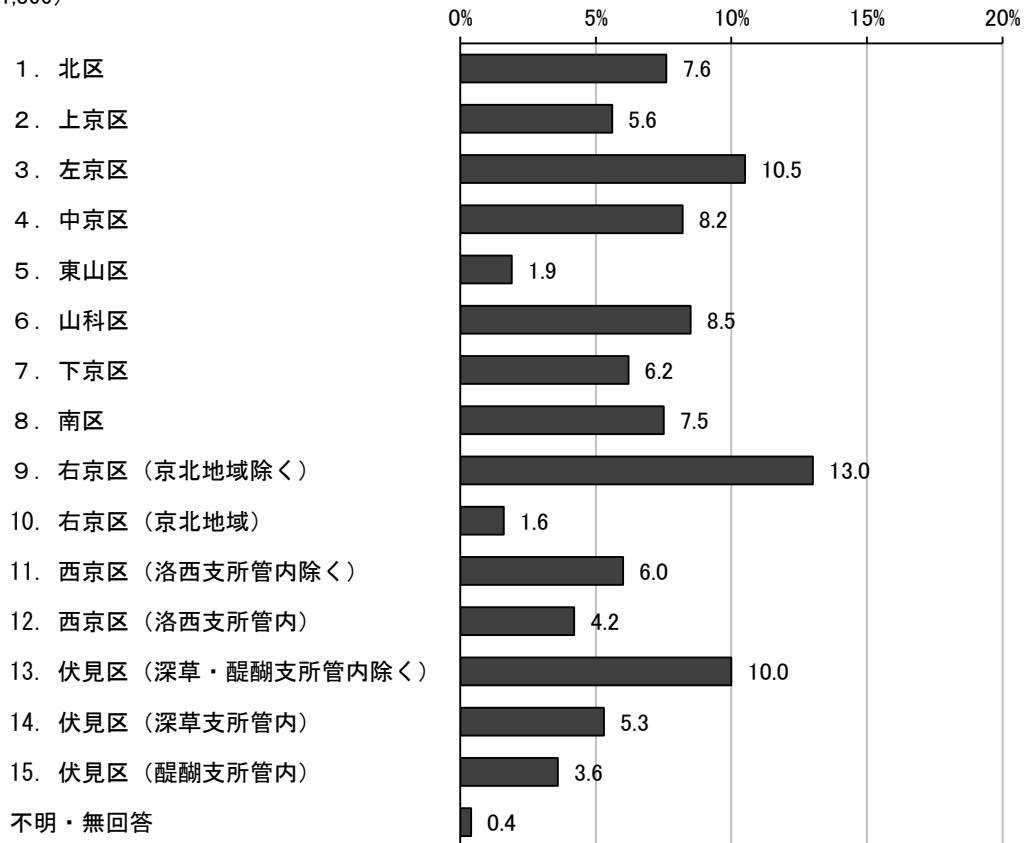


※不明・無回答除く

## 問2 お住まいの区等はどちらですか。(〇は1つ)

「9. 右京区(京北地域除く)」が13.0%と最も高く、次いで「3. 左京区」が10.5%、「13. 伏見区(深草・醍醐支所管内除く)」が10.0%となっています。

(N=1,866)

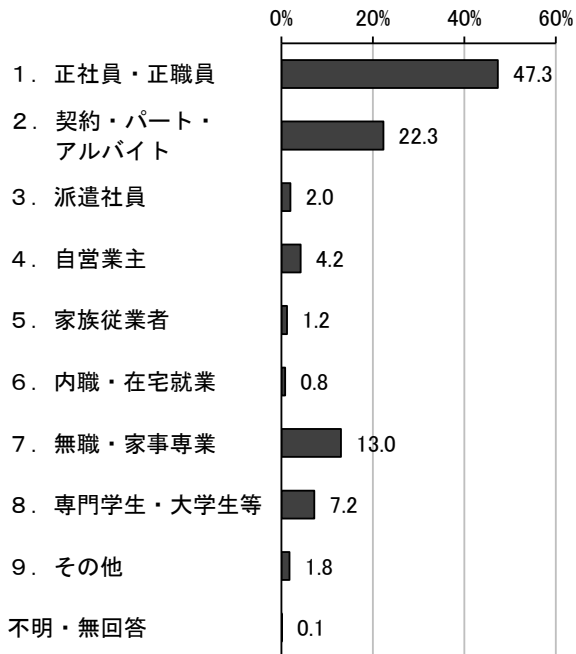


### 問3 あなたの就労形態をお答えください。(〇は1つ)

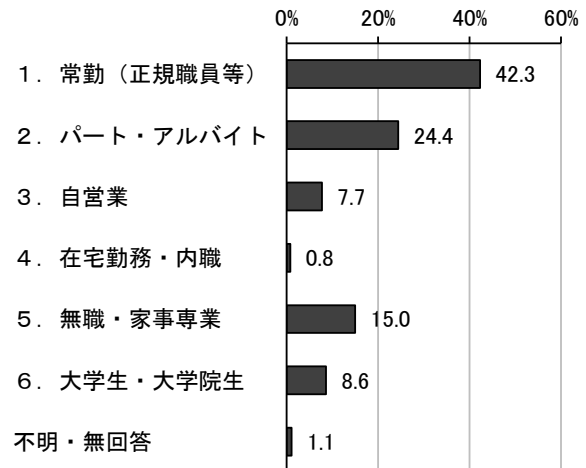
「1. 正社員・正職員」が47.3%と最も高く、次いで「2. 契約・パート・アルバイト」が22.3%、「7. 無職・家事専業」が13.0%となっています。

平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

平成30年(N=1,866)



平成25年(N=1,842)

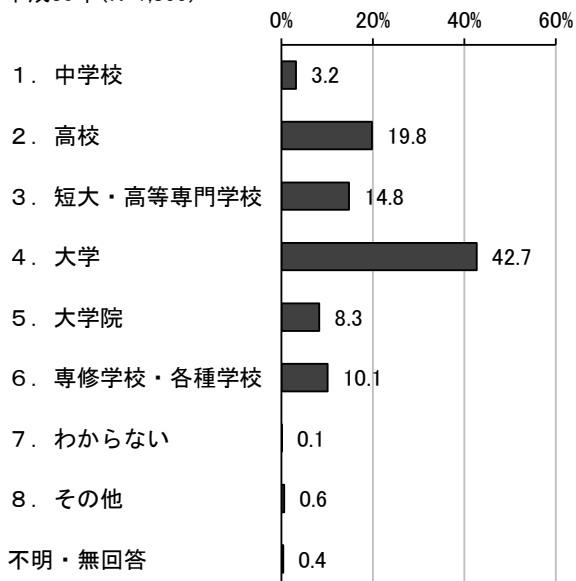


### 問4 あなたの最終学歴（現在学生の方は予定）をお答えください。(〇は1つ)

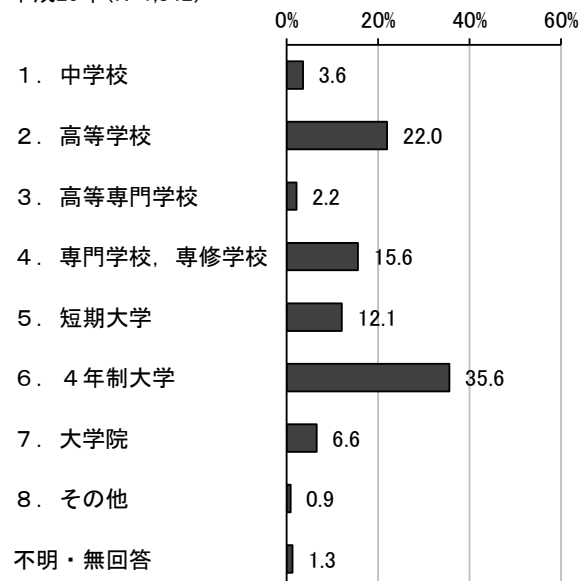
「4. 大学」が42.7%と最も高く、次いで「2. 高校」が19.8%、「3. 短大・高等専門学校」が14.8%となっています。

平成25年と比較すると、「4. 大学」（平成25年では「6. 4年制大学」）が7.1ポイント高くなっています。

平成30年(N=1,866)

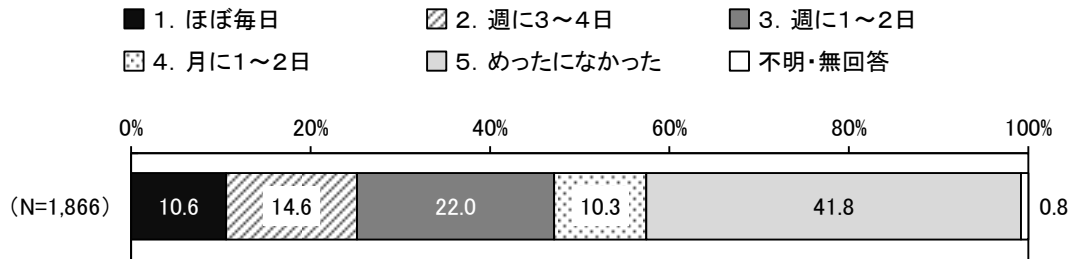


平成25年(N=1,842)



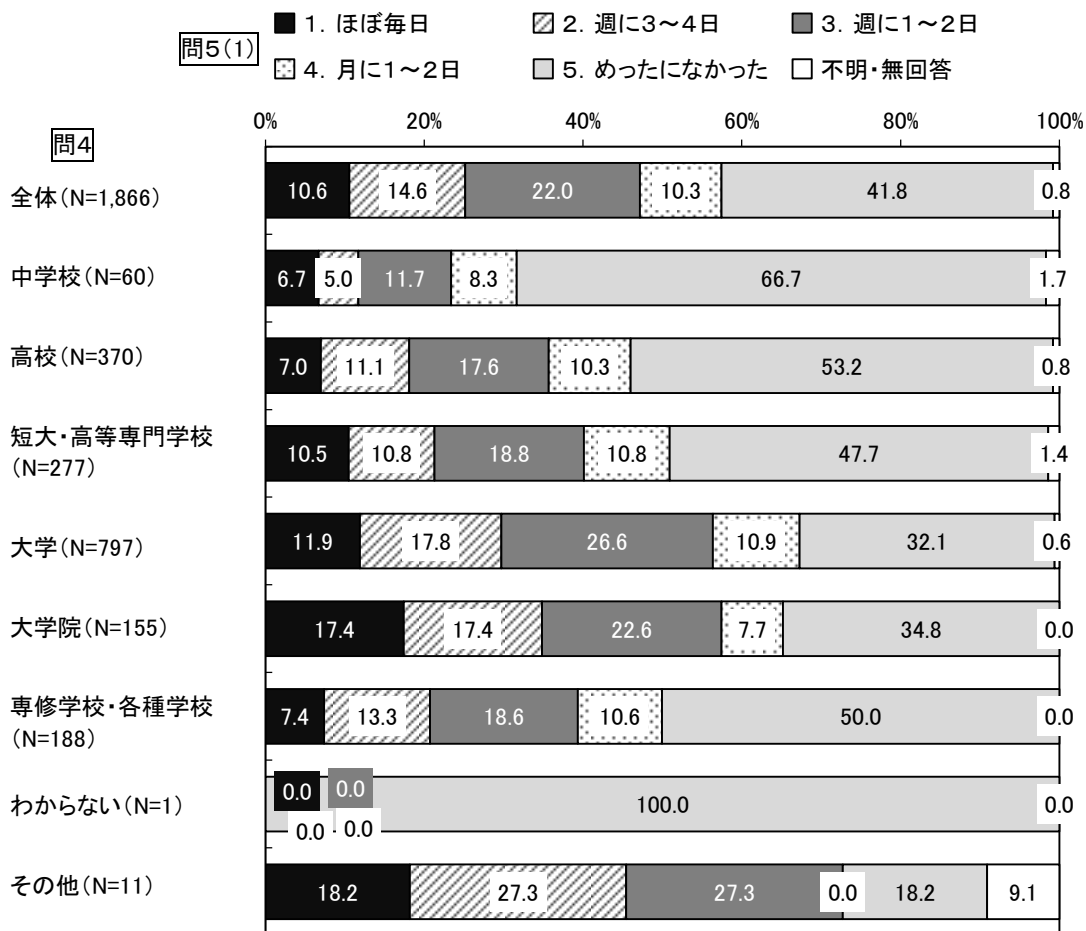
**問5(1) あなたは小学生の頃に親や保護者に勉強を覚えてもらう（一緒に学校の宿題に取り組むなど）機会がありましたか。（〇は1つ）**

「5. めったになかった」が41.8%と最も高く、次いで「3. 週に1～2日」が22.0%、「2. 週に3～4日」が14.6%となっています。



**《問5(1)小学生の頃に勉強を覚えてもらう機会×問4最終学歴別》**

最終学歴が高くなるほど、「1. ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられます。

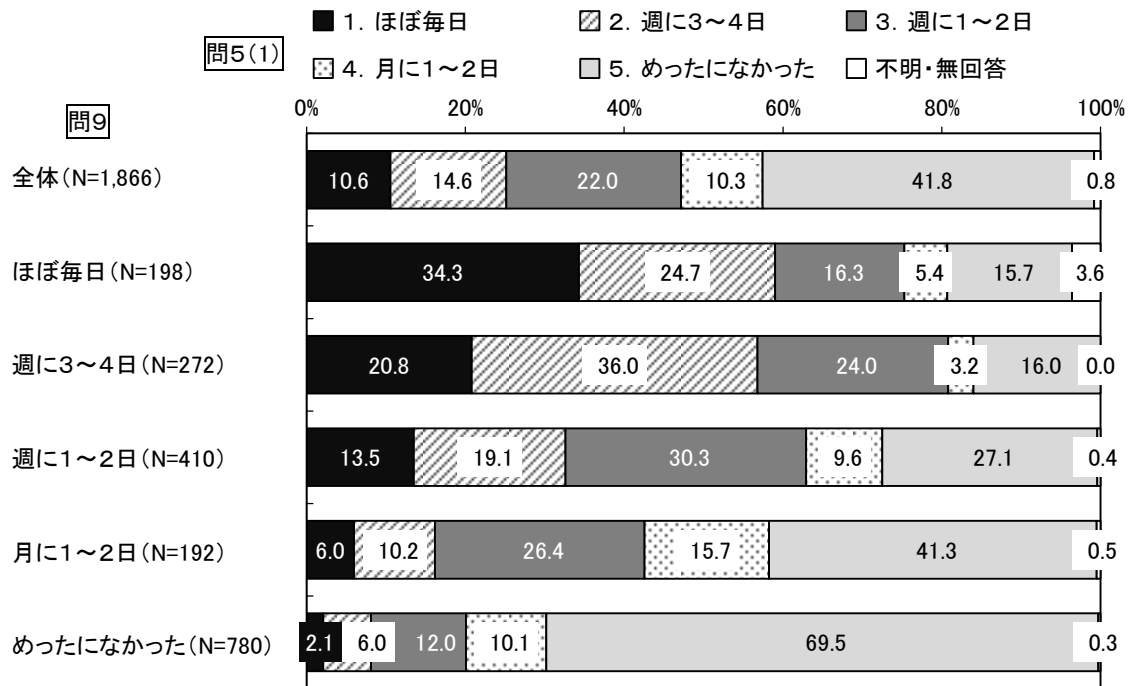


※不明・無回答除く



《問5(1)小学生の頃に勉強を教えてもらう機会×問9 12歳の頃に親等と遊んだ頻度別》

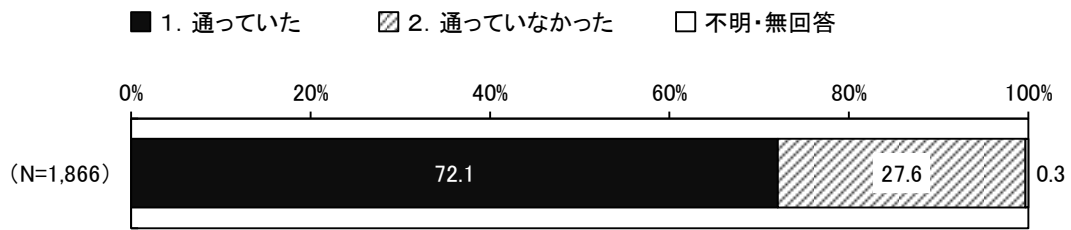
12歳の頃に親等と遊んだ頻度が高くなるほど、「1. ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられます。



※不明・無回答除く

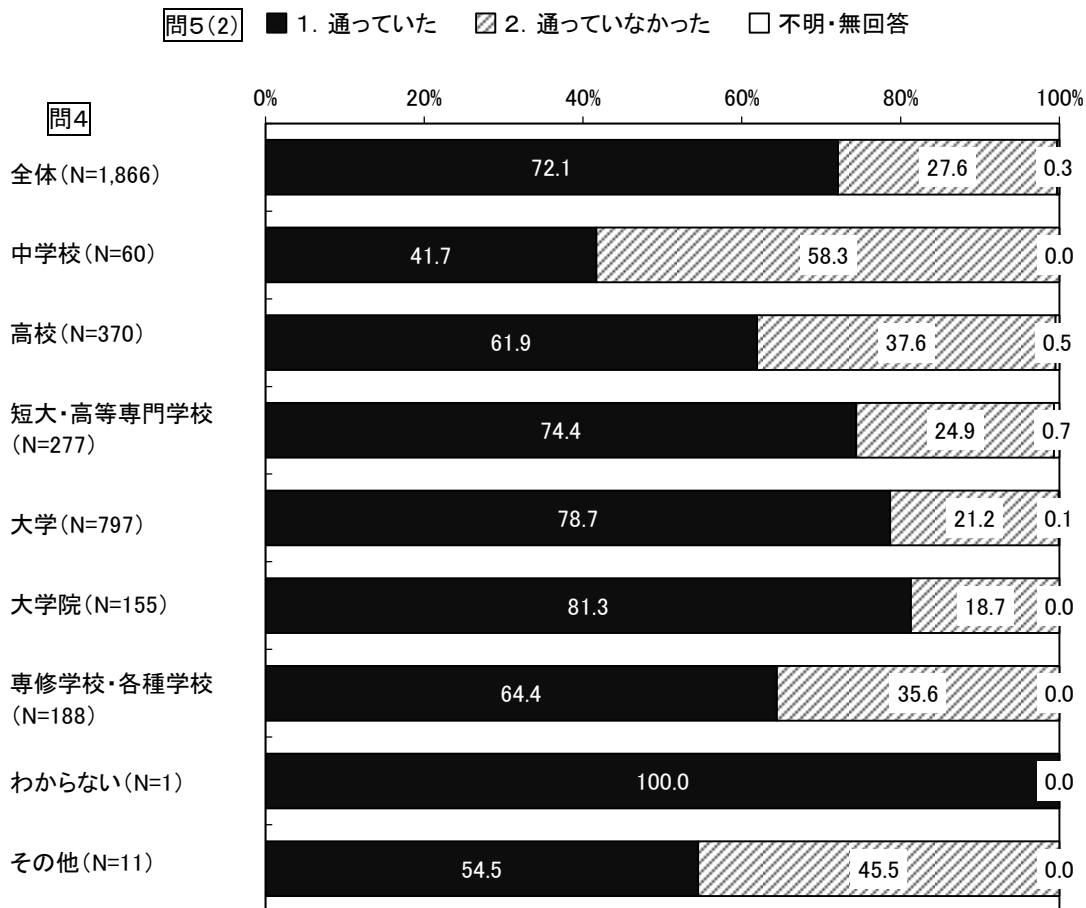
**問5(2) あなたは小学生、中学生、高校生の頃に塾に通っていましたか。(〇は1つ)**

「1. 通っていた」が72.1%、「2. 通っていなかった」が27.6%となっています。



**《問5(2)通塾状況×問4最終学歴別》**

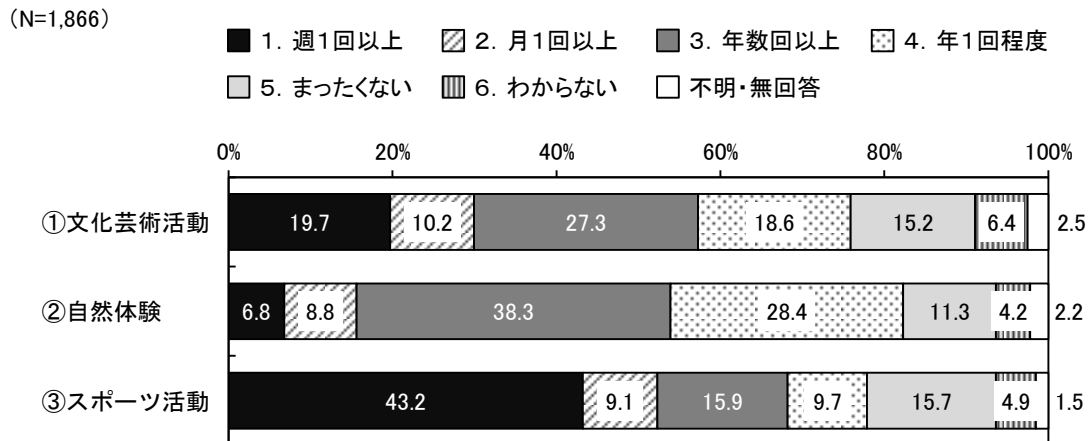
「中学校」では「2. 通っていなかった」、それ以外の区分では「1. 通っていた」が高くなっています。



※不明・無回答除く

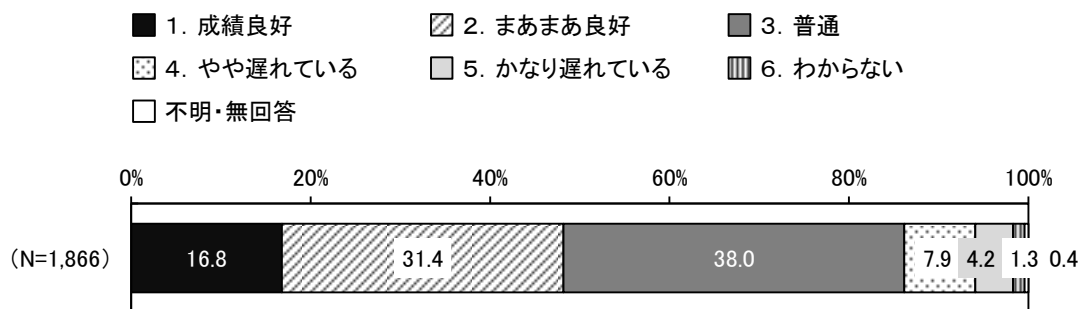
問5(3) あなたは、小学生、中学生、高校生の頃に、学校の授業以外で、自宅以外での文化芸術活動（映画、音楽、絵画、写真、演劇、能・狂言・歌舞伎などの鑑賞、体験など）や自然体験（山登り、海水浴、川遊び、キャンプなど）、スポーツ活動を行う機会は何の程度ありましたか。（〇はそれぞれ1つずつ）

①文化芸術活動、②自然体験では「3. 年数回以上」がそれぞれ27.3%、38.3%と最も高く、次いで①文化芸術活動では「1. 週1回以上」が19.7%、②自然体験では「4. 年1回程度」が28.4%となっています。③スポーツ活動では「1. 週1回以上」が43.2%と最も高く、次いで「3. 年数回以上」が15.9%となっています。



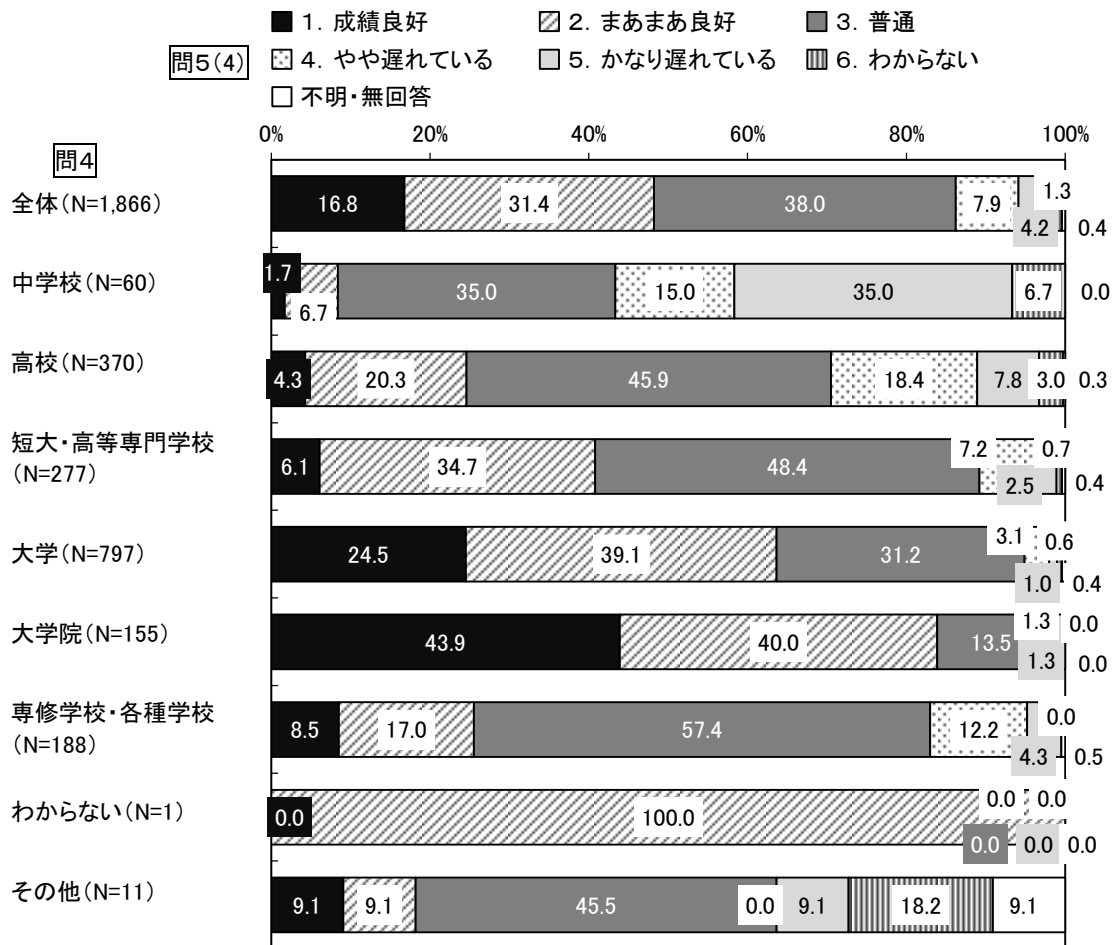
問5(4) あなたの学校での勉強の成績はどうか（どうでしたか）。（〇は1つ）

「3. 普通」が38.0%と最も高く、次いで「2. まあまあ良好」が31.4%、「1. 成績良好」が16.8%となっています。



《問5(4)学校での成績×問4最終学歴別》

最終学歴が高くなるほど、「1. 成績良好」「2. まあまあ良好」の割合が高くなる傾向がみられます。

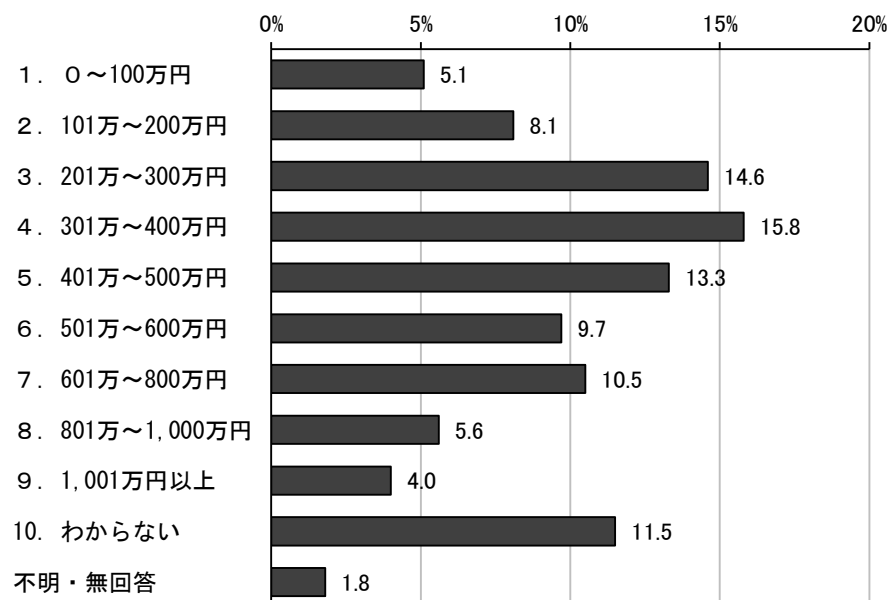


※不明・無回答除く

**問6 あなたの世帯の昨年1年間（平成29年1月1日～同年12月31日の期間）の可処分所得（実収入から税金や社会保険料等を引いたいわゆる手取り収入）はおおよそどのくらいですか。（○は1つ）**

「4. 301万～400万円」が15.8%と最も高く、次いで「3. 201万～300万円」が14.6%、「5. 401万～500万円」が13.3%となっています。

(N=1,866)



《問6 昨年1年間の可処分所得×問3 就労形態別》

「正社員・正職員」では「301万～400万円」,「契約・パート・アルバイト」では「101万～200万円」「301万～400万円」,「派遣社員」「自営業主」「家族従業者」では「201万～300万円」,「内職・在宅就業」では「501万～600万円」,「無職・家事専業」では「601万～800万円」,「専門学生・大学生等」「その他」では「わからない」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	0～100万円	101万～200万円	201万～300万円	301万～400万円	401万～500万円	501万～600万円
全体		1,866 100.0	96 5.1	151 8.1	272 14.6	294 15.8	249 13.3	181 9.7
就労形態別	正社員・正職員	883 100.0	7 0.8	44 5.0	150 17.0	154 17.4	134 15.2	105 11.9
	契約・パート・アルバイト	416 100.0	31 7.5	66 15.9	55 13.2	66 15.9	53 12.7	37 8.9
	派遣社員	38 100.0	2 5.3	9 23.7	10 26.3	7 18.4	0 0.0	1 2.6
	自営業主	79 100.0	7 8.9	9 11.4	20 25.3	10 12.7	8 10.1	9 11.4
	家族従業者	22 100.0	0 0.0	1 4.5	7 31.8	1 4.5	1 4.5	2 9.1
	内職・在宅就業	15 100.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7
	無職・家事専業	243 100.0	28 11.5	12 4.9	21 8.6	43 17.7	40 16.5	18 7.4
	専門学生・大学生等	134 100.0	17 12.7	5 3.7	5 3.7	6 4.5	10 7.5	3 2.2
	その他	34 100.0	3 8.8	3 8.8	3 8.8	5 14.7	1 2.9	2 5.9

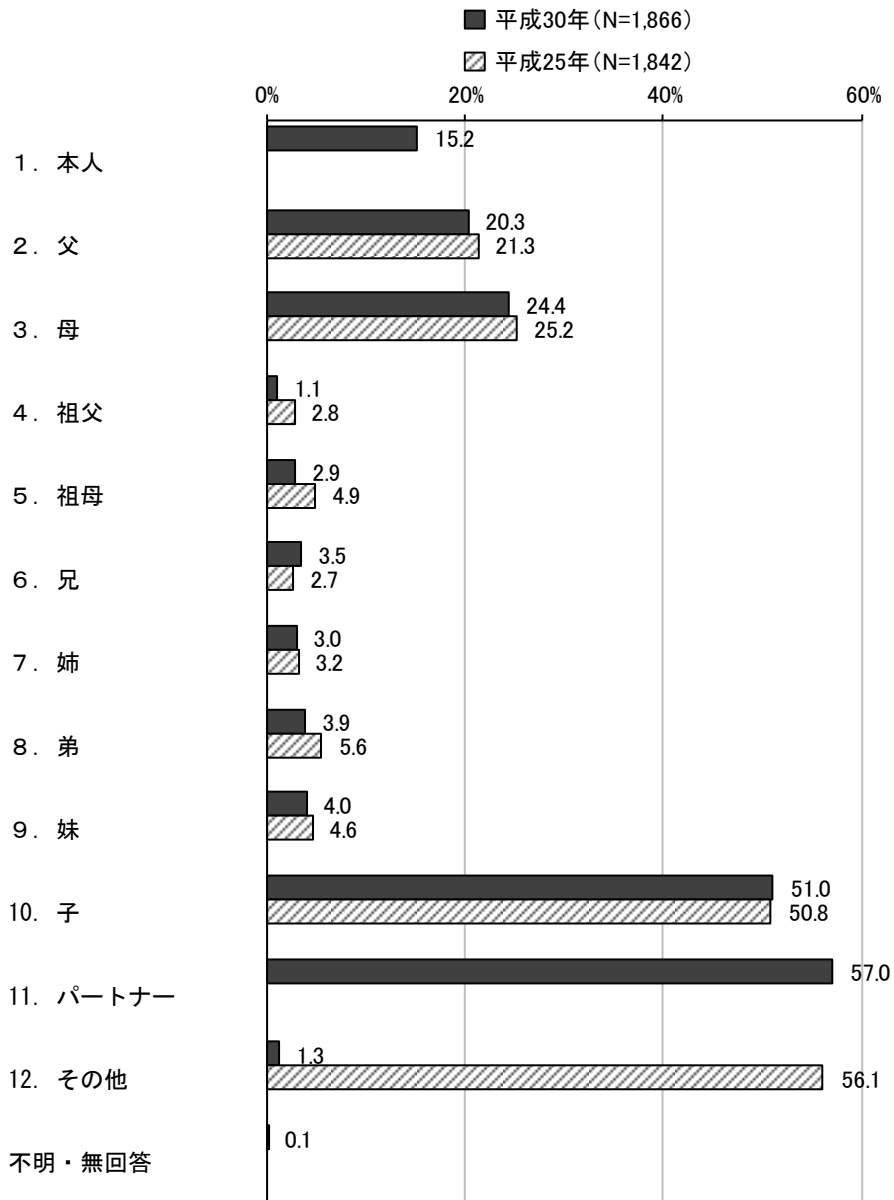
上段:件数 下段:%		合計	601万～800万円	801万～1,000万円	1,001万円以上	わからない	不明・無回答
全体		1,866 100.0	196 10.5	105 5.6	74 4.0	214 11.5	34 1.8
就労形態別	正社員・正職員	883 100.0	118 13.4	62 7.0	40 4.5	61 6.9	8 0.9
	契約・パート・アルバイト	416 100.0	32 7.7	14 3.4	13 3.1	36 8.7	13 3.1
	派遣社員	38 100.0	2 5.3	2 5.3	0 0.0	3 7.9	2 5.3
	自営業主	79 100.0	4 5.1	3 3.8	5 6.3	3 3.8	1 1.3
	家族従業者	22 100.0	0 0.0	1 4.5	2 9.1	6 27.3	1 4.5
	内職・在宅就業	15 100.0	1 6.7	0 0.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0
	無職・家事専業	243 100.0	32 13.2	11 4.5	6 2.5	27 11.1	5 2.1
	専門学生・大学生等	134 100.0	7 5.2	11 8.2	6 4.5	64 47.8	0 0.0
	その他	34 100.0	0 0.0	1 2.9	1 2.9	12 35.3	3 8.8

※不明・無回答除く

問7 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、就業形態等、年齢、健康状態及び心身の状況について、下記の選択肢から番号を1つずつ選んでご記入ください（年齢は平成30年9月1日現在で直接記入）。

「11. パートナー」が57.0%と最も高く、次いで「10. 子」が51.0%、「3. 母」が24.4%となっています。

◆続柄



※「1. 本人」「11. パートナー」は平成30年のみの選択肢

◆就業形態等

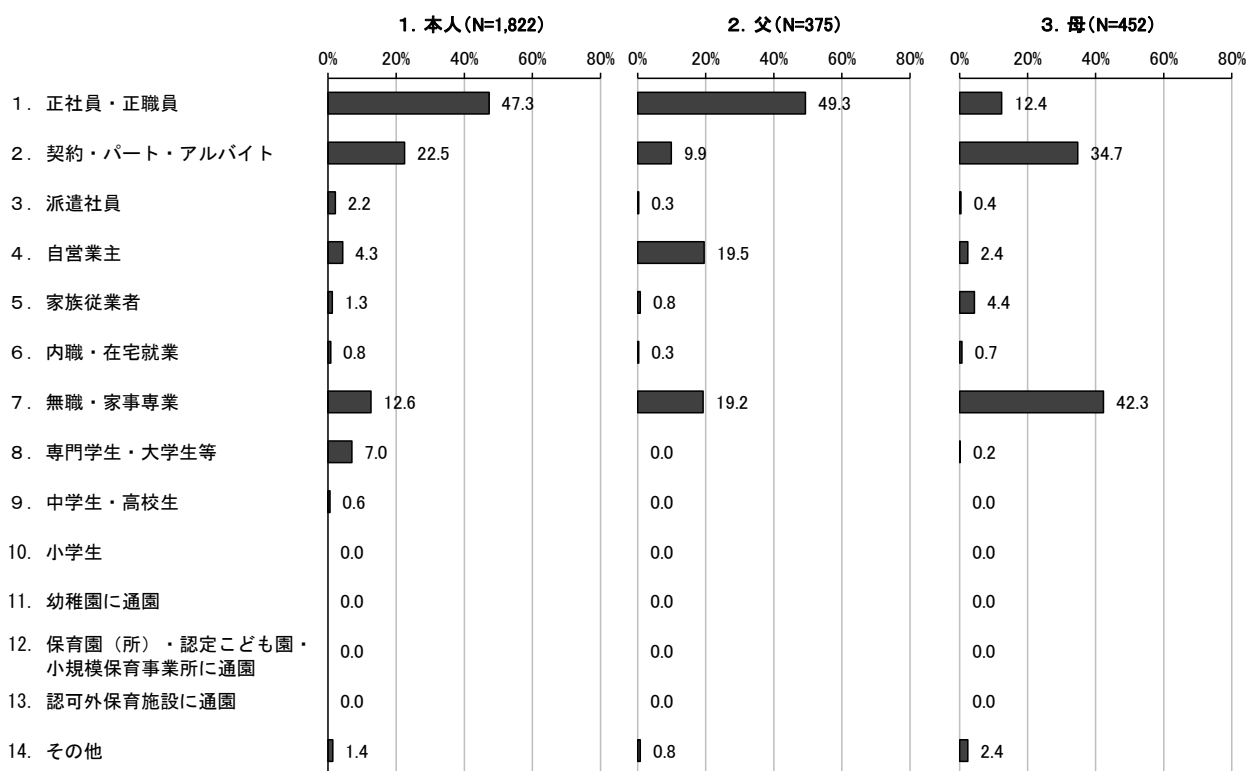
「1. 本人」「2. 父」「6. 兄1人目」「7. 姉」「11. パートナー」は、「1. 正社員・正職員」がそれぞれ47.3%、49.3%、37.9%、51.8%、63.4%と最も高くなっています。

「3. 母」「4. 祖父」「5. 祖母」は、「7. 無職・家事専業」がそれぞれ42.3%、70.0%、79.6%と最も高くなっています。

「8. 弟1人目」は、「9. 中学生・高校生」が40.6%と最も高くなっています。

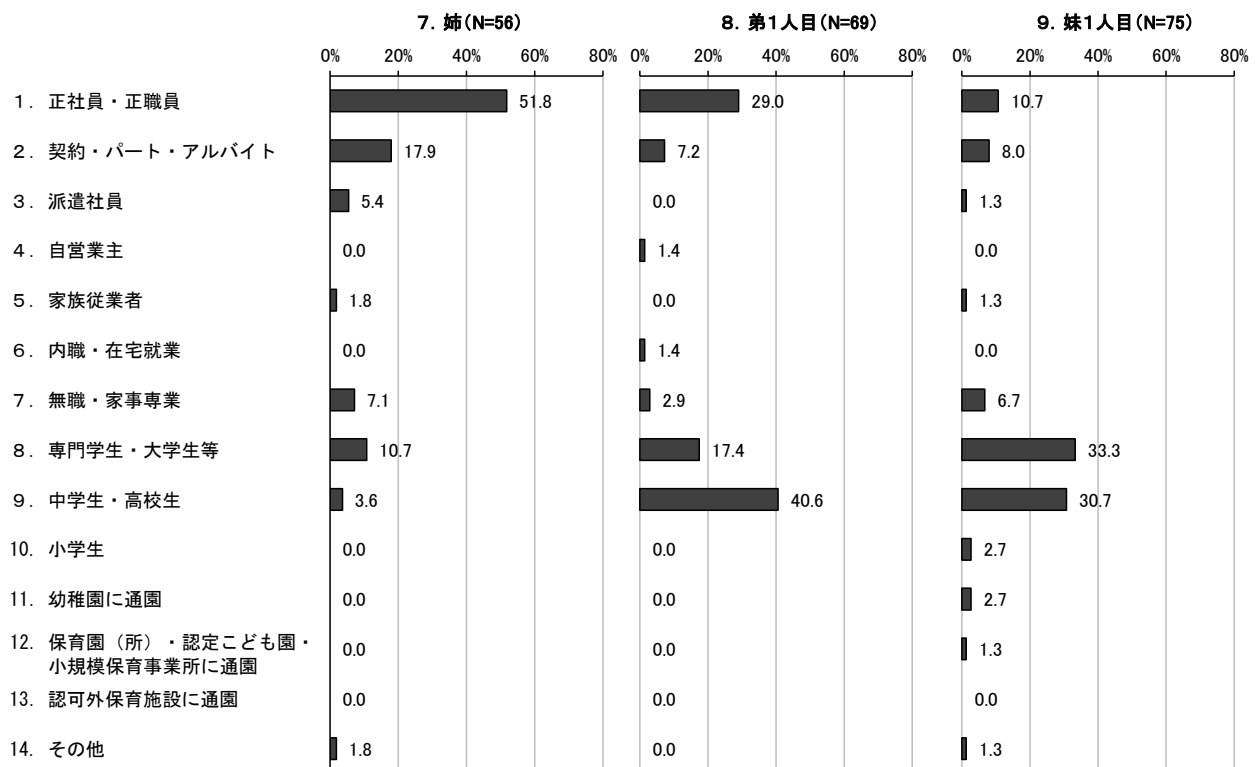
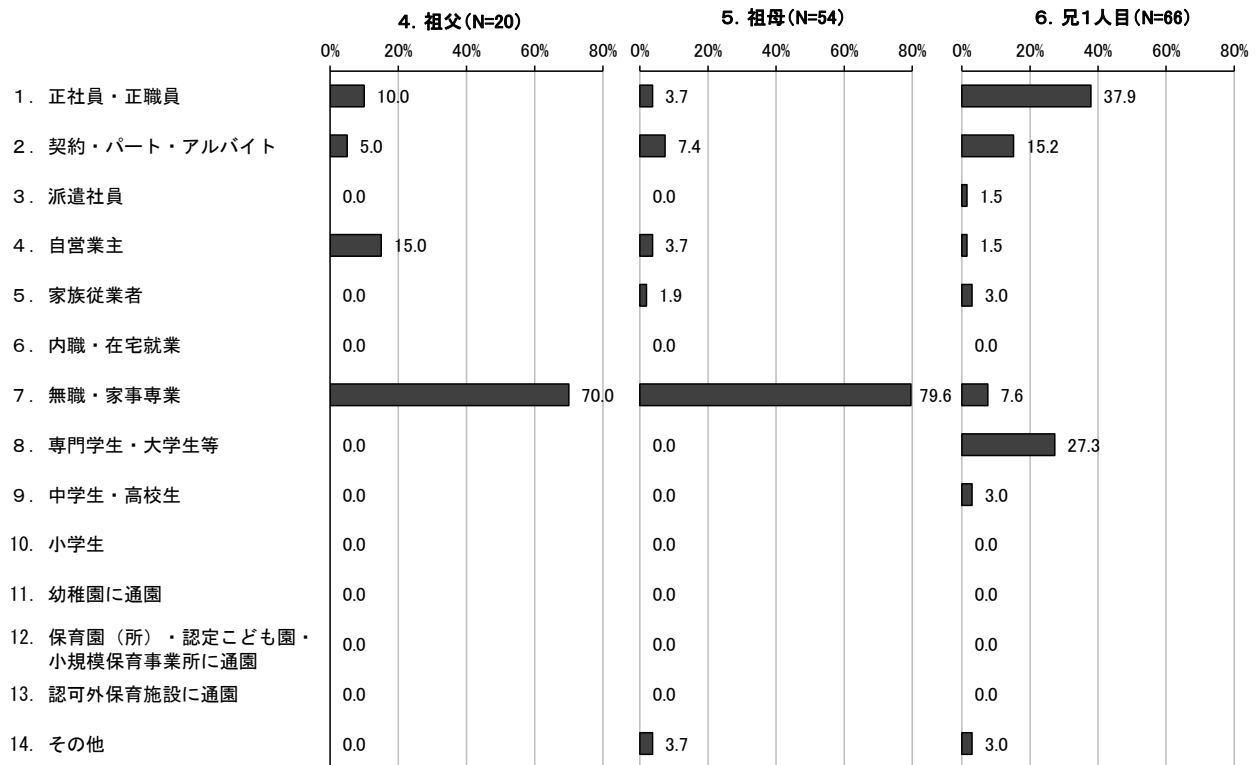
「9. 妹1人目」は、「8. 専門学生・大学生等」が33.3%と最も高くなっています。

「10. 子1人目」「10. 子2人目」「10. 子3人目」は、「10. 小学生」がそれぞれ31.3%、35.2%、34.7%と最も高くなっています。

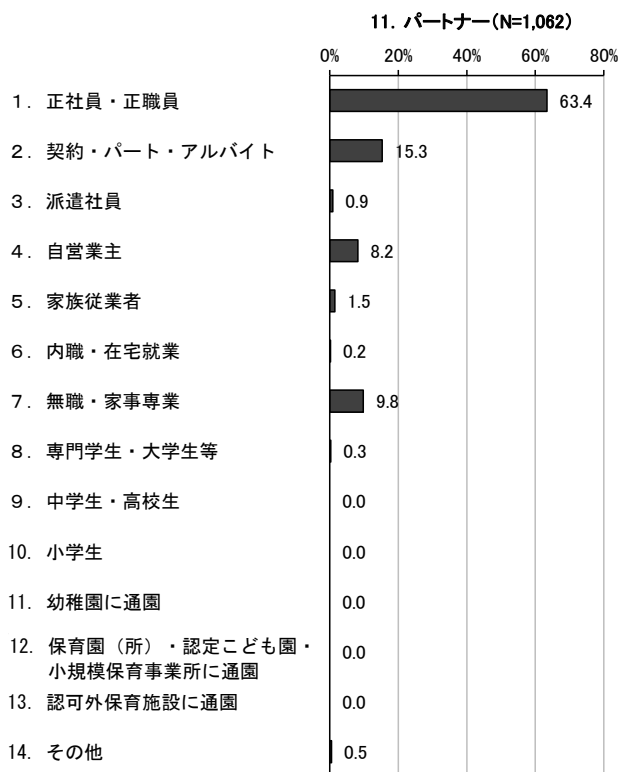
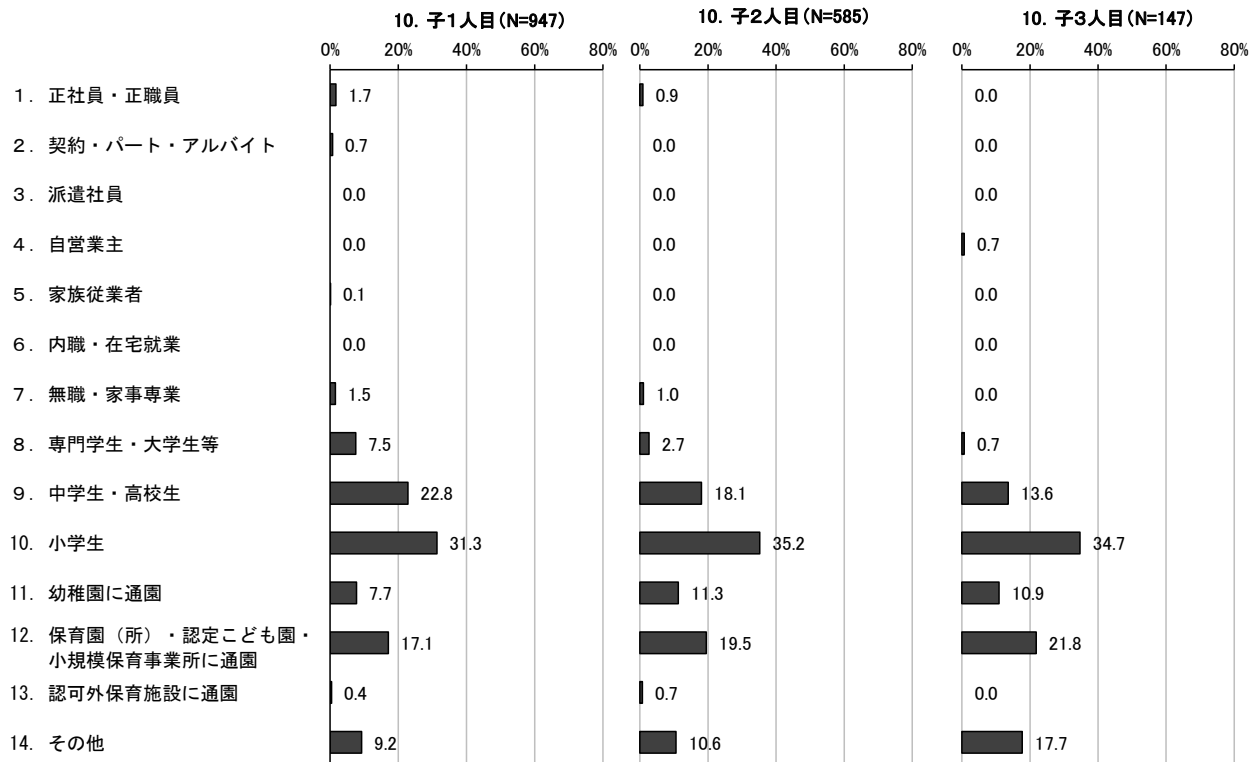


※不明・無回答除く





※不明・無回答除く



※不明・無回答除く

選択肢	回答
6. 兄2人目 (N=2)	正社員・正職員(1人), その他(1人)
8. 弟2人目 (N=8)	契約・パート・アルバイト(1人), 専門学生・大学生等(1人), 中学生・高校生(4人), 小学生(2人)
9. 妹2人目 (N=6)	契約・パート・アルバイト(1人), 専門学生・大学生等(1人), 中学生・高校生(3人), 小学生(1人)
10. 子4人目 (N=21)	中学生・高校生(1人), 小学生(4人), 幼稚園に通園(4人), 保育園(所)・認定こども園・小規模保育事業所に通園(8人), その他(4人)
10. 子5人目 (N=2)	認可外保育施設に通園(1人), その他(1人)
12. その他1人目 (N=24)	正社員・正職員(4人), 契約・パート・アルバイト(4人), 自営業主(4人), 無職・家事専業(9人), 専門学生・大学生等(1人), その他(2人)
12. その他2人目 (N=9)	自営業主(1人), 無職・家事専業(3人), 専門学生・大学生等(2人), 小学生(3人)
12. その他3人目 (N=3)	専門学生・大学生等(1人), 小学生(1人), 幼稚園に通園(1人)
12. その他4人目 (N=2)	正社員・正職員(1人), 保育園(所)・認定こども園・小規模保育事業所に通園(1人)

◆年齢

「1. 本人」は、「7. 45～49歳」が22.5%と最も高く、次いで「6. 40～44歳」が20.1%、「5. 35～39歳」が18.3%となっています。

「2. 父」「3. 母」は、「6. 50歳代」がそれぞれ37.3%、37.6%と最も高くなっています。

「4. 祖父」「5. 祖母」は、「9. 80歳以上」がそれぞれ57.9%、63.0%と最も高くなっています。

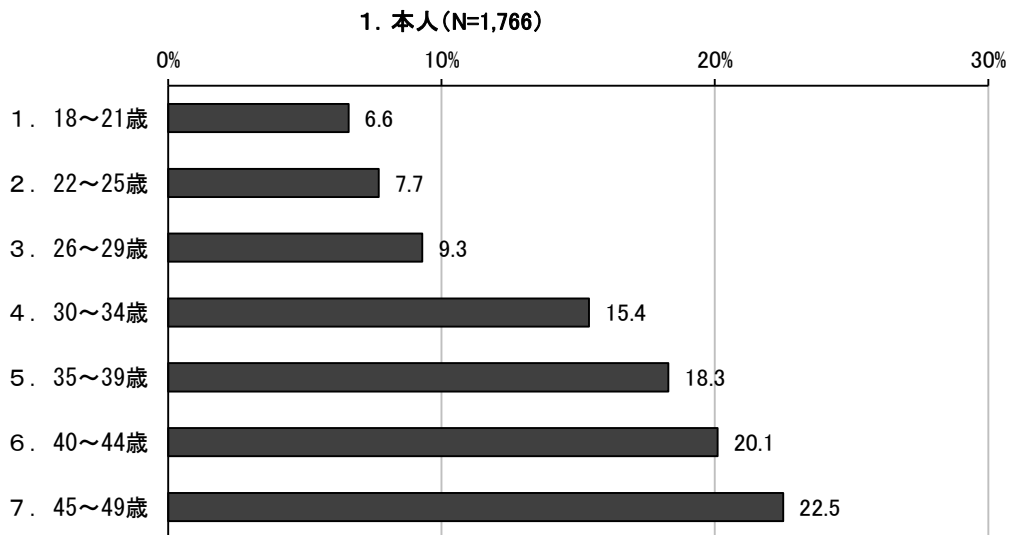
「6. 兄1人目」「7. 姉」は、「3. 20歳代」がそれぞれ60.0%、72.5%と最も高くなっています。

「8. 弟1人目」は、「2. 10歳代」が50.0%と最も高くなっています。

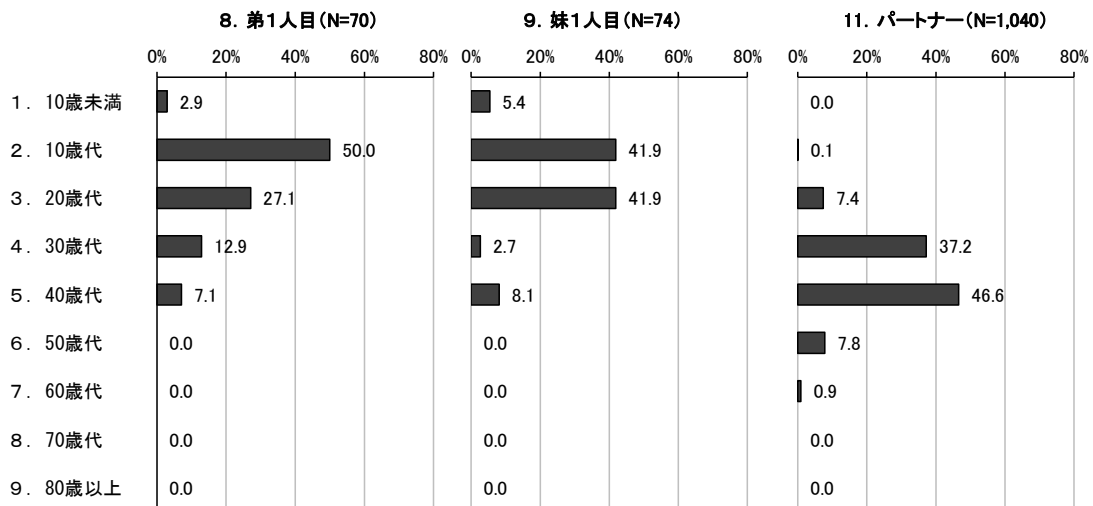
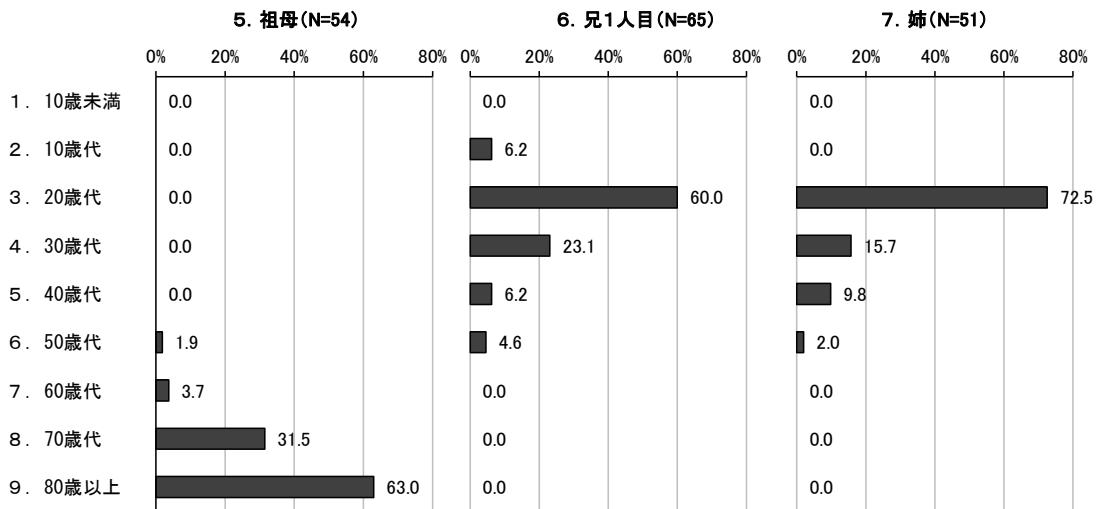
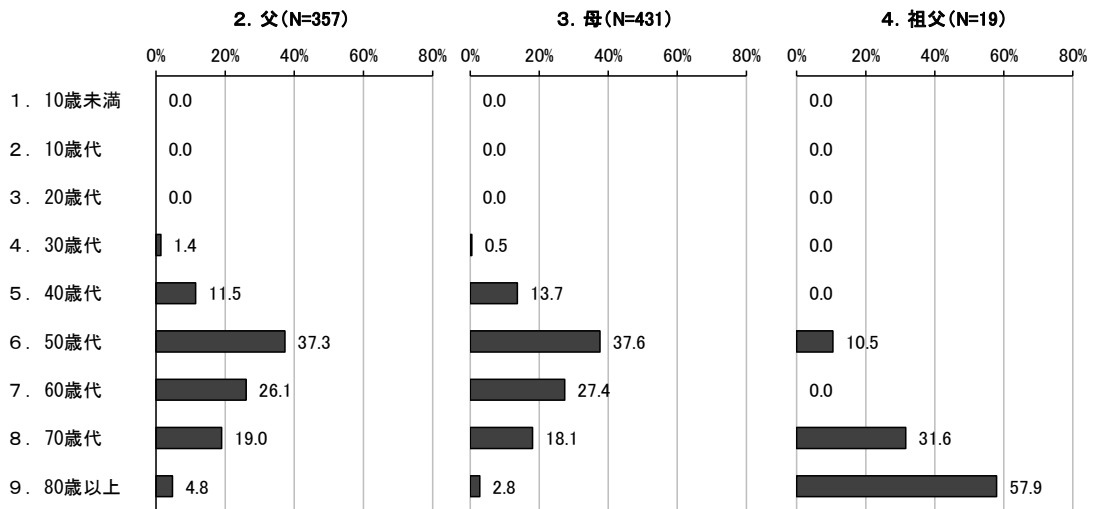
「9. 妹1人目」は、「2. 10歳代」と「3. 20歳代」がともに41.9%と最も高くなっています。

「11. パートナー」は、「5. 40歳代」が46.6%と最も高くなっています。

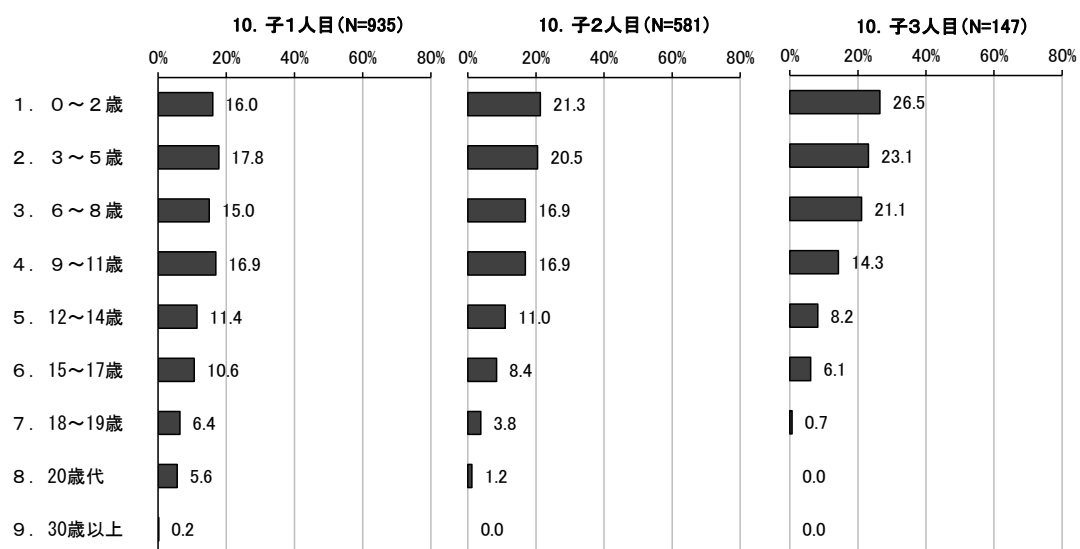
「10. 子1人目」は、「2. 3～5歳」が17.8%、「10. 子2人目」「10. 子3人目」は、「1. 0～2歳」がそれぞれ21.3%、26.5%と最も高くなっています。



※不明・無回答除く



※不明・無回答除く



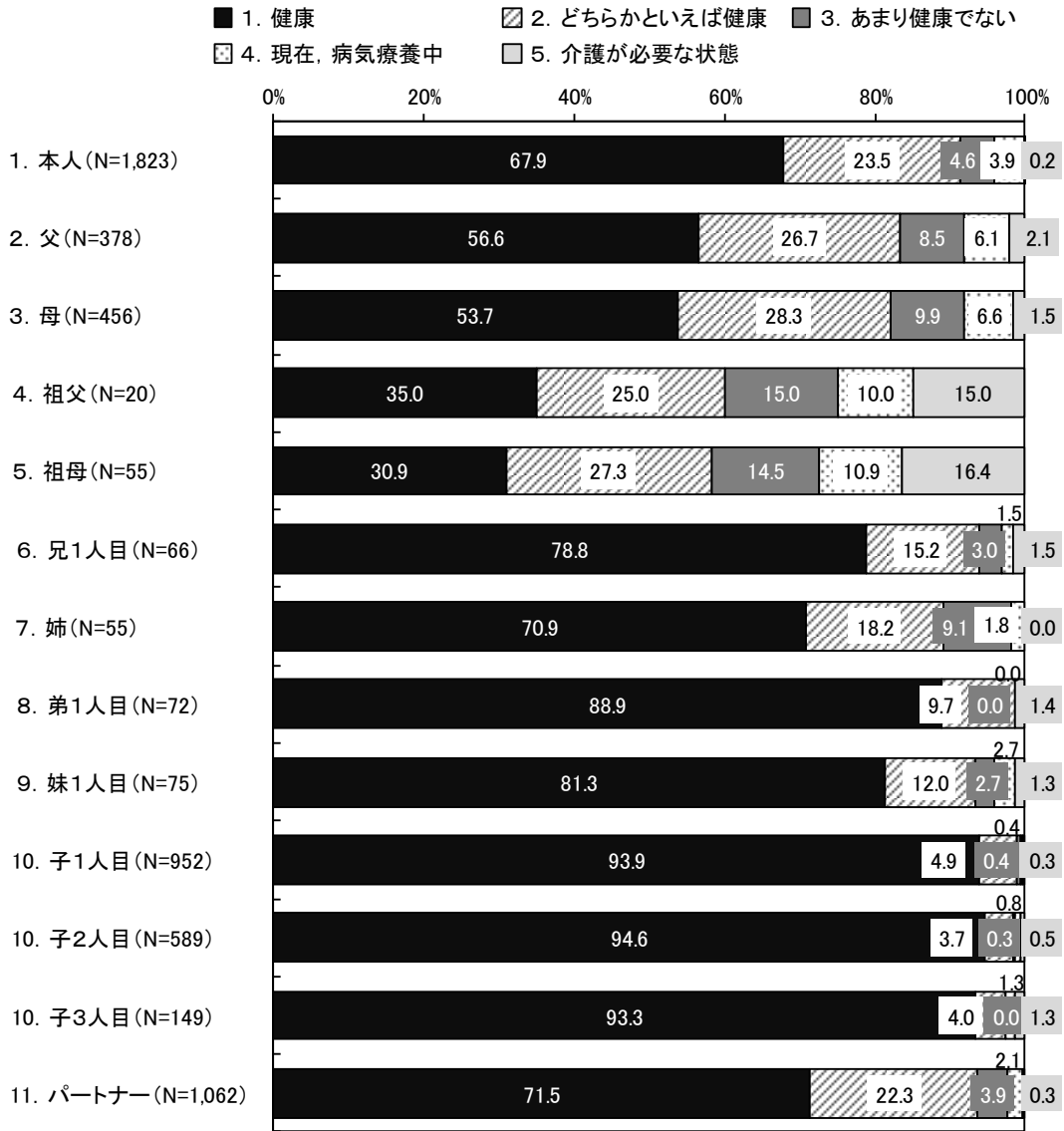
選択肢	回答
6. 兄2人目 (N=2)	20歳代(1人), 30歳代(1人)
8. 弟2人目 (N=7)	10歳未満(1人), 10歳代(5人), 20歳代(1人)
9. 妹2人目 (N=6)	10歳代(5人), 20歳代(1人)
10. 子4人目 (N=21)	0～2歳(7人), 3～5歳(6人), 6～8歳(5人), 9～11歳(1人), 12～14歳(2人)
10. 子5人目 (N=2)	0～2歳(1人), 3～5歳(1人)
12. その他1人目 (N=23)	10歳未満(2人), 20歳代(2人), 30歳代(4人), 40歳代(6人), 50歳代(9人)
12. その他2人目 (N=9)	10歳未満(1人), 10歳代(2人), 20歳代(2人), 50歳代(4人)
12. その他3人目 (N=3)	10歳未満(2人), 10歳代(1人)
12. その他4人目 (N=2)	10歳未満(1人), 50歳代(1人)

※不明・無回答除く

◆健康状態

すべてにおいて「1. 健康」が最も高くなっています。

また、「5. 介護が必要な状態」は、「5. 祖母」が16.4%と最も高く、次いで「4. 祖父」が15.0%となっています。



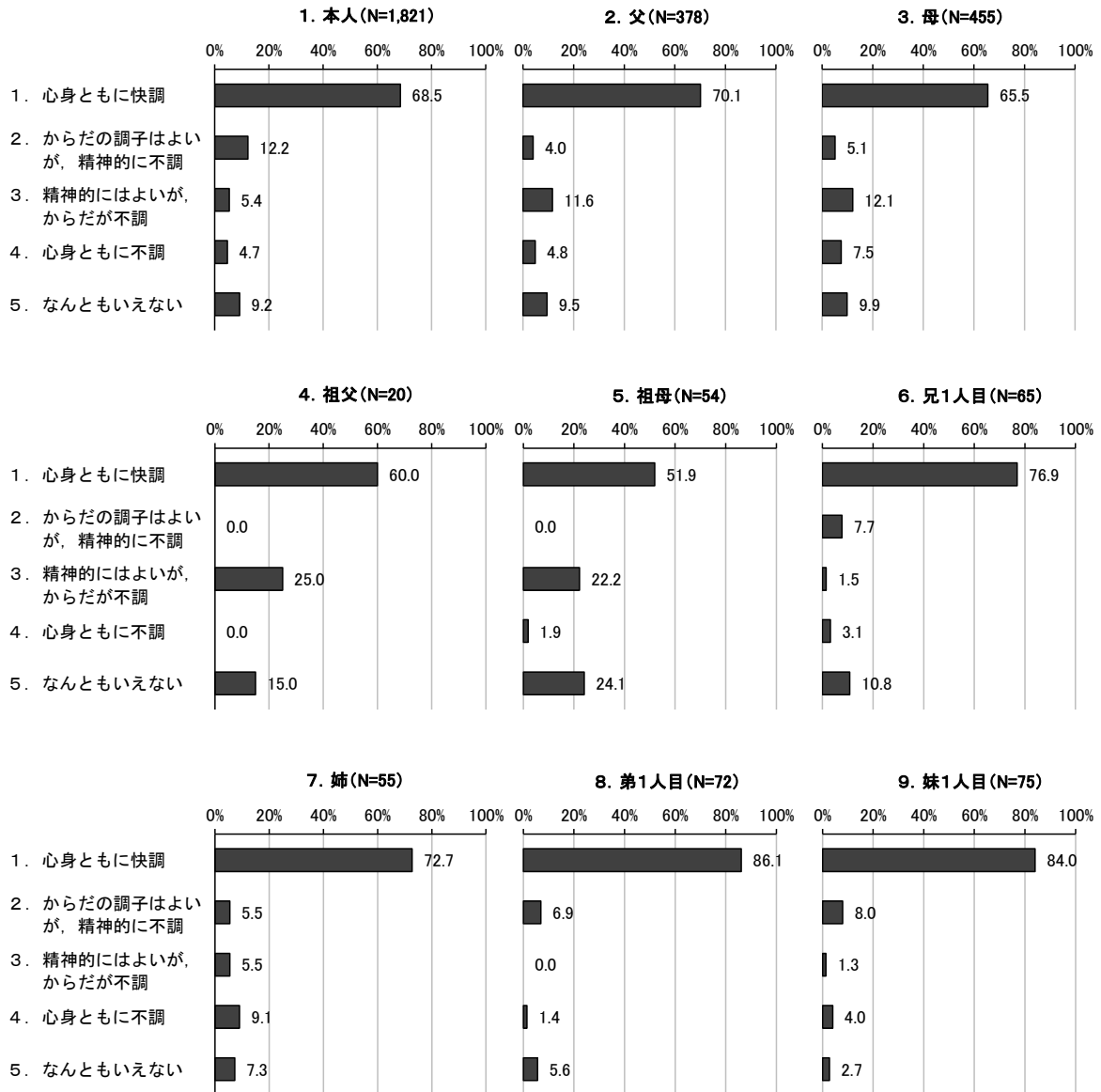
選択肢	回答
6. 兄2人目 (N=2)	健康(2人)
8. 弟2人目 (N=8)	健康(8人)
9. 妹2人目 (N=6)	健康(5人), どちらかといえば健康(1人)
10. 子4人目 (N=21)	健康(20人), どちらかといえば健康(1人)
10. 子5人目 (N=2)	健康(2人)
12. その他1人目 (N=24)	健康(14人), どちらかといえば健康(6人), 現在、病気療養中(2人), 介護が必要な状態(2人)
12. その他2人目 (N=9)	健康(6人), どちらかといえば健康(1人), 現在、病気療養中(1人), 介護が必要な状態(1人)
12. その他3人目 (N=3)	健康(3人)
12. その他4人目 (N=2)	健康(2人)

※不明・無回答除く

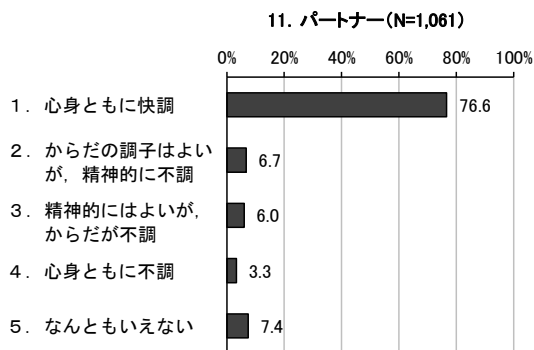
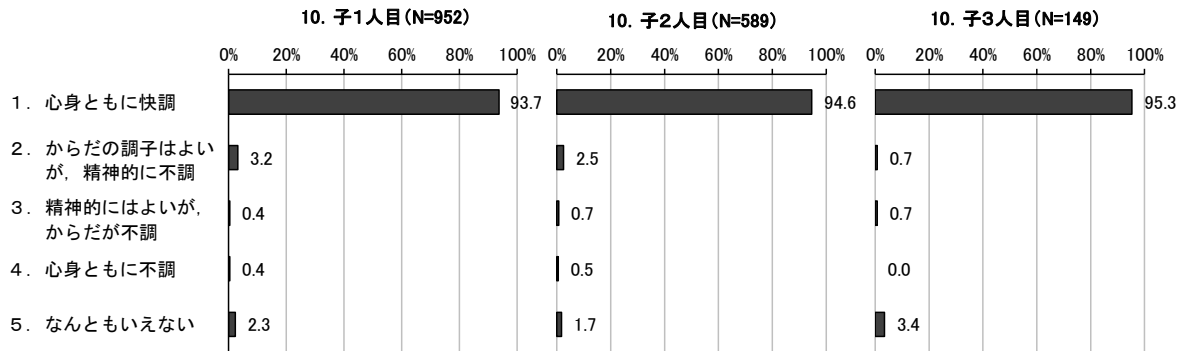
◆心身の状況

すべてにおいて「1. 心身ともに快調」が最も高くなっています。

また、「3. 精神的にはよいが、からだの不調」は、「4. 祖父」が25.0%と最も高く、次いで「5. 祖母」が22.2%となっています。



※不明・無回答除く



選択肢	回答
6. 兄2人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)
8. 弟2人目 (N=8)	心身ともに快調(8人)
9. 妹2人目 (N=6)	心身ともに快調(6人)
10. 子4人目 (N=21)	心身ともに快調(20人), なんともいえない(1人)
10. 子5人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)
12. その他1人目 (N=24)	心身ともに快調(18人), からだの調子はよいが、精神的に不調(1人), 精神的にはよいが、からだの不調(2人), 心身ともに不調(1人), なんともいえない(2人)
12. その他2人目 (N=9)	心身ともに快調(6人), 精神的にはよいが、からだの不調(1人), 心身ともに不調(1人), なんともいえない(1人)
12. その他3人目 (N=3)	心身ともに快調(2人), なんともいえない(1人)
12. その他4人目 (N=2)	心身ともに快調(2人)

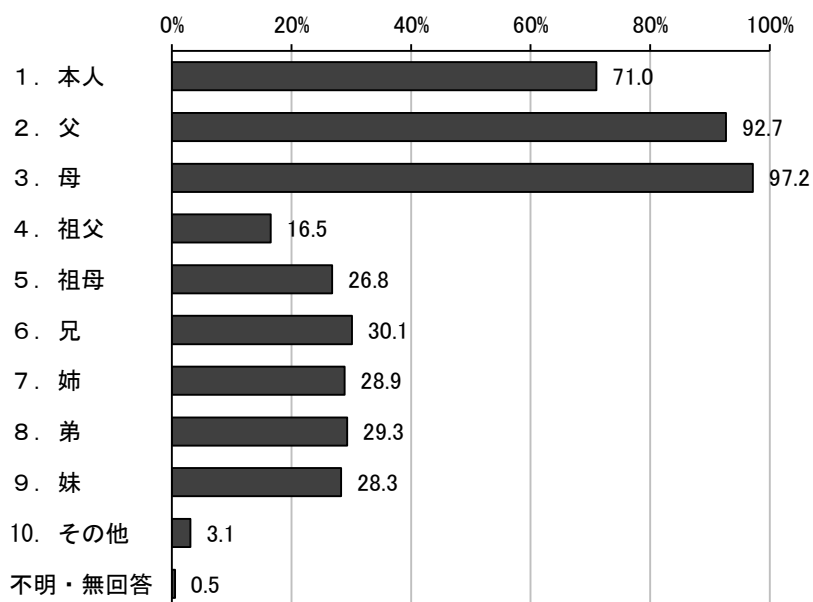
※不明・無回答除く



**問8 あなたが小学6年生（12歳）の頃，どなたと同居されておりましたか。（〇はいくつでも）また，兄弟姉妹については（ ）に人数もご記入ください。**

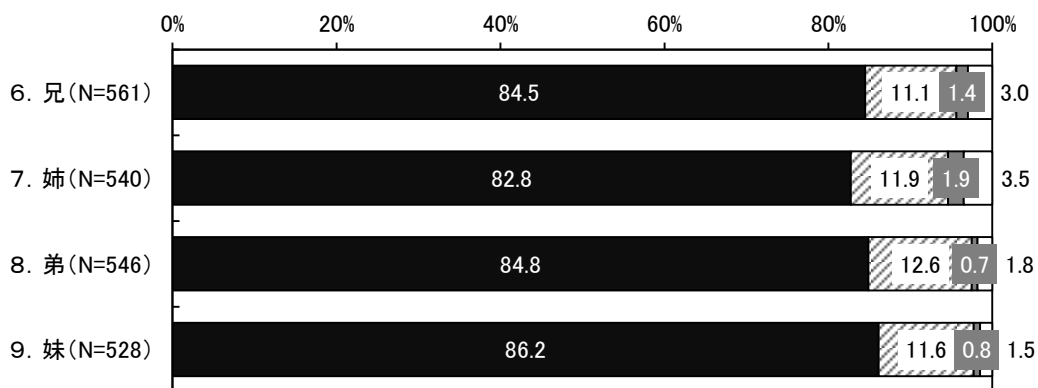
「3. 母」が97.2%と最も高く，次いで「2. 父」が92.7%，「1. 本人」が71.0%となっています。兄弟姉妹の人数は，すべての項目で「1. 1人」が最も高くなっています。

(N=1,866)



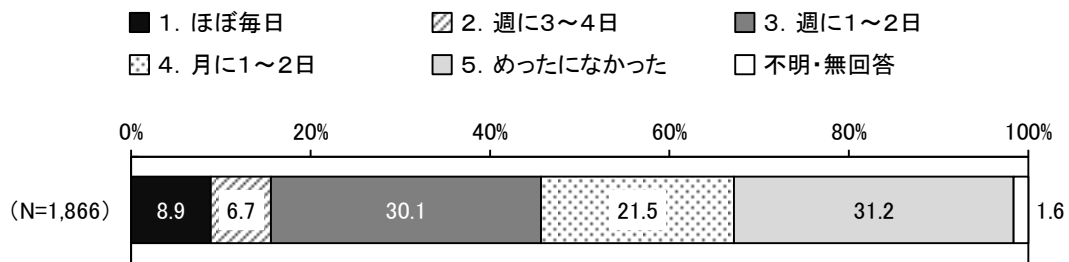
**◆兄弟姉妹の人数**

■ 1. 1人    ▨ 2. 2人    ■ 3. 3人以上    □ 不明・無回答



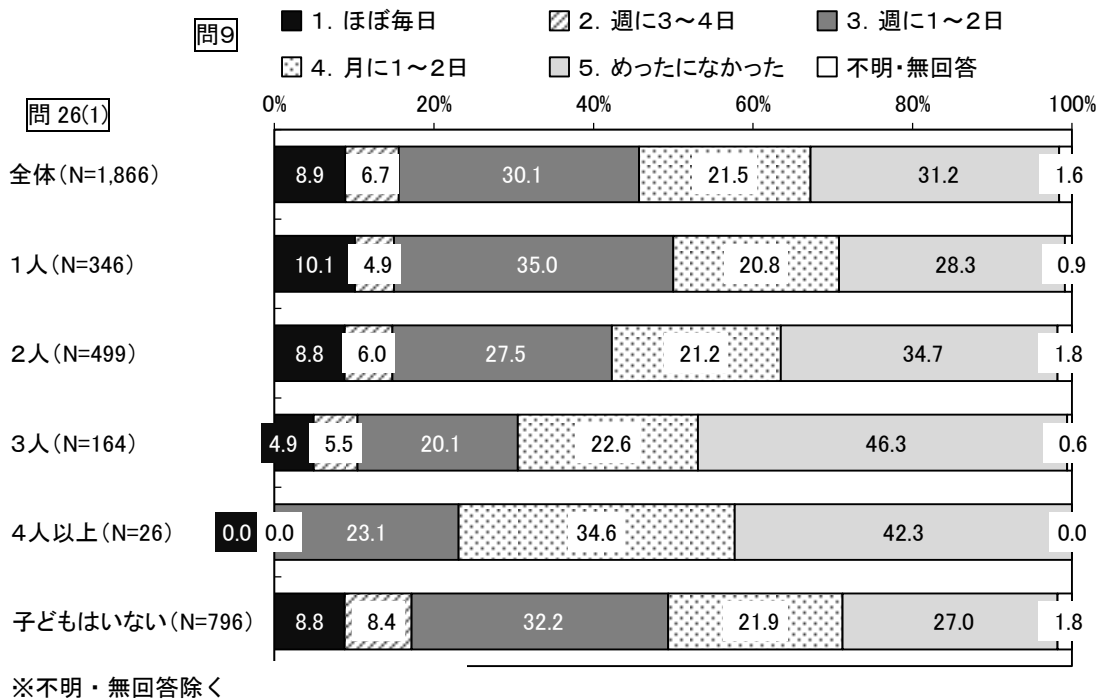
**問9 あなたは、12歳の頃、親や保護者と遊ぶ機会は、どの程度ありましたか。(〇は1つ)**

「5. めったになかった」が31.2%と最も高く、次いで「3. 週に1～2日」が30.1%、「4. 月に1～2日」が21.5%となっています。



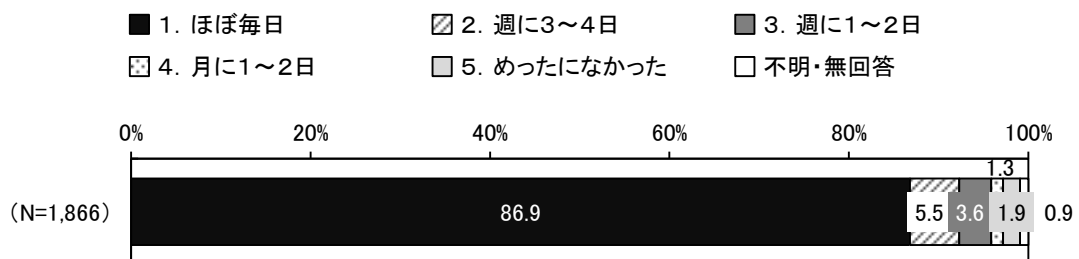
**《問9 12歳の頃に親等と遊んだ頻度×問26(1)子どもの人数別》**

「1人」「子どもはいない」では「3. 週に1～2日」、それ以外の区分では「5. めったになかった」の割合が最も高くなっています。



**問10 あなたは、12歳の頃、親や保護者と一緒に食事をする機会は、どの程度ありましたか。(〇は1つ)**

「1. ほぼ毎日」が86.9%と最も高く、次いで「2. 週に3～4日」が5.5%、「3. 週に1～2日」が3.6%となっています。

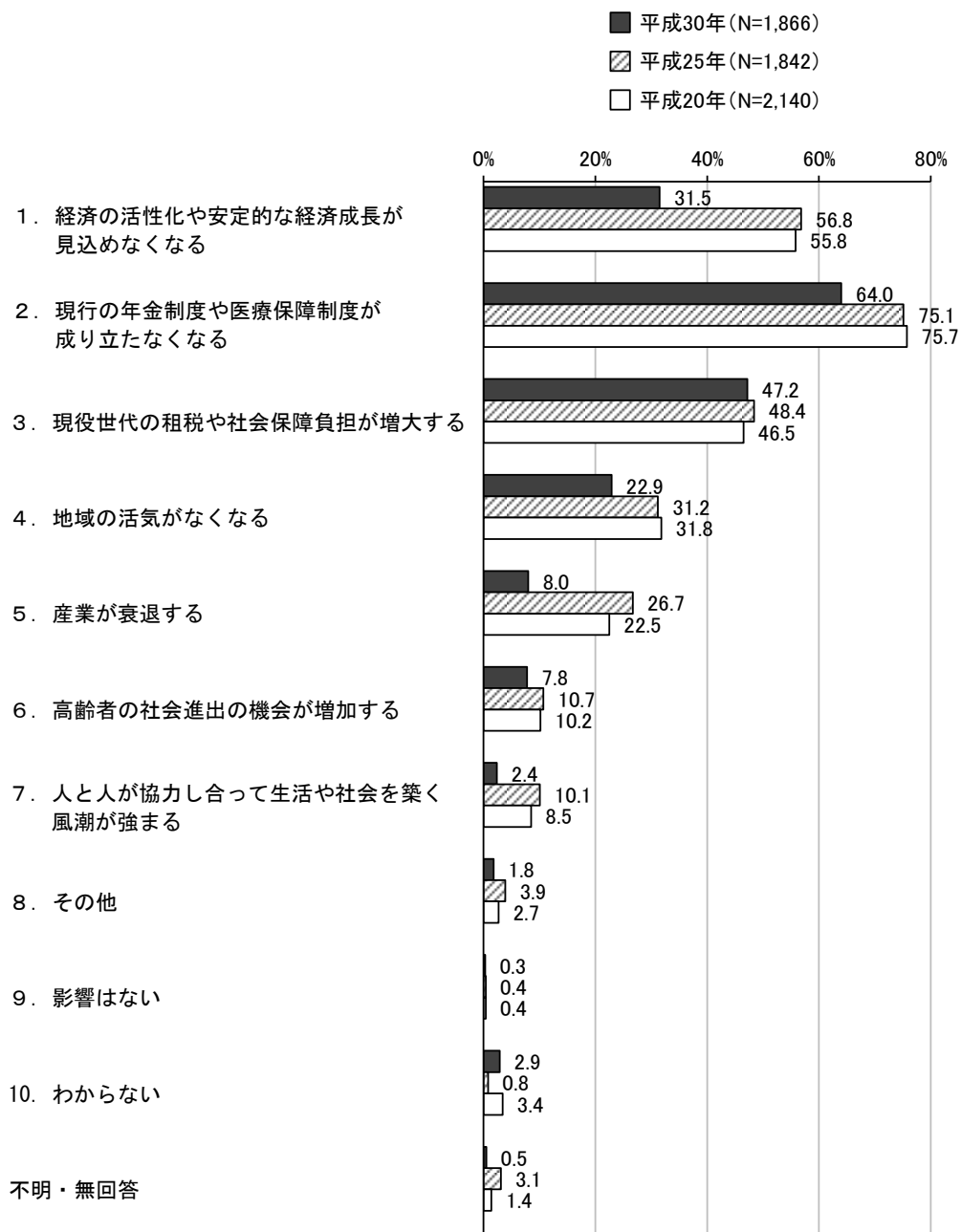


## 2 少子化について

### 問 11 少子化は社会にどのような影響を与えますか。(〇は2つまで)

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」が64.0%と最も高く、次いで「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大する」が47.2%、「1. 経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が31.5%となっています。

過去調査と比較すると、「1. 経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が平成25年より25.3ポイント、平成20年より24.3ポイント、「5. 産業が衰退する」が平成25年より18.7ポイント、平成20年より14.5ポイント低くなっています。



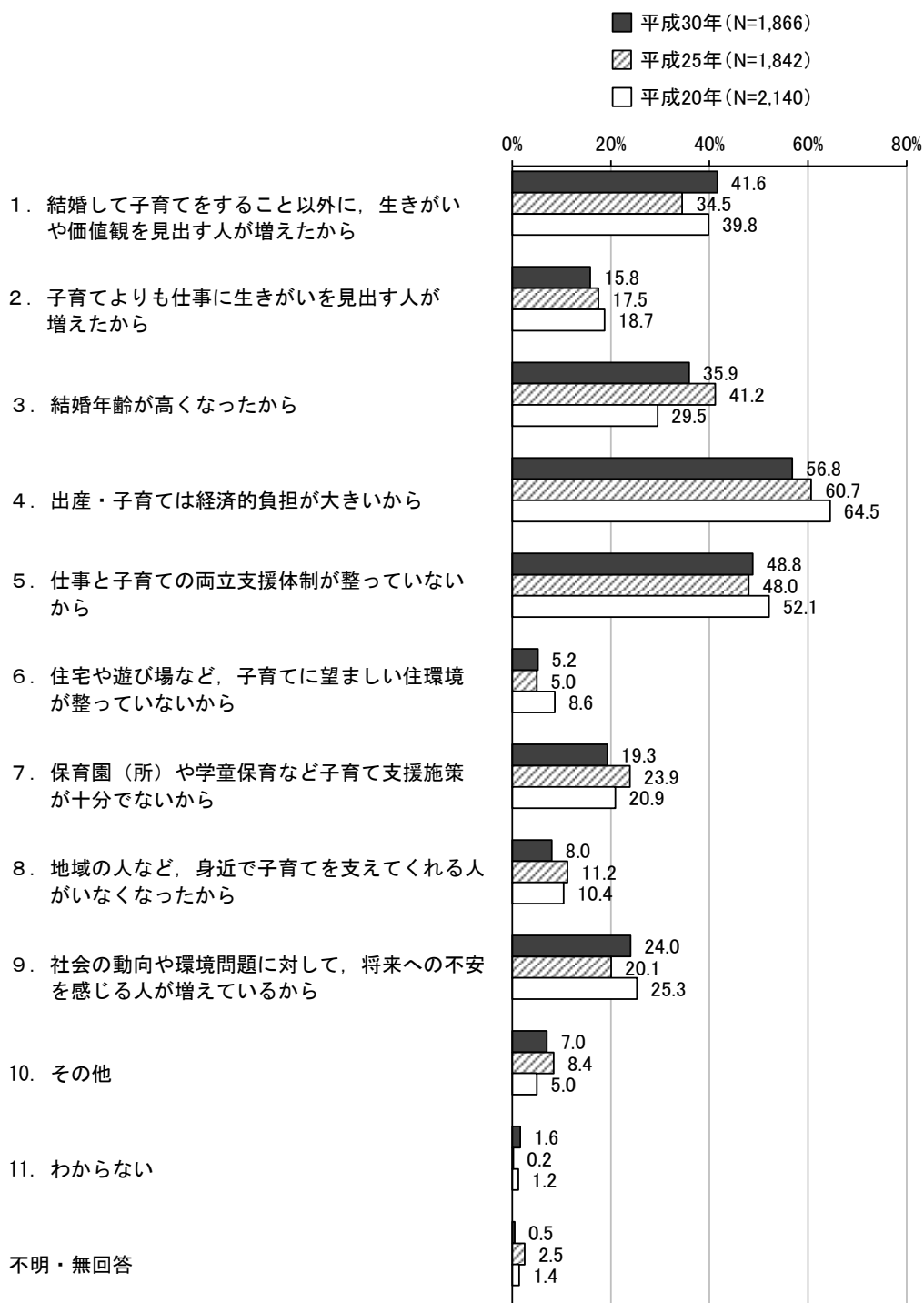
※「6. 高齢者の社会進出の機会が増加する」は、平成25年、平成20年では「就労人口が減少し、女性や高齢者の社会進出の機会が増加する」

※「7. 人と人が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる」は、平成25年、平成20年では「女性の就労が促進され、男女が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる」

**問 12 出生率（総人口に対する，1年間に生まれた子どもの数の割合）が低い主な原因は何だと思えますか。（〇は3つまで）**

「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」が56.8%と最も高く，次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」が48.8%，「1. 結婚して子育てをすること以外に，生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が41.6%となっています。

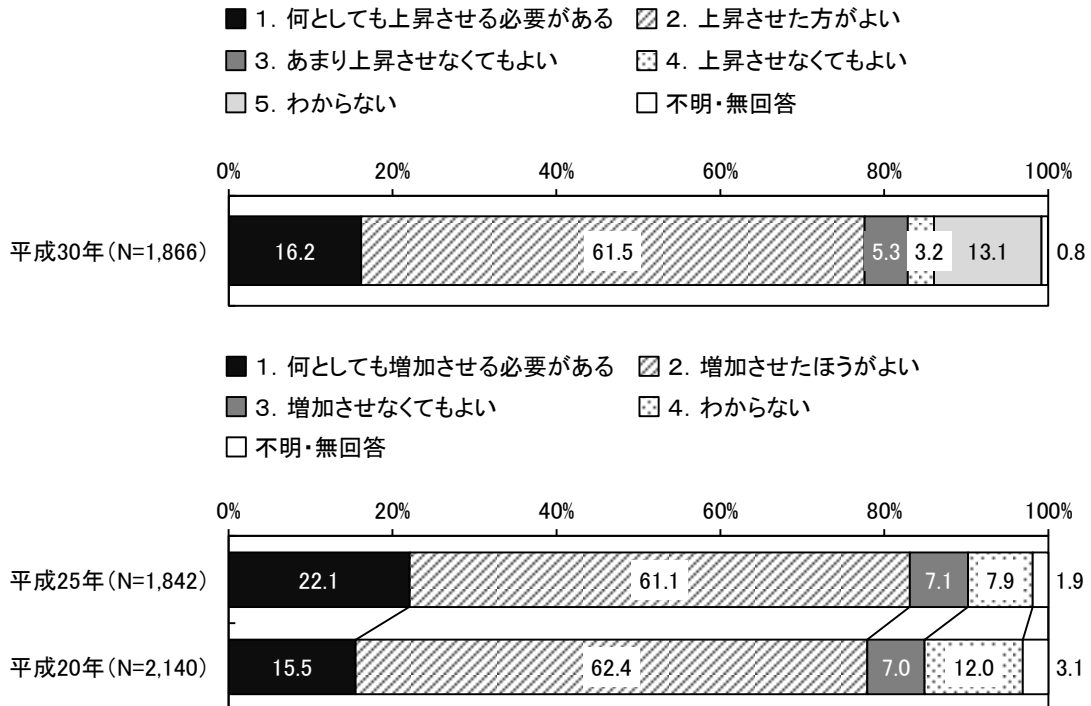
平成25年と比較すると，「1. 結婚して子育てをすること以外に，生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が7.1ポイント高く，「3. 結婚年齢が高くなったから」が5.3ポイント低く，平成20年と比較すると，「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」が7.7ポイント低く，「3. 結婚年齢が高くなったから」が6.4ポイント高くなっています。



**問 13 あなたは、出生率の上昇が必要だと思いますか。(〇は1つ)**

「2. 上昇させた方がよい」が61.5%と最も高く、次いで「1. 何としても上昇させる必要がある」が16.2%、「5. わからない」が13.1%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 何としても上昇させる必要がある」(平成25年では「1. 何としても増加させる必要がある」)が5.9ポイント低くなっています。



問 14(1) 以下のそれぞれの取組・施策について、少子化対策として効果があると思いますか。

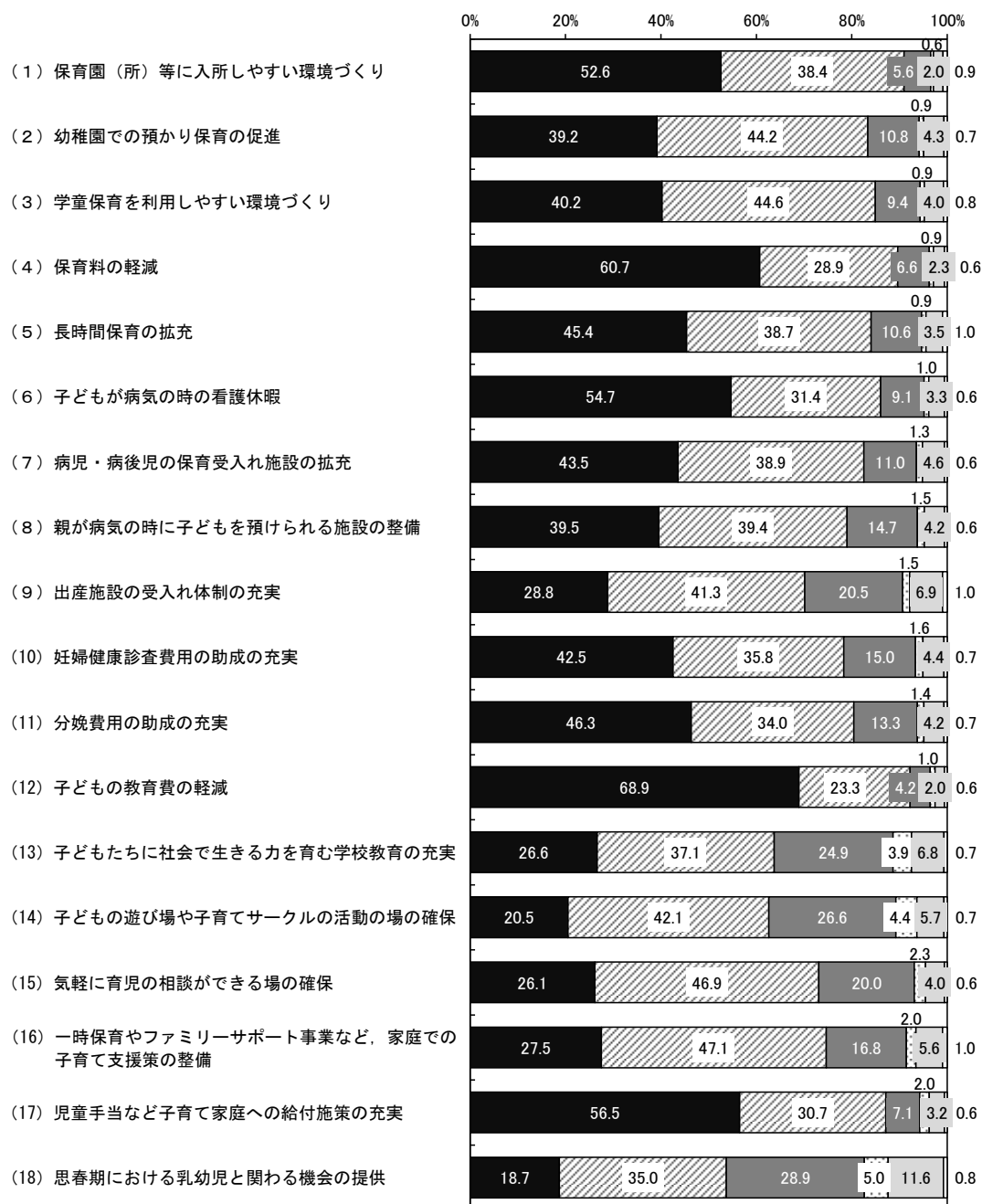
(○はそれぞれ1つつつ)

「効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）」は、[(12) 子どもの教育費の軽減]が92.2%と最も高く、次いで[(1) 保育園（所）等に入所しやすい環境づくり]が91.0%、[(4) 保育料の軽減]が89.6%となっています。

「効果はない（「3. あまり効果はない」と「4. まったく効果はない」の合計）」は、[(18) 思春期における乳幼児と関わる機会の提供]が33.9%と最も高く、次いで[(14) 子どもの遊び場や子育てサークルの活動の場の確保]が31.0%となっています。

平成30年(N=1,866)

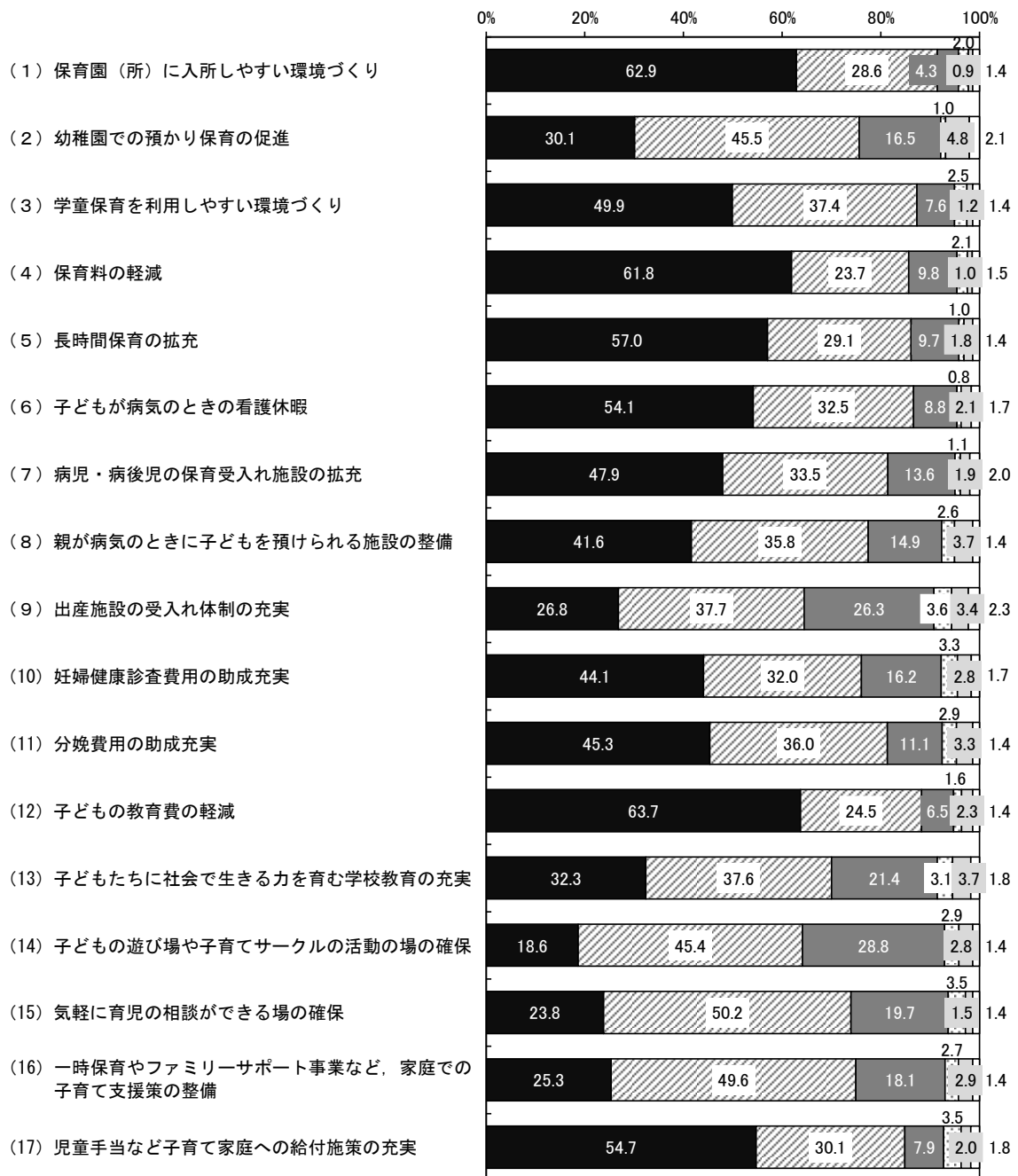
- 1. かなり効果がある
- ▨ 2. 少しは効果がある
- 3. あまり効果はない
- ▨ 4. まったく効果はない
- 5. わからない
- 不明・無回答



平成 25 年と比較すると、「効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）」では、[(2) 幼稚園での預かり保育の促進] が 7.8 ポイント高く、[(13) 子どもたちに社会で生きる力を育む学校教育の充実] が 6.2 ポイント低くなっています。

平成25年(N=1,842)

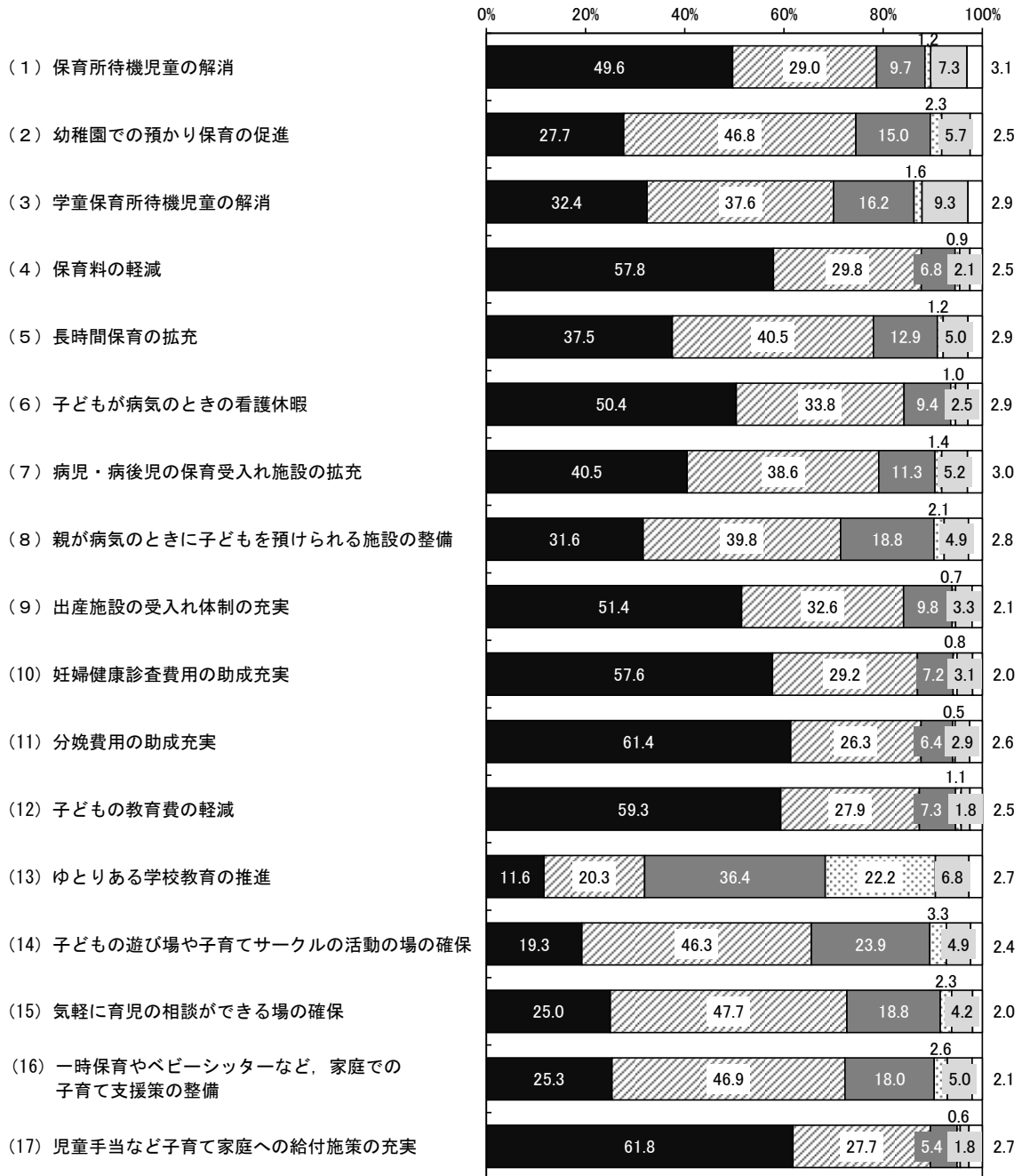
- 1. かなり効果がある
- ▨ 2. 少しは効果がある
- 3. あまり効果はない
- 4. 全く効果はない
- 5. わからない
- 不明・無回答



※参考（平成 20 年）

平成20年(N=2,140)

- 1. かなり効果がある
- ▨ 2. 少しは効果がある
- 3. あまり効果はない
- ▨ 4. 全く効果はない
- 5. わからない
- 不明・無回答





問 14(2) 以下のそれぞれの取組について、少子化対策として効果があると思いますか。

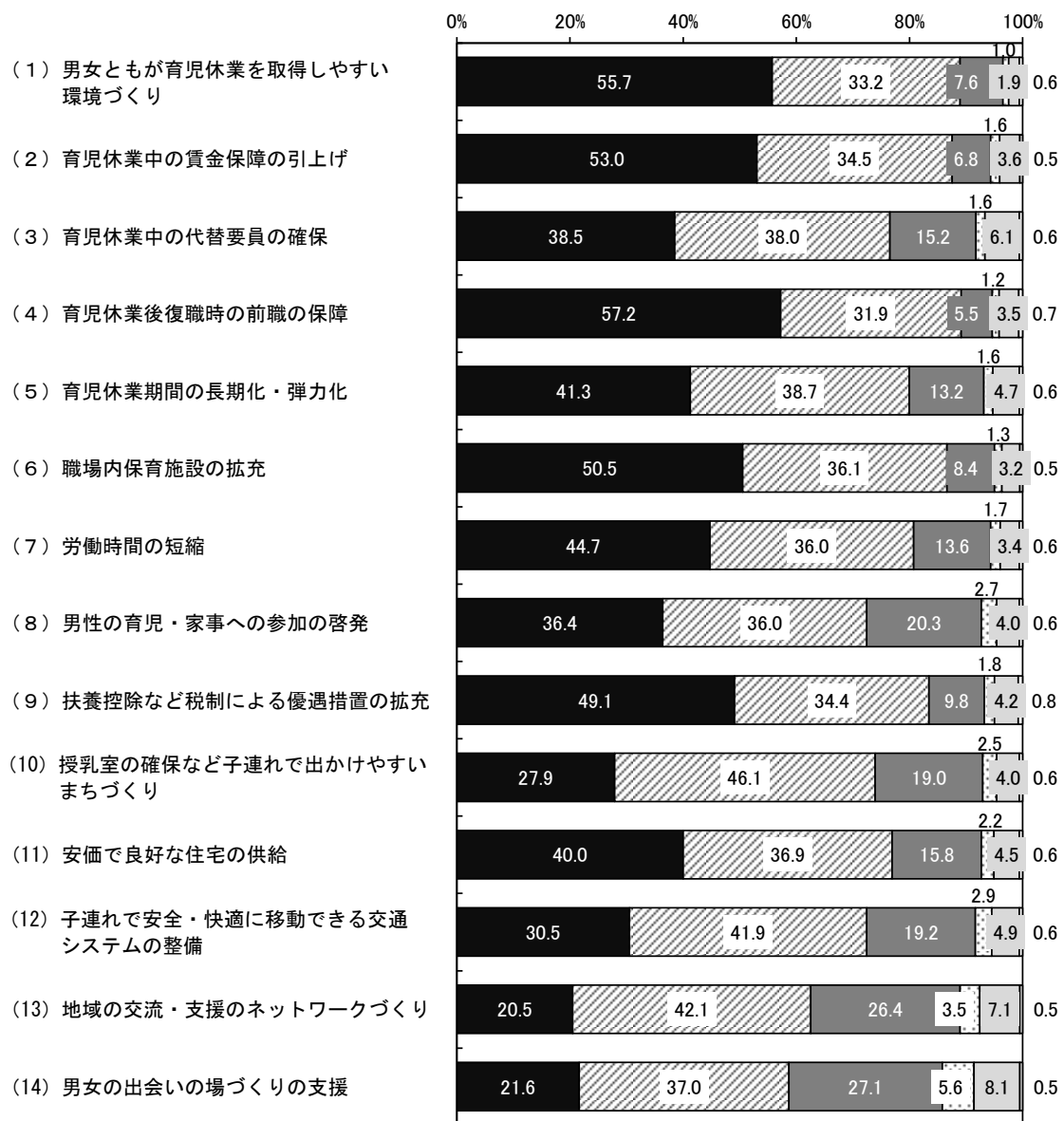
(○はそれぞれ1つずつ)

「効果がある(「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計)」は、[(4) 育児休業後復職時の前職の保障]が89.1%と最も高く、次いで[(1) 男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり]が88.9%、[(2) 育児休業中の賃金保障の引上げ]が87.5%となっています。

「効果はない(「3. あまり効果はない」と「4. まったく効果はない」の合計)」は、[(14) 男女の出会いの場づくりの支援]が32.7%と最も高く、次いで[(13) 地域の交流・支援のネットワークづくり]が29.9%となっています。

平成30年(N=1,866)

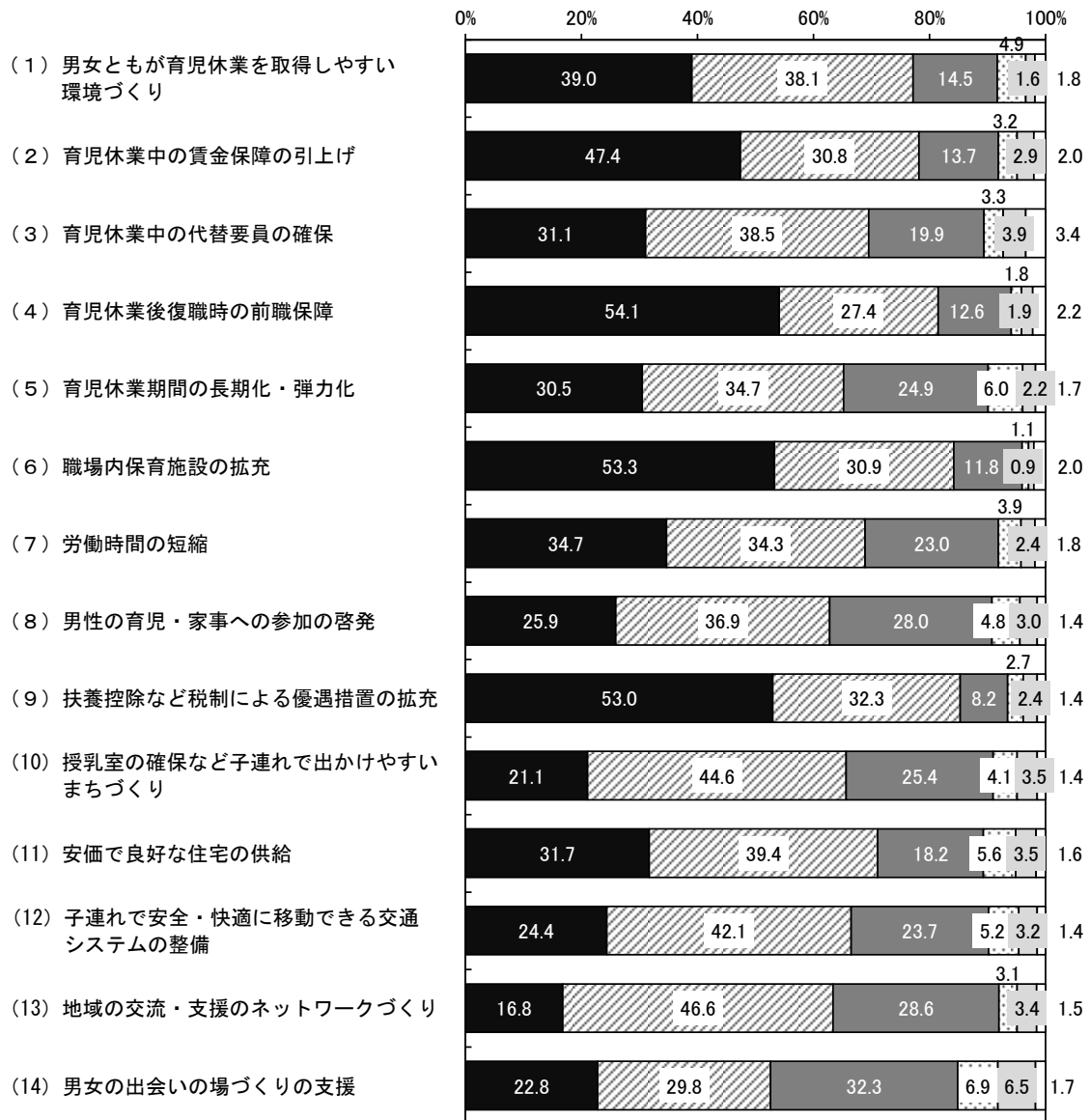
- 1. かなり効果がある
- ▨ 2. 少しは効果がある
- 3. あまり効果はない
- 4. まったく効果はない
- 5. わからない
- 不明・無回答



平成25年と比較すると、「効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）」では，[(5) 育児休業期間の長期化・弾力化] が 14.8 ポイント，[(1) 男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり] が 11.8 ポイント，[(7) 労働時間の短縮] が 11.7 ポイント高くなっています。

平成25年(N=1,842)

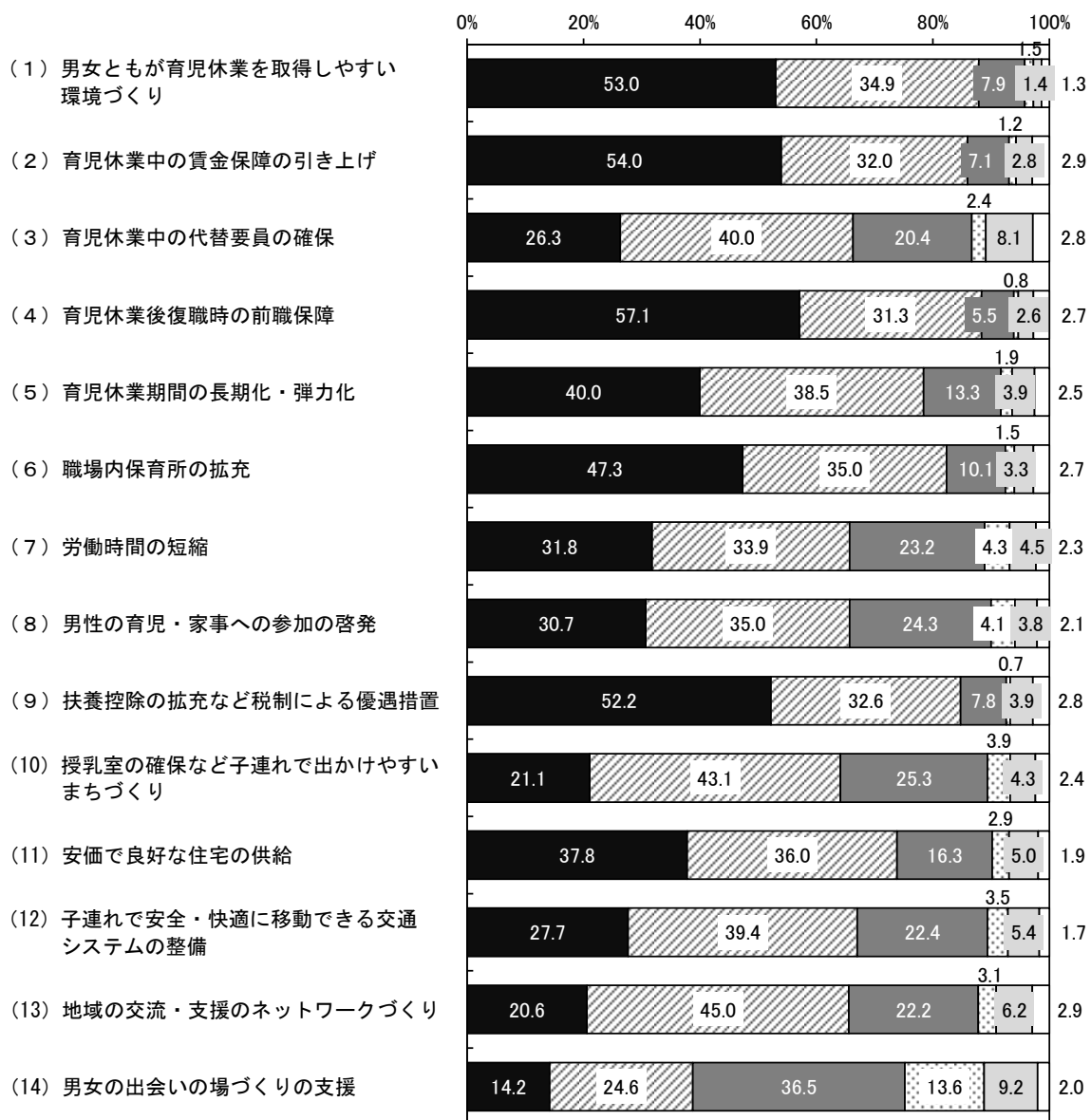
- 1. かなり効果がある
- ▨ 2. 少しは効果がある
- 3. あまり効果はない
- ▨ 4. 全く効果はない
- 5. わからない
- 不明・無回答



平成20年と比較すると、「効果がある（「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」の合計）」では、[(14) 男女の出会いの場づくりの支援] が19.8ポイント、[(7) 労働時間の短縮] が15.0ポイント、[(3) 育児休業中の代替要員の確保] が10.2ポイント高くなっています。

平成20年(N=2,140)

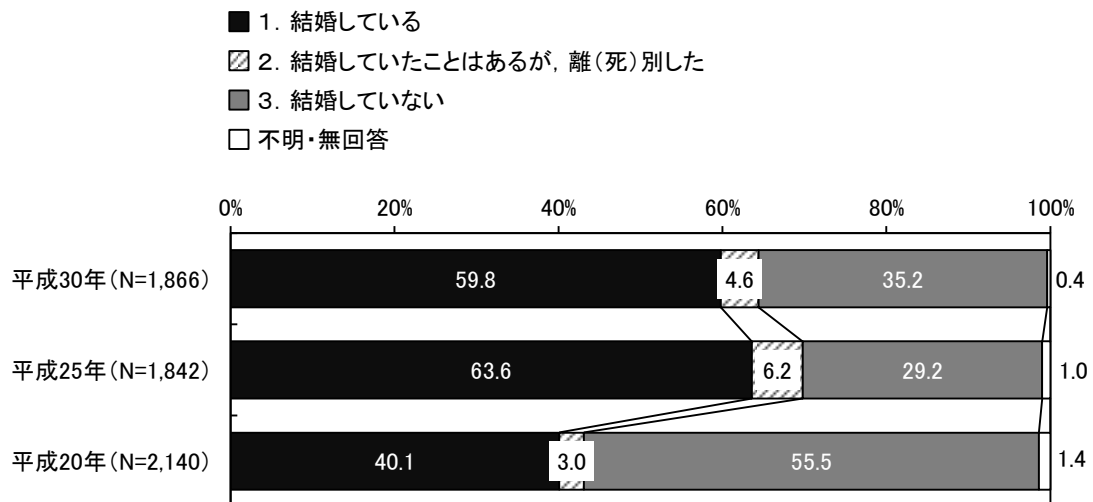
■ 1. かなり効果がある      ▨ 2. 少しは効果がある  
 ■ 3. あまり効果はない      ▩ 4. 全く効果はない  
 □ 5. わからない            □ 不明・無回答



### 3 結婚について

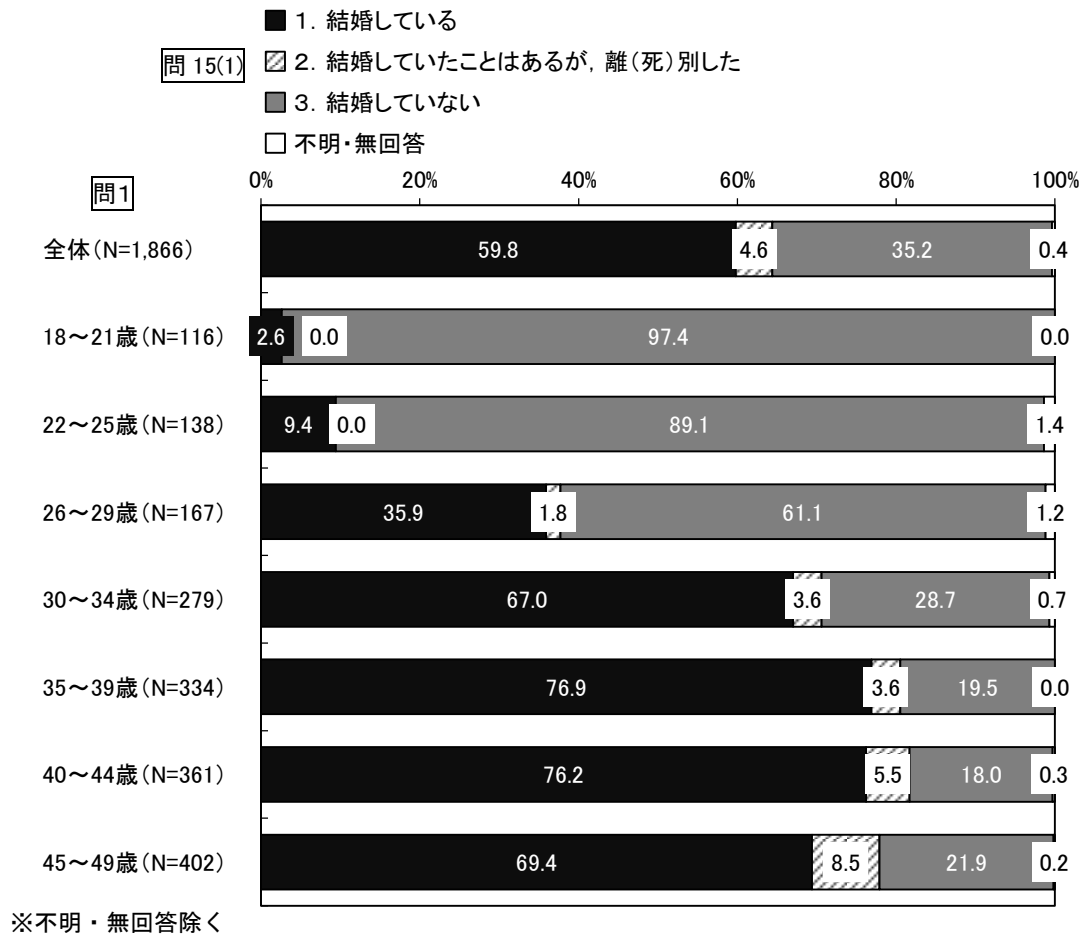
問 15(1) あなたは結婚(入籍していないいわゆる事実婚も含みます)していますか。(〇は1つ)

「1. 結婚している」が59.8%と最も高く、次いで「3. 結婚していない」が35.2%となっています。



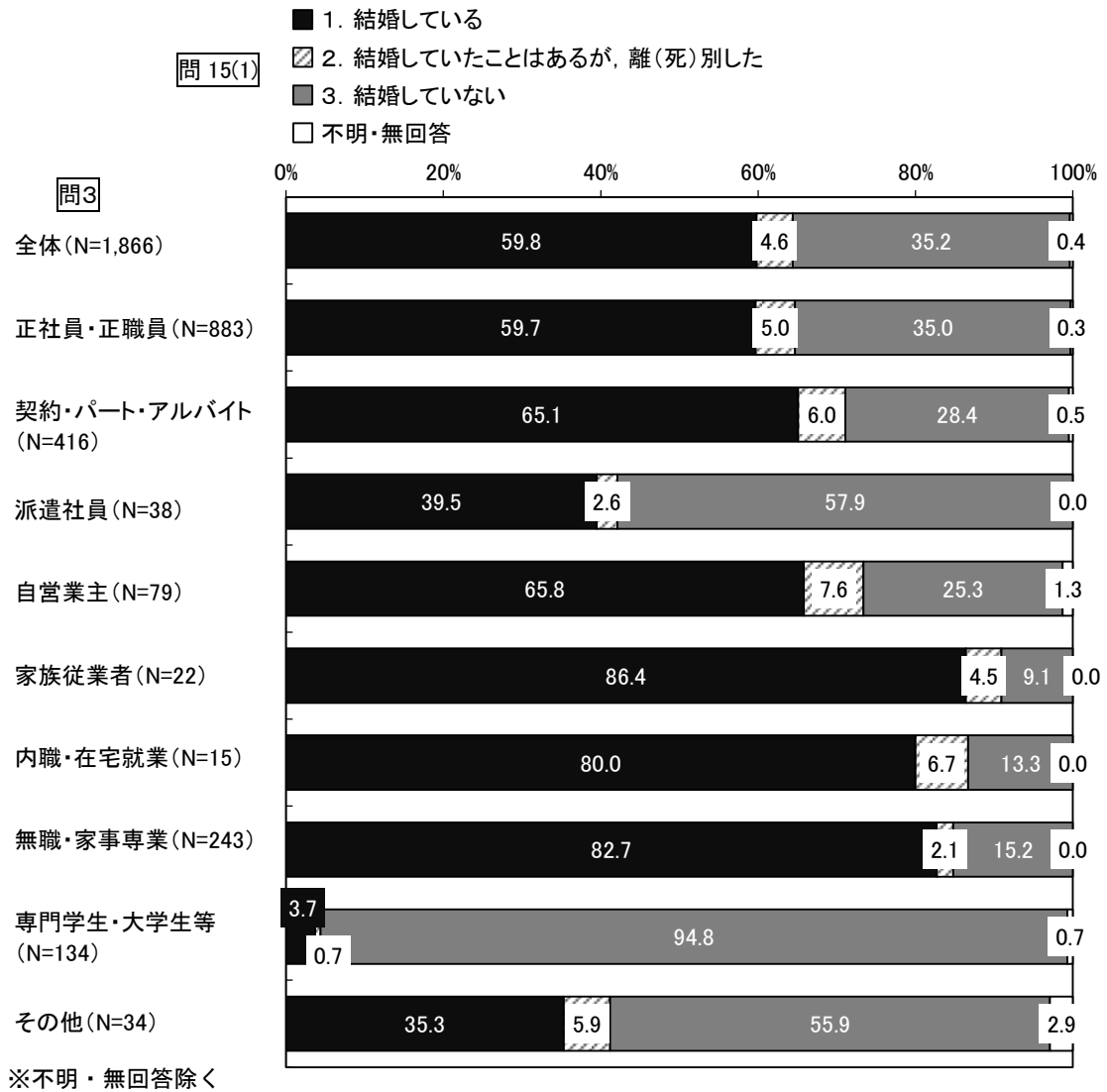
《問 15(1)結婚の有無×問 1 年齢別》

18～29 歳では「3. 結婚していない」、30 歳以上では「1. 結婚している」の割合が最も高くなっています。



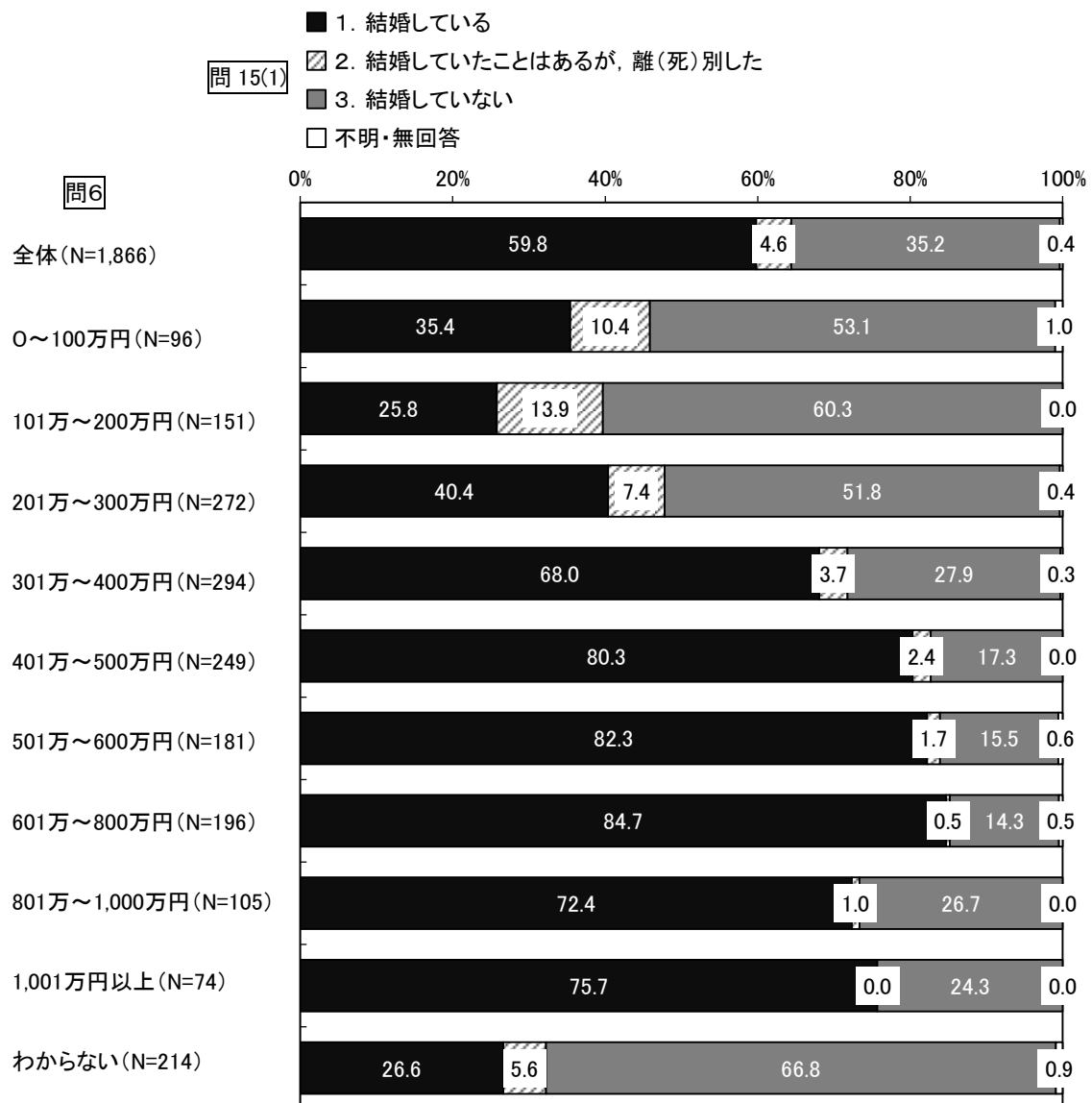
《問 15(1)結婚の有無×問 3 就労形態別》

「正社員・正職員」「契約・パート・アルバイト」「自営業主」「家族従業者」「内職・在宅就業」「無職・家事専業」では「1. 結婚している」,「派遣社員」「専門学生・大学生等」「その他」では「3. 結婚していない」の割合が最も高くなっています。



《問 15(1)結婚の有無×問 6 昨年 1 年間の可処分所得別》

「0～100万円」「101万～200万円」「201万～300万円」「わからない」では「3. 結婚していない」、それ以外の区分では「1. 結婚している」の割合が最も高くなっています。



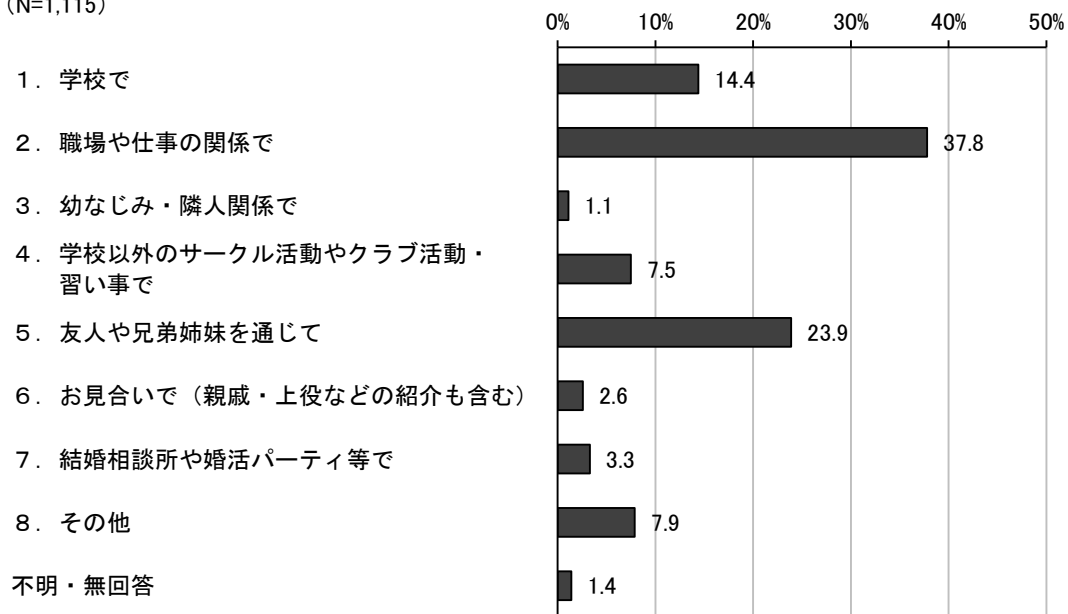
※不明・無回答除く

問 15(1)で「1」と答えた方

問 15(2) 結婚相手とはどのように知り合いましたか。(〇は1つ)

「2. 職場や仕事の関係で」が37.8%と最も高く、次いで「5. 友人や兄弟姉妹を通じて」が23.9%、「1. 学校で」が14.4%となっています。

(N=1,115)



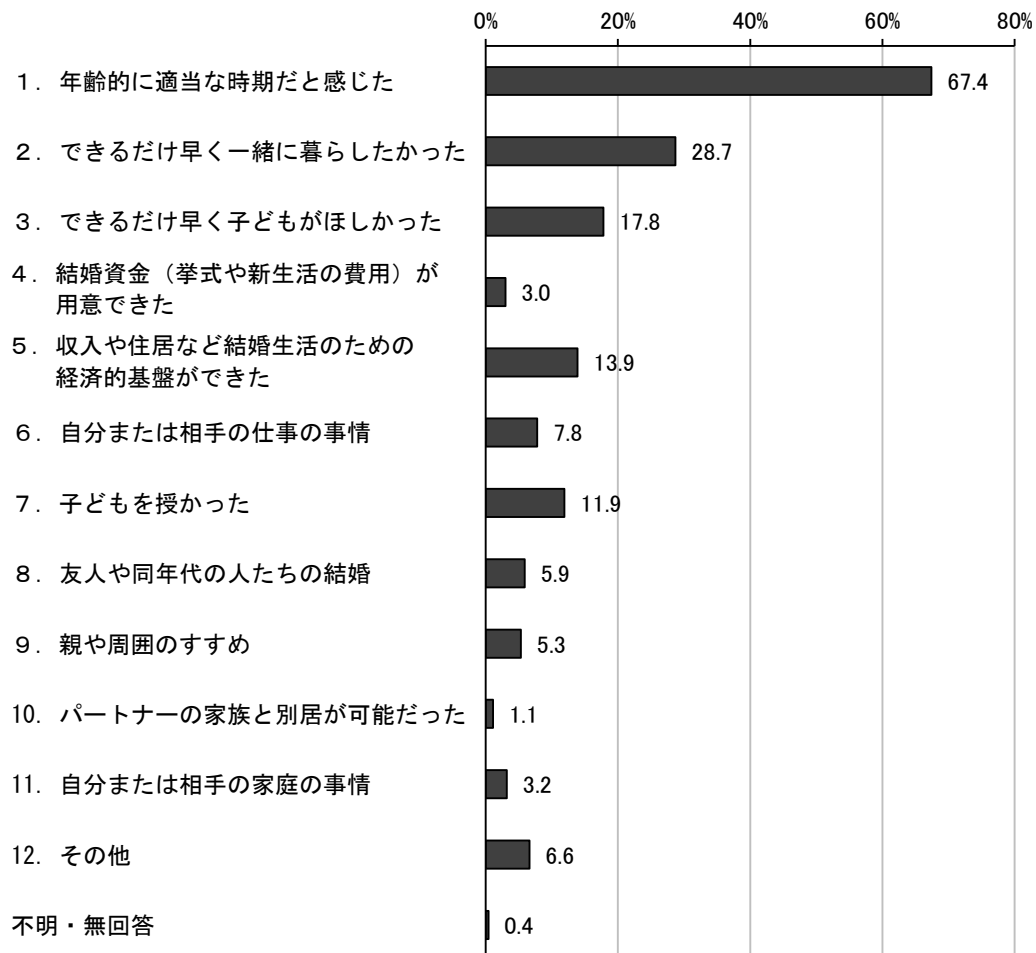


問 15(1)で「1」と答えた方

問 15(3) 最終的に結婚を決めた時の直接のきっかけは何ですか。(〇は3つまで)

「1. 年齢的に適当な時期だと感じた」が67.4%と最も高く、次いで「2. できるだけ早く一緒に暮らしたかった」が28.7%、「3. できるだけ早く子どもがほしかった」が17.8%となっています。

(N=1,115)

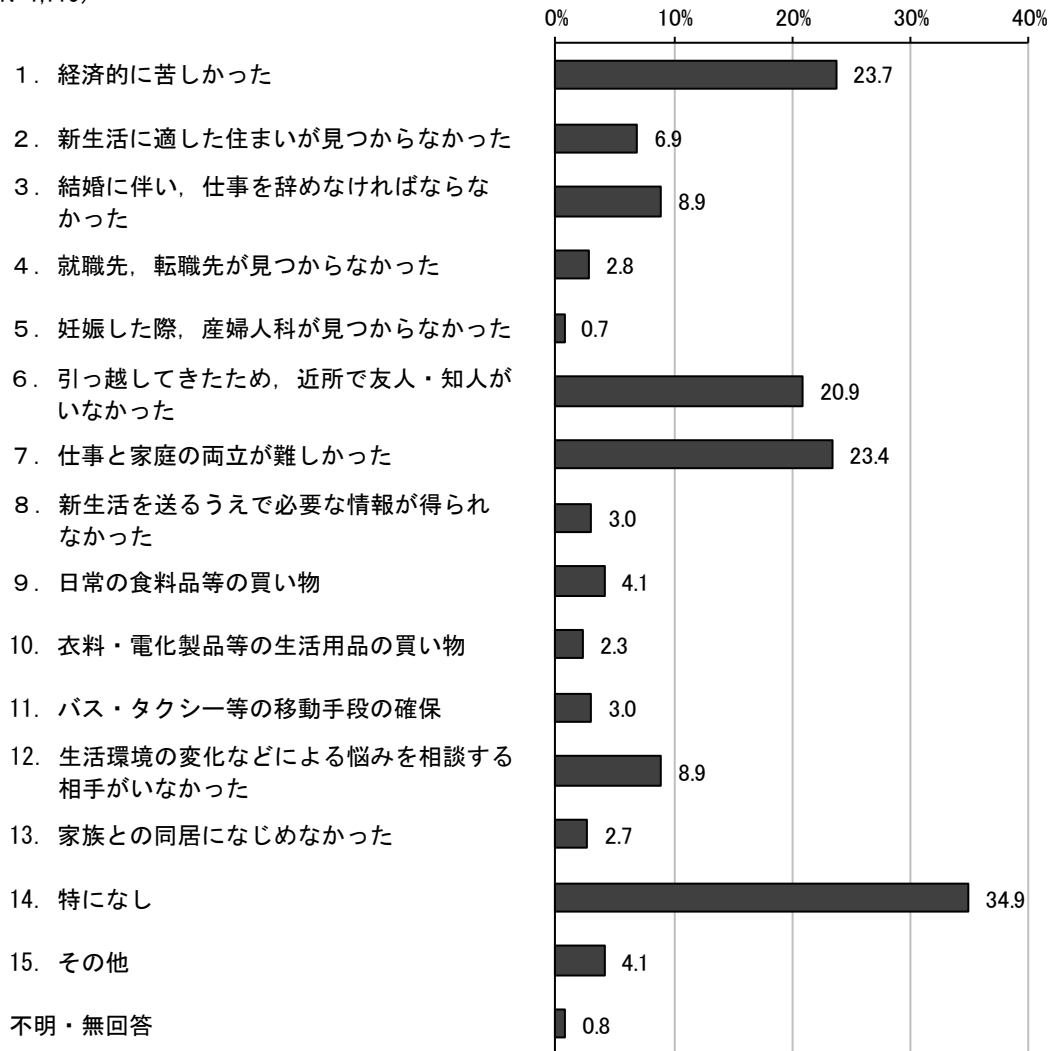


問 15(1)で「1」と答えた方

問 15(4) 結婚した後の新生活で困ったことはありませんか。(〇は3つまで)

「14. 特になし」が 34.9%と最も高く、次いで「1. 経済的に苦しかった」が 23.7%、「7. 仕事と家庭の両立が難しかった」が 23.4%となっています。

(N=1,115)

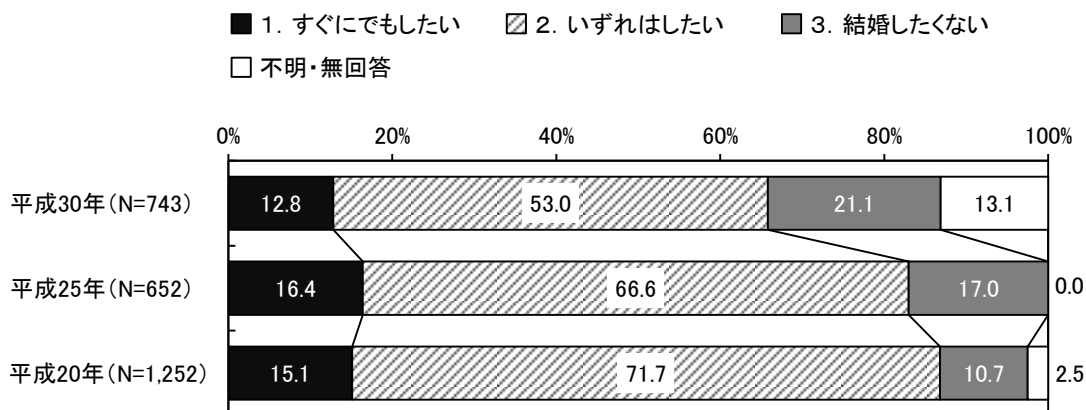


問 15(1)で「2」または「3」と答えた方

問 15(5) 将来、結婚したいと思えますか。(〇は1つ)

「2. いずれはしたい」が53.0%と最も高く、次いで「3. 結婚したくない」が21.1%となっています。

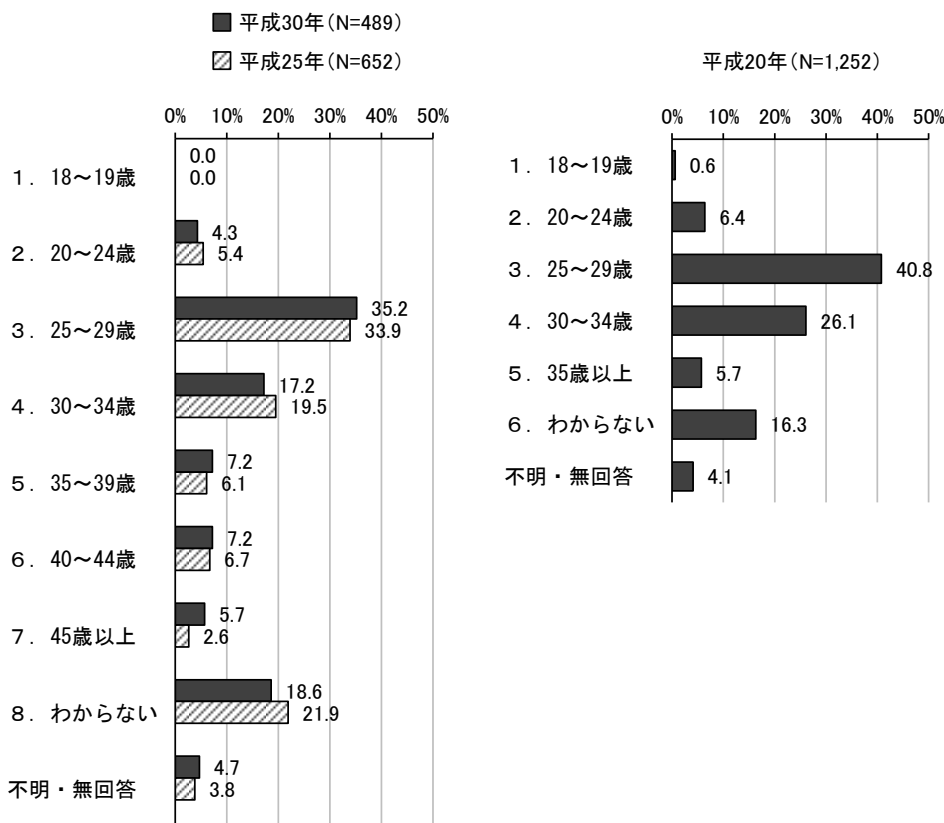
過去調査と比較すると、「3. 結婚したくない」が平成25年より4.1ポイント、平成20年より10.4ポイント高くなっています。



問 15(5)で「1」または「2」と答えた方

問 15(6) あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。(〇は1つ)

「3. 25～29歳」が35.2%と最も高く、次いで「8. わからない」が18.6%、「4. 30～34歳」が17.2%となっています。

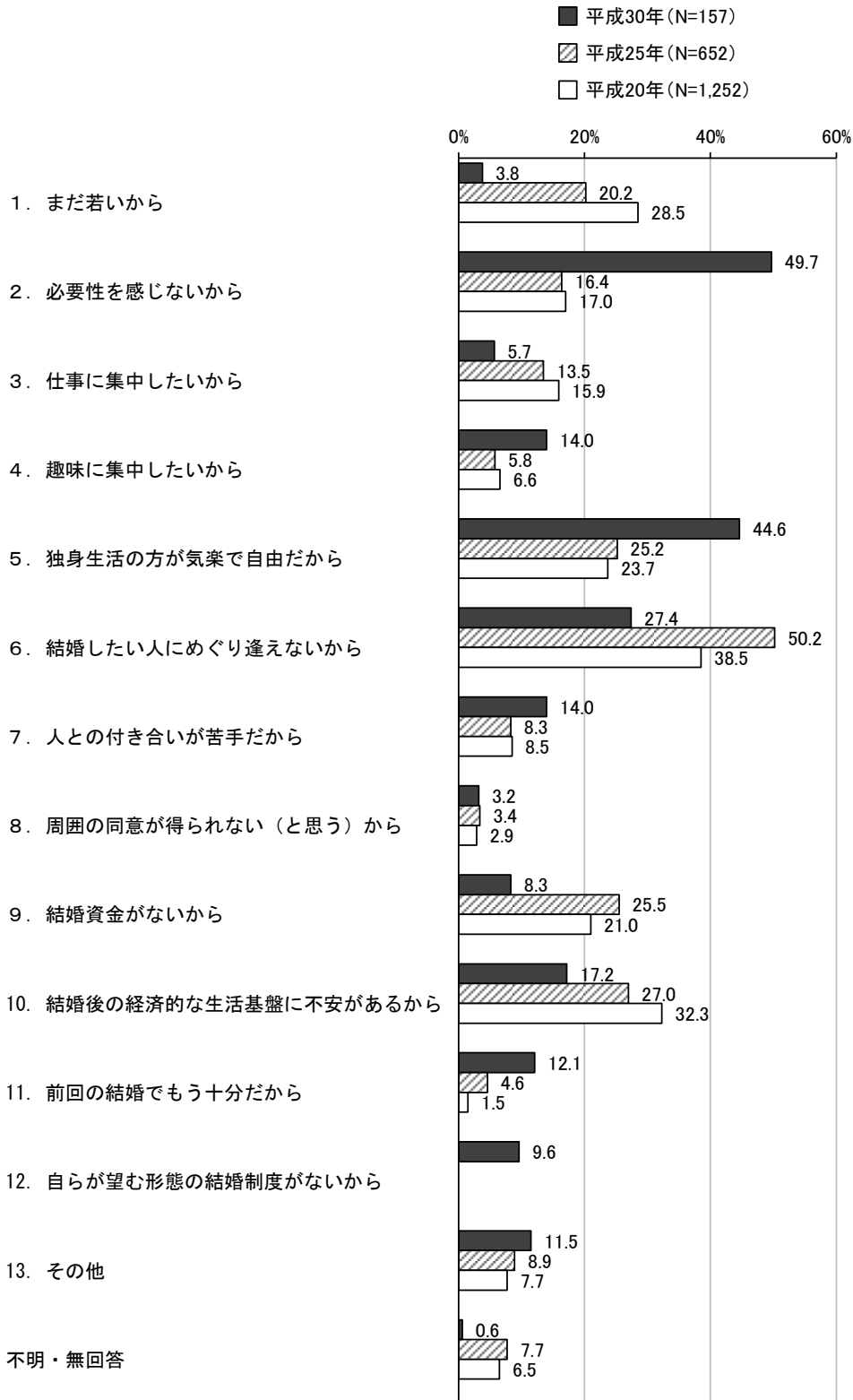


※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

問 15(5)で「3」と答えた方

問 15(7) 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「2. 必要性を感じないから」が49.7%と最も高く、次いで「5. 独身生活の方が気楽で自由だから」が44.6%となっています。



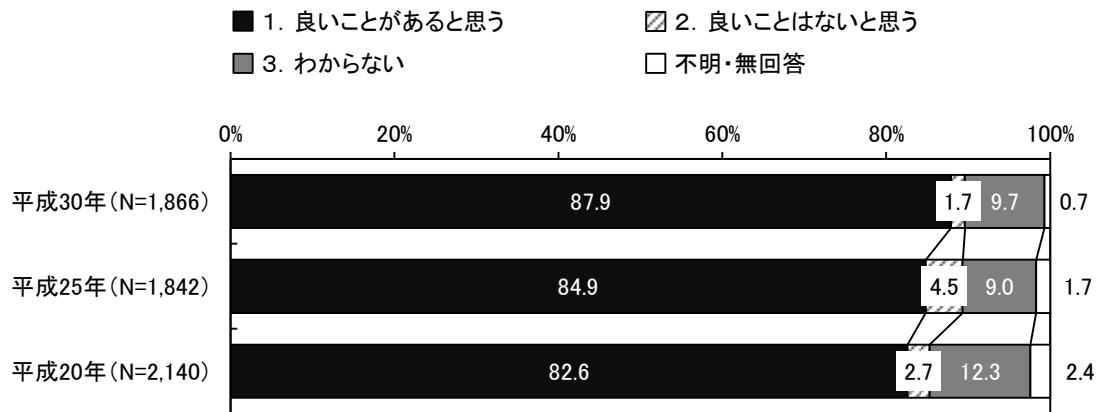
※「12. 自らが望む形態の結婚制度がないから」は平成30年のみの選択肢

※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

**問 16(1) 結婚生活には、独身生活にはない「良いこと」があると思いますか。(〇は1つ)**

「1. 良いことがあると思う」が 87.9%と最も高く、次いで「3. わからない」が 9.7%となっています。

過去調査と比較すると、「1. 良いことがあると思う」が平成 25 年より 3.0 ポイント、平成 20 年より 5.3 ポイント高くなっています。

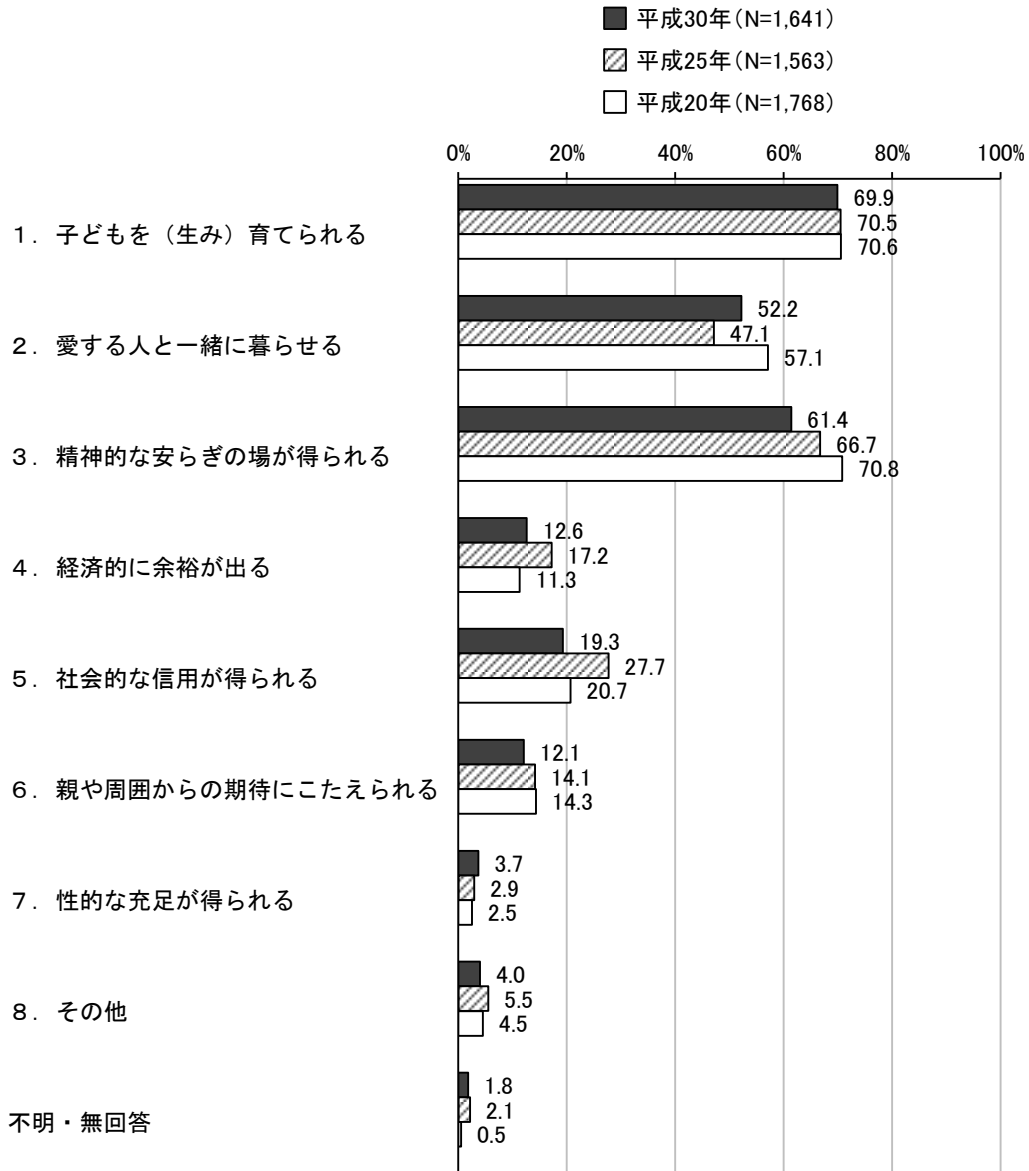


問 16(1)で「1」と答えた方

問 16(2) 具体的な「良いこと」はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

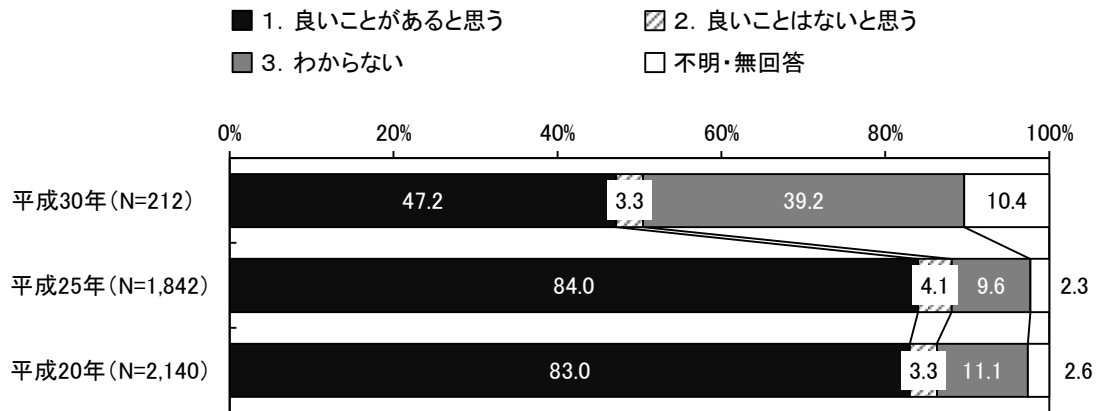
「1. 子どもを（生み）育てられる」が69.9%と最も高く、次いで「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が61.4%、「2. 愛する人と一緒に暮らせる」が52.2%となっています。

平成25年と比較すると、「5. 社会的な信用が得られる」が8.4ポイント、「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が5.3ポイント低く、平成20年と比較すると、「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が9.4ポイント低くなっています。



問 17(1) 独身生活には、結婚生活にはない「良いこと」があると思いますか。(〇は1つ)

「1. 良いことがあると思う」が47.2%と最も高く、次いで「3. わからない」が39.2%となっています。

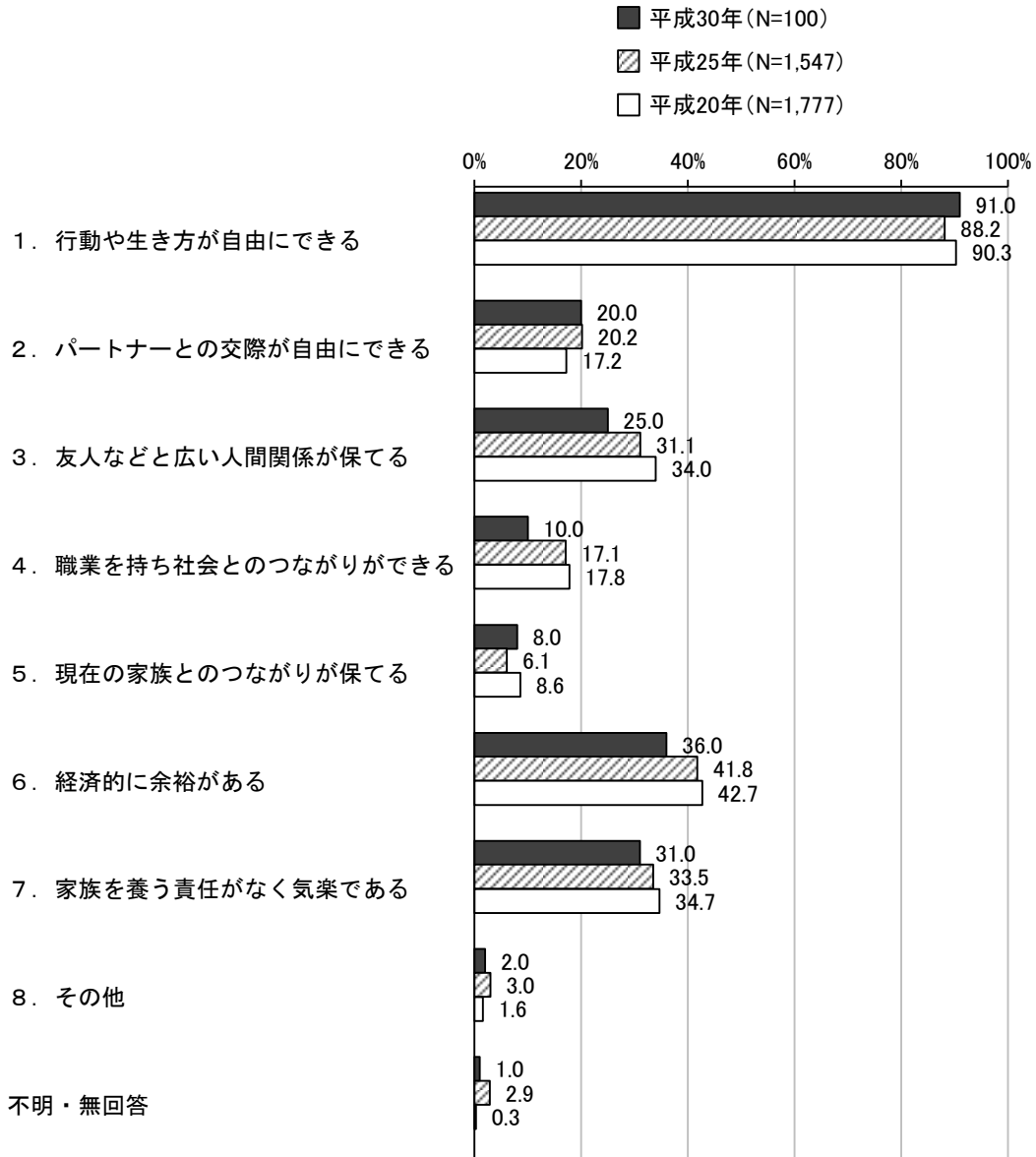


※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

問 16(1)で「2」または「3」と答えた方

問 17(2) 具体的な「良いこと」はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

「1. 行動や生き方が自由にできる」が91.0%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」が36.0%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」が31.0%となっています。



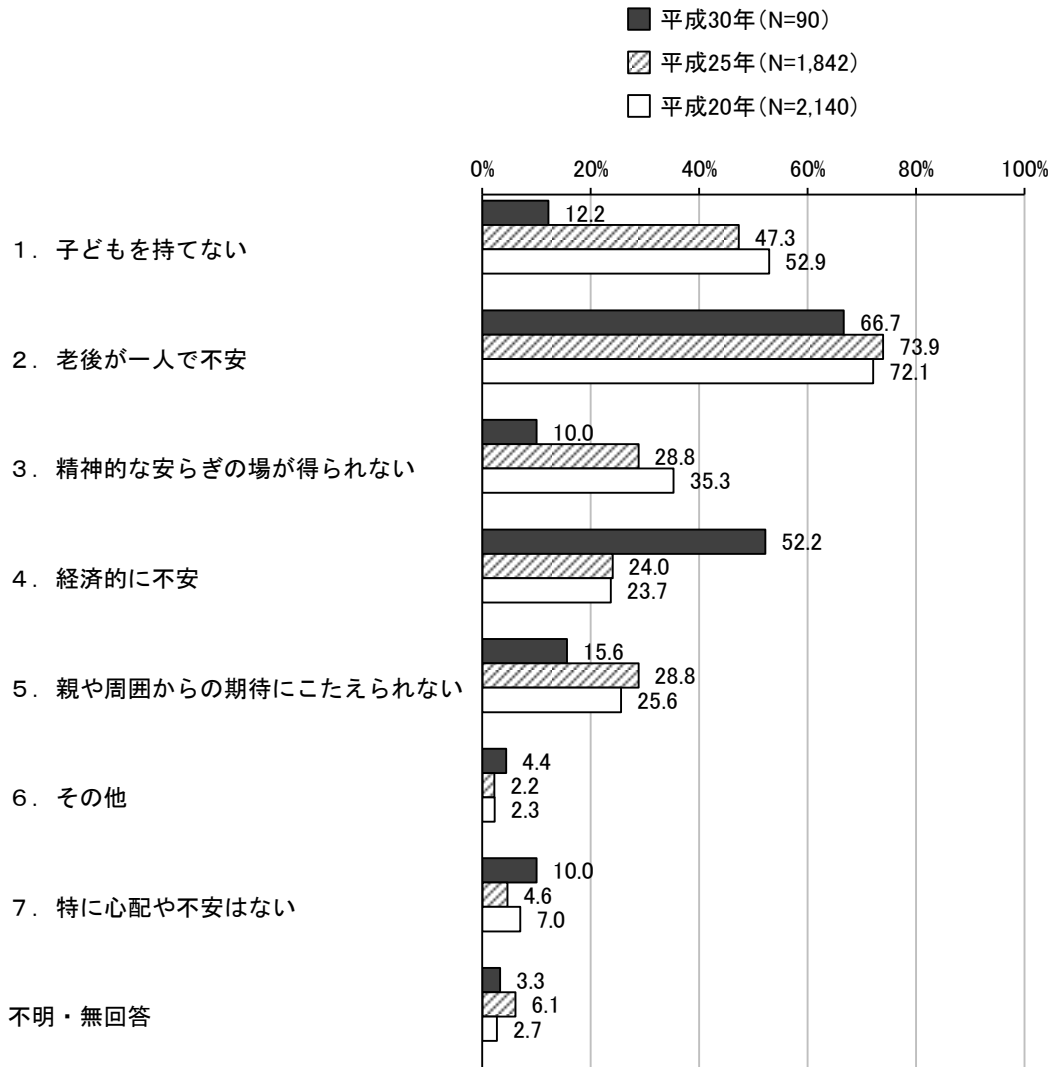
※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる



問 17(1)で「2」または「3」と答えた方

問 18 独身生活を続けるとした場合、どのような心配や不安がありますか。(〇は3つまで)

「2. 老後が一人で不安」が66.7%と最も高く、次いで「4. 経済的に不安」が52.2%、「5. 親や周囲からの期待にこたえられない」が15.6%となっています。

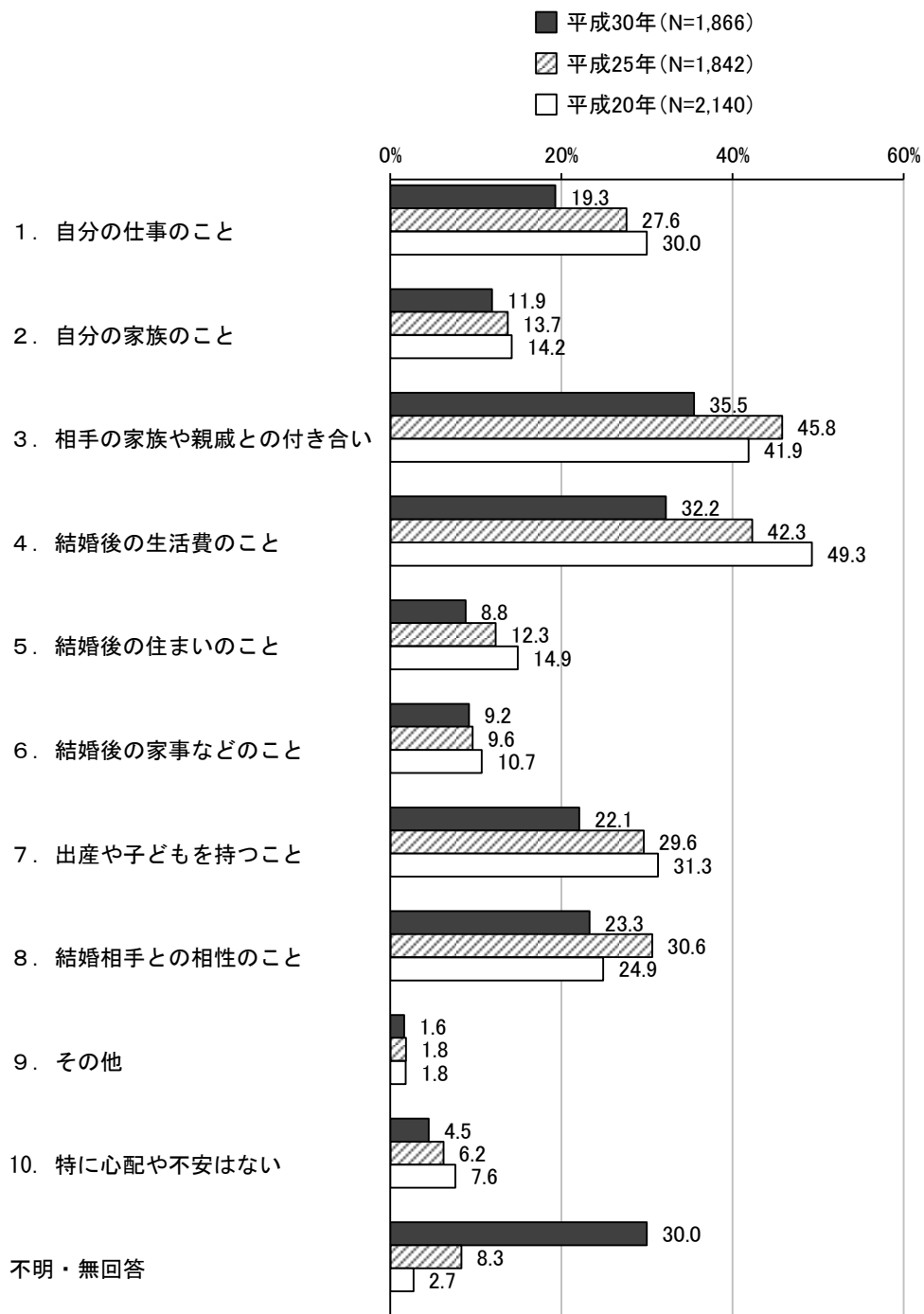


※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

**問 19 結婚を考える場合、どのような心配や不安がありますか。(〇は3つまで)**

「3. 相手の家族や親戚との付き合い」が35.5%と最も高く、次いで「4. 結婚後の生活費のこと」が32.2%、「8. 結婚相手との相性のこと」が23.3%となっています。

平成25年と比較すると、「3. 相手の家族や親戚との付き合い」が10.3ポイント、「4. 結婚後の生活費のこと」が10.1ポイント低く、平成20年と比較すると、「4. 結婚後の生活費のこと」が17.1ポイント、「1. 自分の仕事のこと」が10.7ポイント低くなっています。



《問 19 結婚にあたっての心配や不安×問 15(6)あなたが結婚したいと思う年齢別》

「20～24 歳」「25～29 歳」「30～34 歳」では「結婚後の生活費のこと」,「35～39 歳」「45 歳以上」「わからない」では「結婚相手との相性のこと」,「40～44 歳」では「相手の家族や親戚との付き合い」の割合が最も高くなっています。

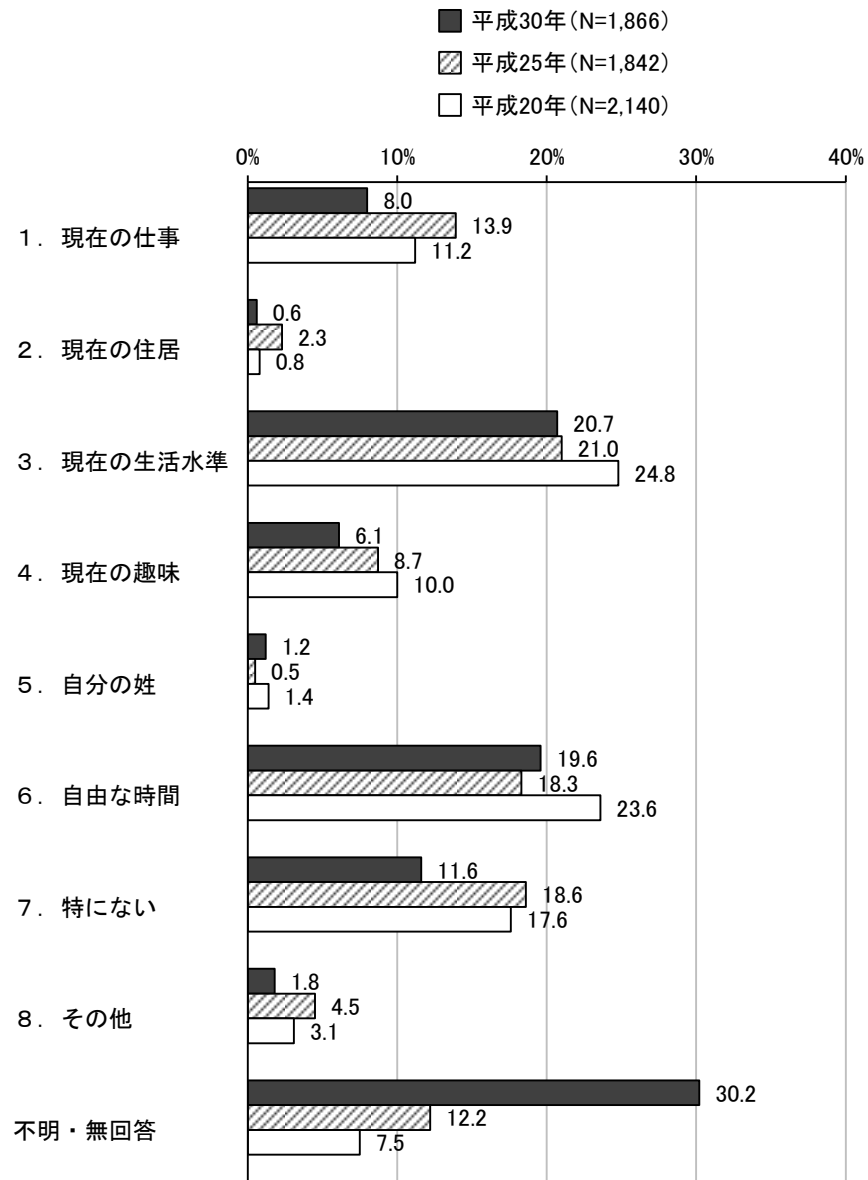
上段:件数 下段:%	合計	自分の仕事のこと	自分の家族のこと	相手の家族や親戚との付き合い	結婚後の生活費のこと	結婚後の住まいのこと	結婚後の家事などのこと	出産や子どもを持つこと	結婚相手との相性のこと	その他	特に心配や不安はない	不明・無回答	
全 体	489 100.0	147 30.1	85 17.4	200 40.9	214 43.8	67 13.7	56 11.5	149 30.5	175 35.8	9 1.8	24 4.9	33 6.7	
あなたが結婚したいと思う年齢別	18～19歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	20～24歳	21 100.0	8 38.1	3 14.3	8 38.1	10 47.6	2 9.5	2 9.5	4 19.0	2 9.5	0 0.0	5 23.8	1 4.8
	25～29歳	172 100.0	69 40.1	26 15.1	73 42.4	77 44.8	22 12.8	30 17.4	60 34.9	54 31.4	1 0.6	4 2.3	12 7.0
	30～34歳	84 100.0	19 22.6	7 8.3	30 35.7	52 61.9	19 22.6	8 9.5	30 35.7	25 29.8	2 2.4	1 1.2	9 10.7
	35～39歳	35 100.0	14 40.0	7 20.0	17 48.6	10 28.6	3 8.6	3 8.6	8 22.9	18 51.4	0 0.0	0 0.0	3 8.6
	40～44歳	35 100.0	8 22.9	6 17.1	17 48.6	14 40.0	7 20.0	1 2.9	6 17.1	11 31.4	2 5.7	3 8.6	2 5.7
	45歳以上	28 100.0	3 10.7	6 21.4	12 42.9	11 39.3	2 7.1	2 7.1	9 32.1	15 53.6	0 0.0	3 10.7	1 3.6
	わからない	91 100.0	16 17.6	27 29.7	36 39.6	33 36.3	9 9.9	9 9.9	23 25.3	40 44.0	2 2.2	7 7.7	5 5.5

※不明・無回答除く

**問 20 結婚生活を始めたとした場合、最も失いたくないものは何ですか。(〇は1つ)**

「3. 現在の生活水準」が20.7%と最も高く、次いで「6. 自由な時間」が19.6%、「7. 特  
にない」が11.6%となっています。

平成25年と比較すると、「7. 特にない」が7.0ポイント、「1. 現在の仕事」が5.9ポイント  
低く、平成20年と比較すると、「7. 特にない」が6.0ポイント低くなっています。



《問 20 結婚生活で最も失いたくないもの×問 15(6)あなたが結婚したいと思う年齢別》

「20～24 歳」では「現在の生活水準」, 「25～29 歳」 「30～34 歳」 「35～39 歳」 「わからない」では「自由な時間」, 「40～44 歳」では「現在の生活水準」と「特にない」, 「45 歳以上」では「特にない」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	現在の仕事	現在の住居	現在の生活水準	現在の趣味	自分の姓	自由な時間	特にない	その他	不明・無回答
全 体		489 100.0	58 11.9	6 1.2	117 23.9	52 10.6	8 1.6	144 29.4	61 12.5	10 2.0	33 6.7
あなたが結婚したいと思う年齢別	18～19歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20～24歳	21 100.0	1 4.8	0 0.0	8 38.1	3 14.3	0 0.0	6 28.6	2 9.5	0 0.0	1 4.8
	25～29歳	172 100.0	28 16.3	0 0.0	44 25.6	19 11.0	2 1.2	45 26.2	17 9.9	5 2.9	12 7.0
	30～34歳	84 100.0	7 8.3	2 2.4	18 21.4	11 13.1	2 2.4	25 29.8	9 10.7	1 1.2	9 10.7
	35～39歳	35 100.0	3 8.6	1 2.9	7 20.0	3 8.6	0 0.0	11 31.4	6 17.1	0 0.0	4 11.4
	40～44歳	35 100.0	7 20.0	1 2.9	8 22.9	2 5.7	0 0.0	7 20.0	8 22.9	0 0.0	2 5.7
	45歳以上	28 100.0	3 10.7	0 0.0	6 21.4	3 10.7	0 0.0	5 17.9	8 28.6	2 7.1	1 3.6
	わからない	91 100.0	7 7.7	1 1.1	23 25.3	7 7.7	4 4.4	34 37.4	9 9.9	2 2.2	4 4.4

※不明・無回答除く

問 17(1)で「1」と答えた方

問 21 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。

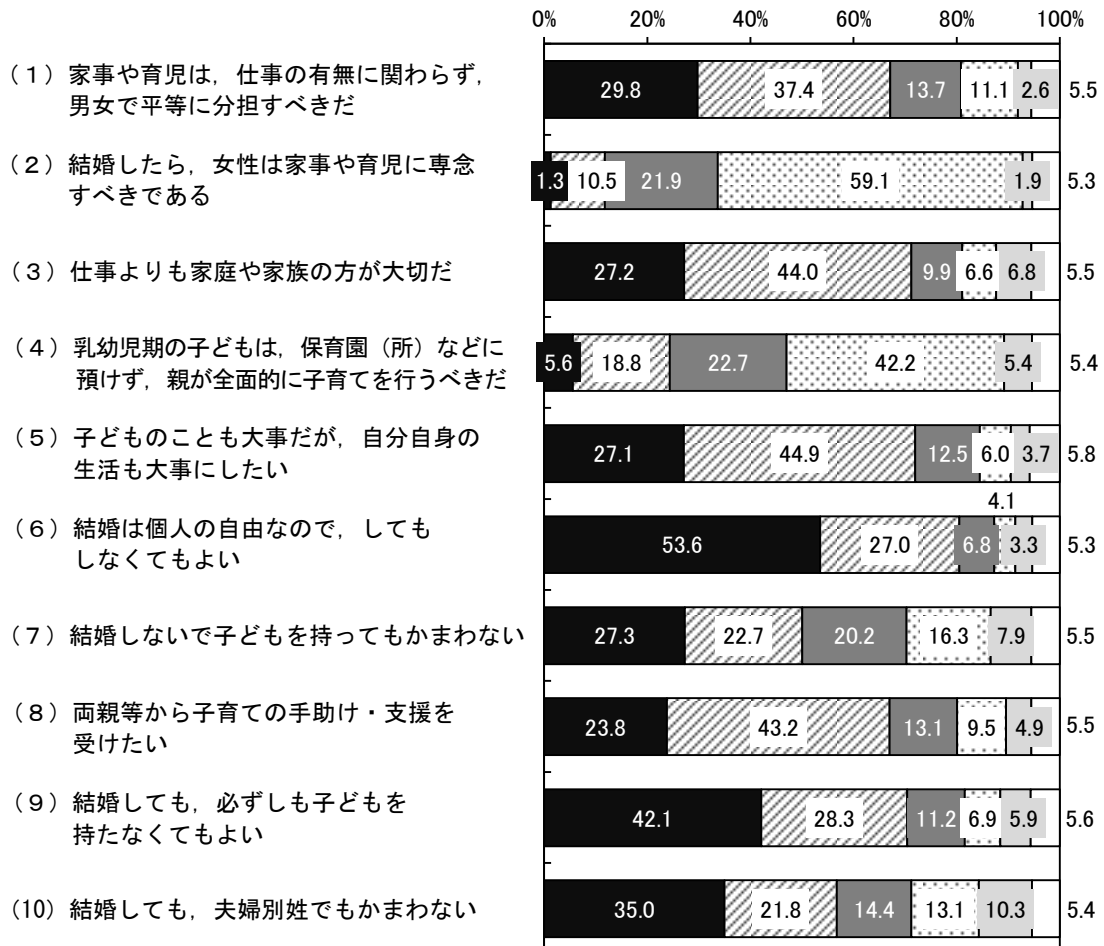
(○はそれぞれ1つつつ)

「そう思う(「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計)」は、[(6) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい]が80.6%と最も高く、次いで[(5) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい]が72.0%、[(3) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ]が71.2%となっています。

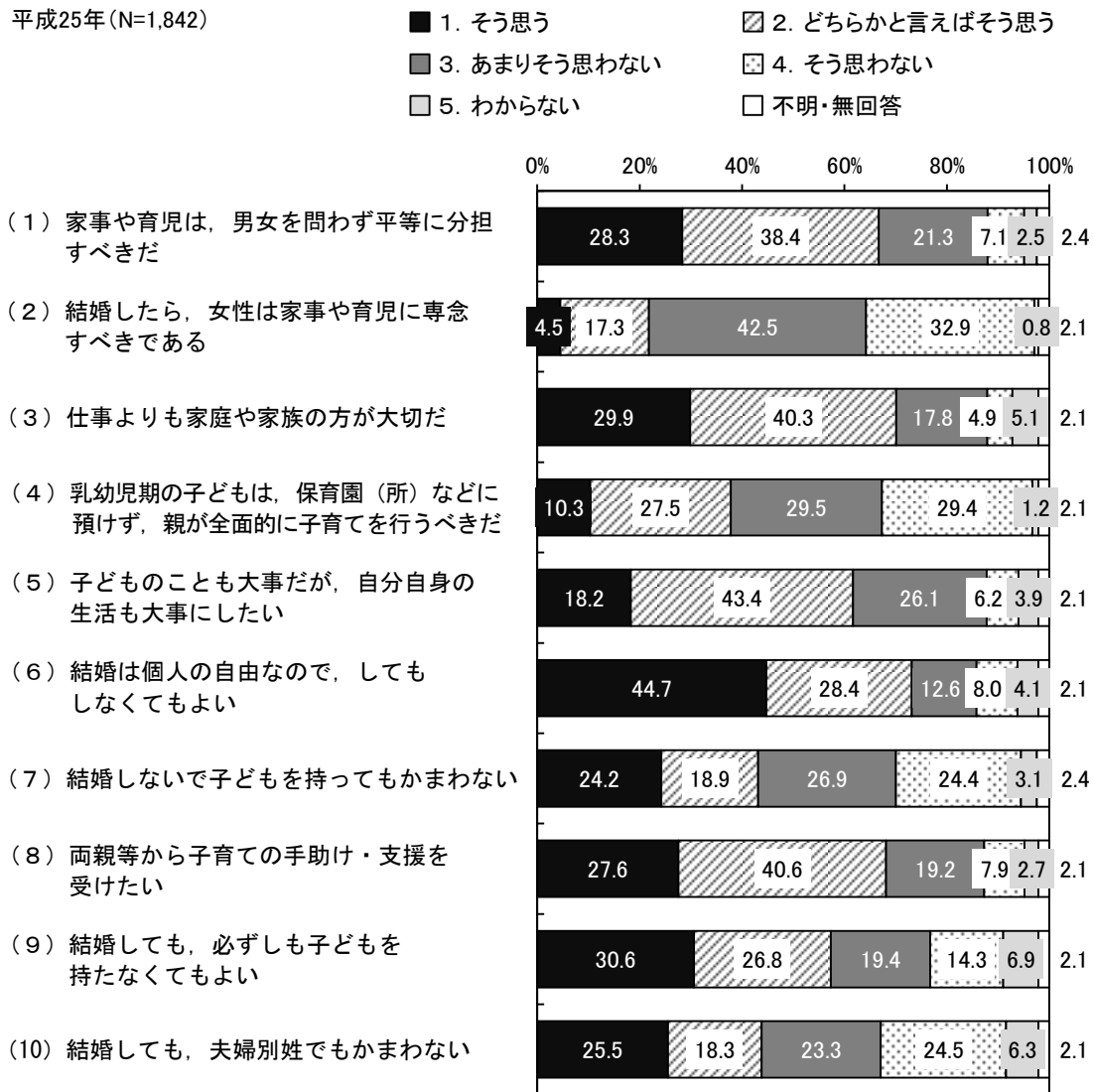
「そう思わない(「3. どちらかといえばそう思わない」と「4. そう思わない」の合計)」は、[(2) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである]が81.0%と最も高く、次いで[(4) 乳幼児期の子どもは、保育園(所)などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ]が64.9%となっています。

平成30年(N=1,866)

- 1. そう思う
- ▨ 2. どちらかといえばそう思う
- ▩ 3. どちらかといえばそう思わない
- ▤ 4. そう思わない
- 5. わからない
- 不明・無回答



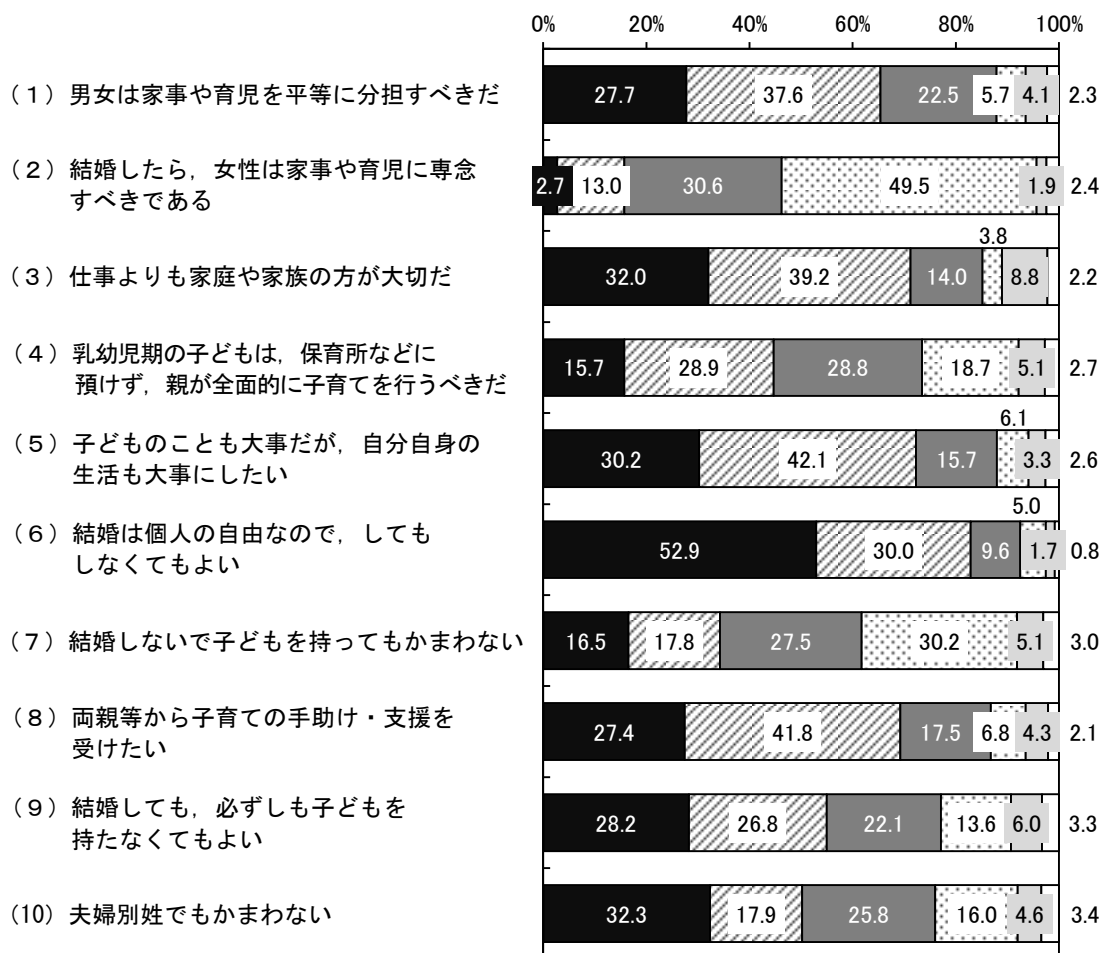
平成25年と比較すると、「そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）」では、（4）乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ] が13.4ポイント低く、[(9) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい] [(10) 結婚しても、夫婦別姓でもかまわない] がともに13.0ポイント高くなっています。



平成20年と比較すると、「そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）」では、[(4) 乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ] が 20.2 ポイント低く、[(7) 結婚しないで子どもを持ってもかまわない] が 15.7 ポイント、[(9) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい] が 15.4 ポイント高くなっています。

平成20年 (N=2,140)

- 1. そう思う
- ▨ 2. どちらかといえばそう思う
- 3. あまりそう思わない
- ▨ 4. そう思わない
- 5. わからない
- 不明・無回答

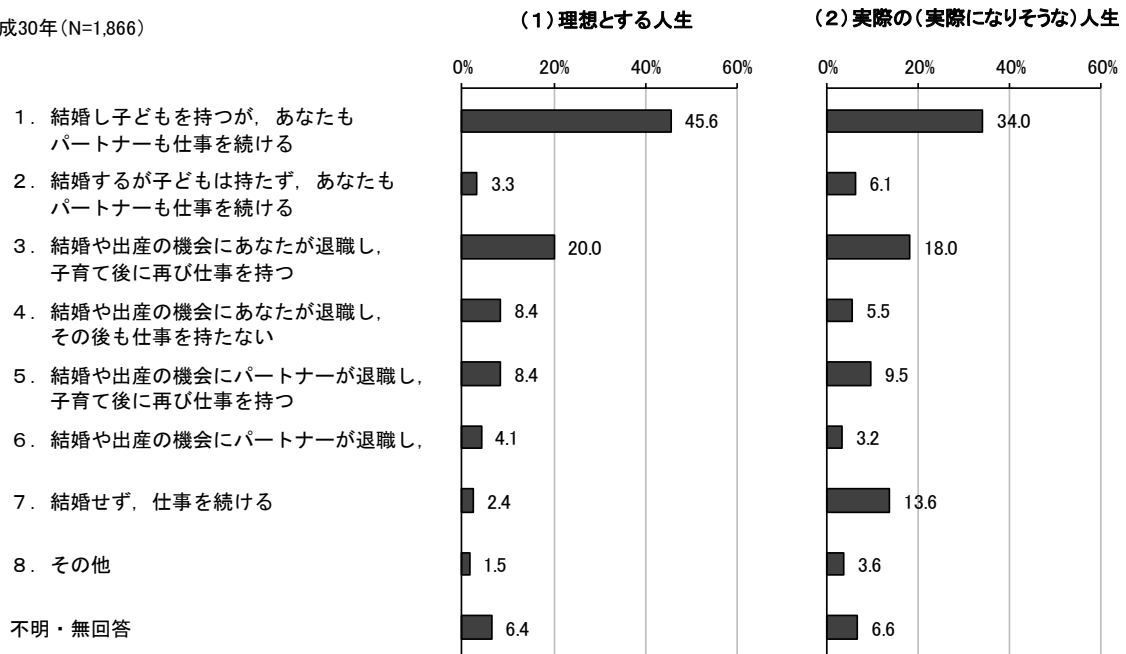




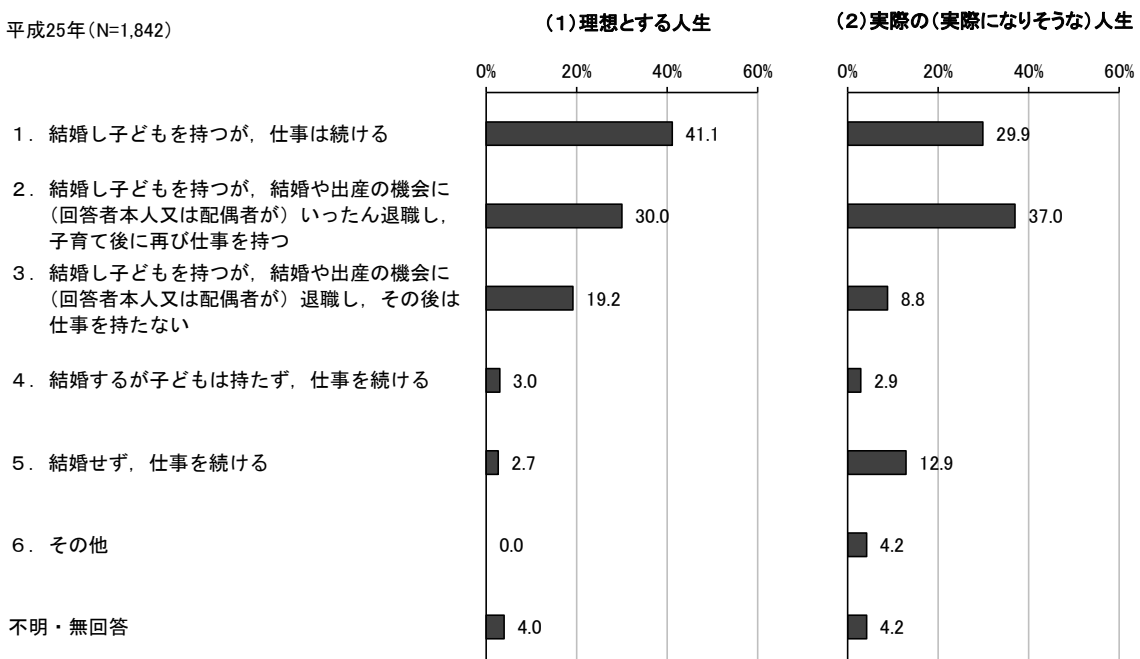
問 22 下の選択肢の中に生き方のタイプがいくつか示してあります。あなたのお考えに最も近いと思われるタイプの番号を選び、それぞれの回答欄にご記入ください。(選択肢はそれぞれ1つつつ)

「(1) 理想とする人生」, 「(2) 実際の(実際になりそうな)人生」とともに「1. 結婚し子どもを持つが、あなたもパートナーも仕事を続ける」がそれぞれ 45.6%, 34.0%と最も高く、次いで「3. 結婚や出産の機会にあなたが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」がそれぞれ 20.0%, 18.0%となっています。

平成30年(N=1,866)



平成25年(N=1,842)



《問 22(1)理想とする人生, (2) 実際の(実際になりそうな)人生×

問 35(5)子どもと過ごす時間が取れていない理由別》

(1) 理想とする人生について、「仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから」「子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから」「その他」では「結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける」の割合が最も高くなっています。

(2) 実際の(実際になりそうな)人生について、「仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから」「子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから」「その他」では「結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける」の割合が最も高くなっています。

◆問 22(1) 理想とする人生

上段:件数 下段:%		合計	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚するが子どもは持たず, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚や出産の機会にあなたが退職し, 子育て後に再び仕事を持つ	結婚や出産の機会にあなたが退職し, その後も仕事を持たない	結婚や出産の機会にパートナーが退職し, 子育て後に再び仕事を持つ	結婚や出産の機会にパートナーが退職し, その後も仕事を持たない	結婚せず, 仕事を続ける	その他	不明・無回答
全体		315 100.0	157 49.8	1 0.3	60 19.0	29 9.2	30 9.5	17 5.4	0 0.0	3 1.0	18 5.7
子どもと過ごす時間が取れていない理由別	仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから	265 100.0	138 52.1	1 0.4	50 18.9	24 9.1	21 7.9	13 4.9	0 0.0	1 0.4	17 6.4
	子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから	8 100.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから	5 100.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	その他	37 100.0	15 40.5	0 0.0	9 24.3	4 10.8	6 16.2	2 5.4	0 0.0	0 0.0	1 2.7

※不明・無回答除く

◆問 22(2) 実際の(実際になりそうな)人生

上段:件数 下段:%		合計	結婚し子どもを持つが, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚するが子どもは持たず, あなたもパートナーも仕事を続ける	結婚や出産の機会にあなたが退職し, 子育て後に再び仕事を持つ	結婚や出産の機会にあなたが退職し, その後も仕事を持たない	結婚や出産の機会にパートナーが退職し, 子育て後に再び仕事を持つ	結婚や出産の機会にパートナーが退職し, その後も仕事を持たない	結婚せず, 仕事を続ける	その他	不明・無回答
全体		315 100.0	171 54.3	2 0.6	57 18.1	12 3.8	34 10.8	11 3.5	2 0.6	7 2.2	19 6.0
子どもと過ごす時間が取れていない理由別	仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから	265 100.0	154 58.1	1 0.4	43 16.2	7 2.6	25 9.4	11 4.2	2 0.8	5 1.9	17 6.4
	子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから	8 100.0	4 50.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから	5 100.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	その他	37 100.0	12 32.4	1 2.7	11 29.7	5 13.5	6 16.2	0 0.0	0 0.0	1 2.7	1 2.7

※不明・無回答除く

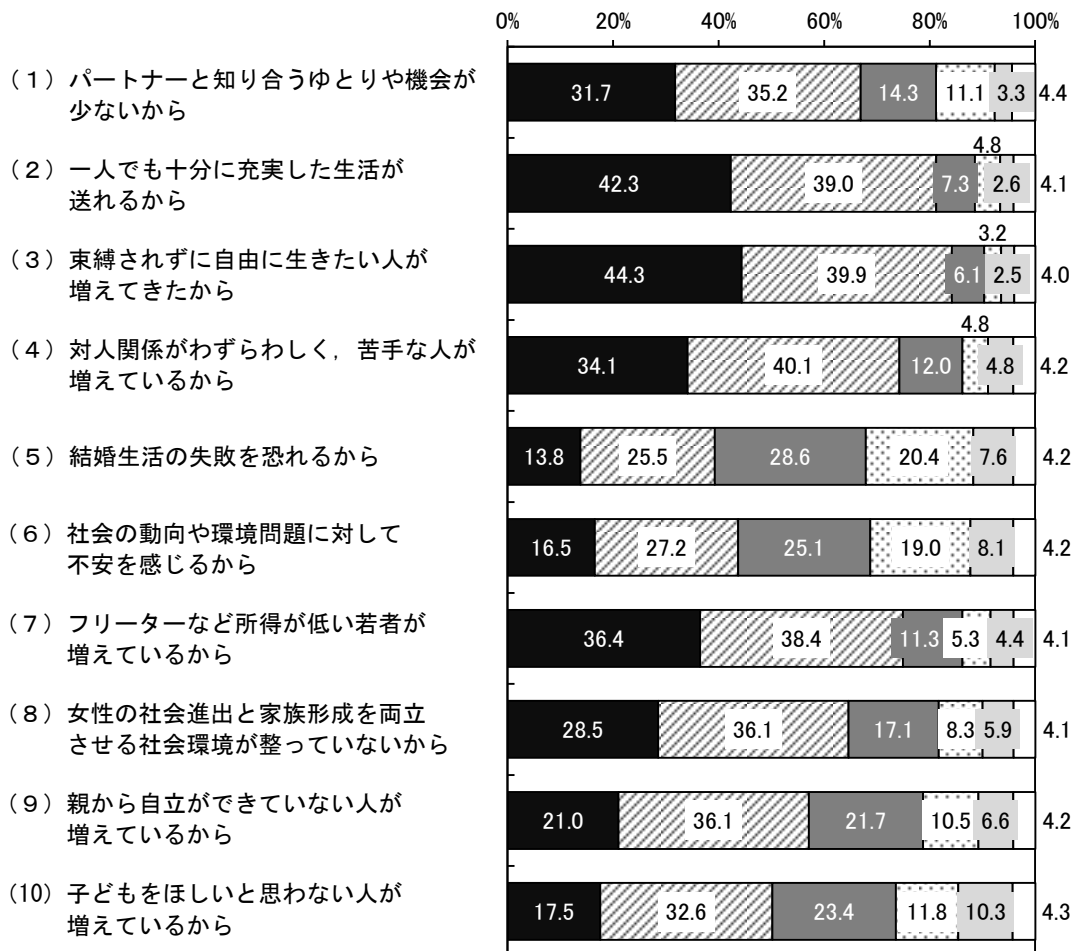
**問 23 最近、結婚しない人や高年齢で結婚する人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)**

「そう思う(「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計)」は、[(3) 束縛されずに自由に生きていきたい人が増えてきたから]が84.2%と最も高く、次いで[(2) 一人でも十分に充実した生活が送れるから]が81.3%、[(7) フリーターなど所得が低い若者が増えているから]が74.8%となっています。

「そう思わない(「3. どちらかといえばそう思わない」と「4. そう思わない」の合計)」は、[(5) 結婚生活の失敗を恐れるから]が49.0%と最も高く、次いで[(6) 社会の動向や環境問題に対して不安を感じるから]が44.1%となっています。

平成30年(N=1,866)

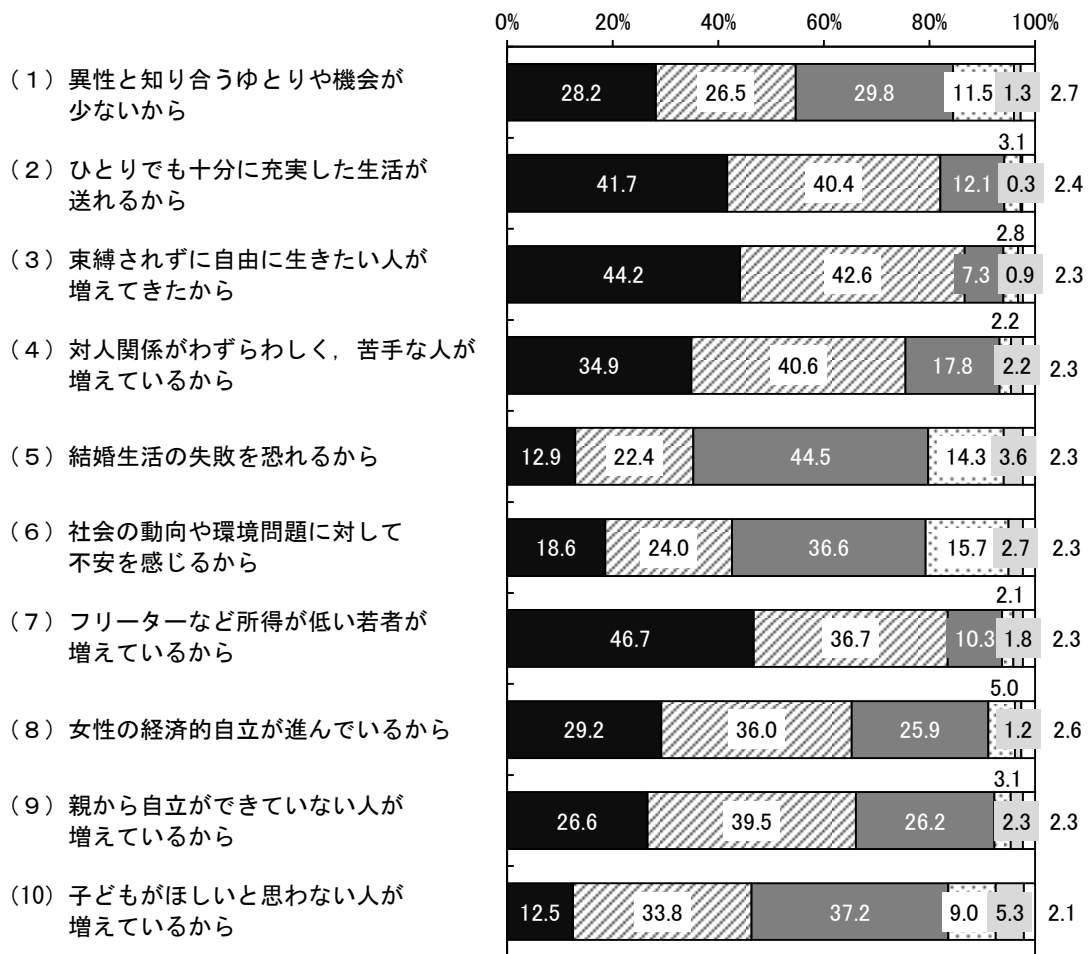
- 1. そう思う
- ▨ 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- ▨ 4. そう思わない
- 5. わからない
- 不明・無回答



平成25年と比較すると、「そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）」では、[(1) パートナーと知り合うゆとりや機会が少ないから]（平成25年では「(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから」）が12.2ポイント高く、[(9) 親から自立ができていない人が増えているから]が9.0ポイント低くなっています。

平成25年(N=1,842)

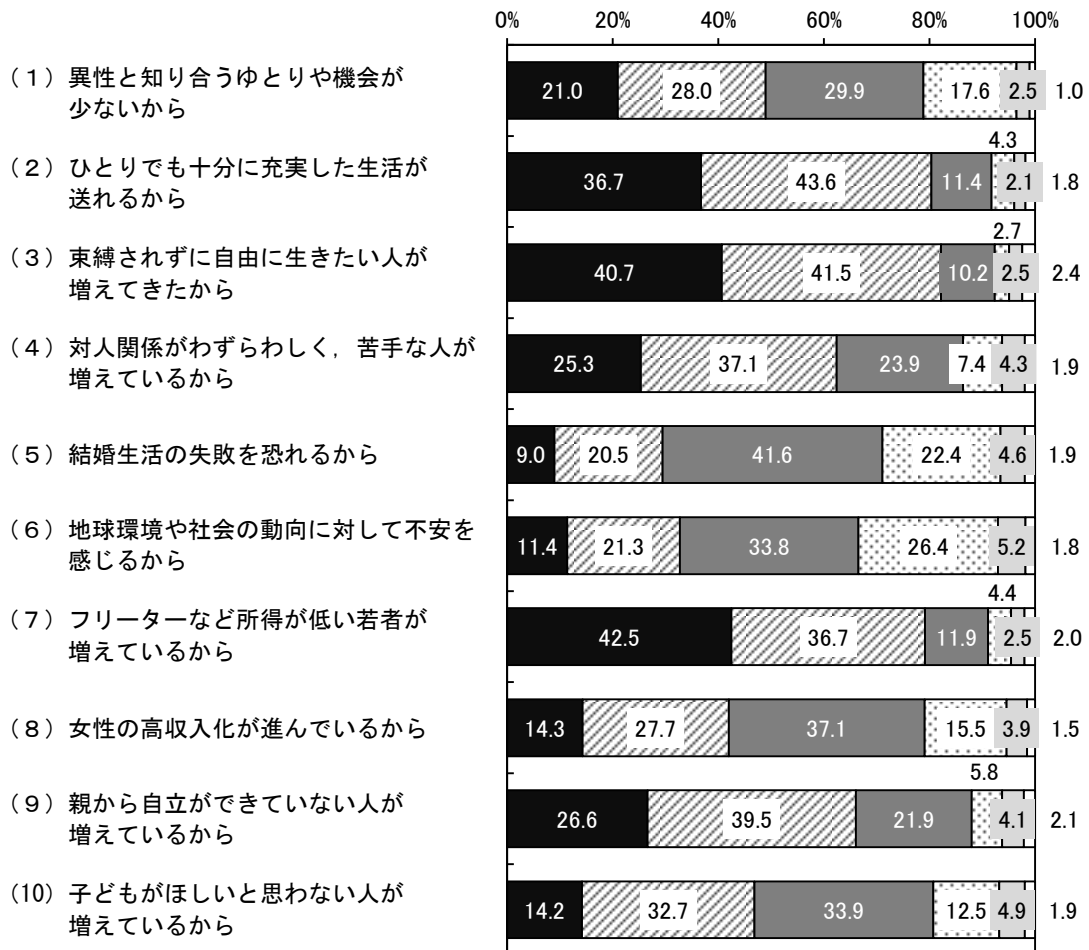
- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. わからない
- 不明・無回答



平成20年と比較すると、「そう思う（「1. そう思う」と「2. どちらかといえばそう思う」の合計）」では、[(1) パートナーと知り合うゆとりや機会が少ないから]（平成20年では「(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから」）が17.9ポイント、[(4) 対人関係がわずらわしく、苦手な人が増えているから]が11.8ポイント高くなっています。

平成20年(N=2,140)

- 1. そう思う
- 3. あまりそう思わない
- 5. わからない
- ▨ 2. どちらかといえばそう思う
- ▩ 4. そう思わない
- 不明・無回答



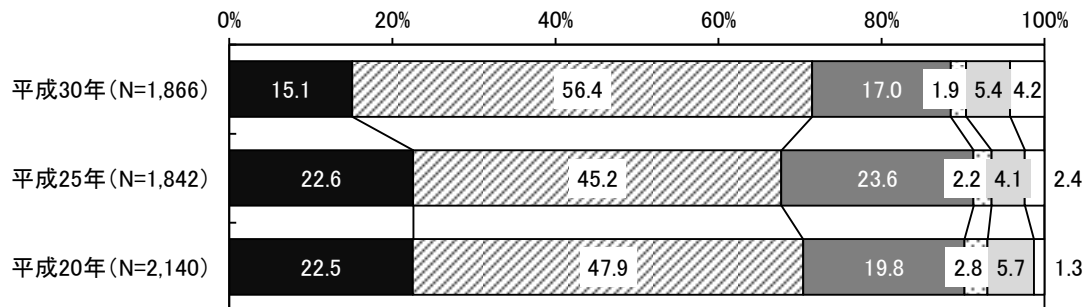
**問 24 結婚の機会を増やすため、行政が支援する（関わる）ことについてどう思いますか。**

（○は1つ）

「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」が56.4%と最も高く、次いで「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」が17.0%、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」が15.1%となっています。

過去調査と比較すると、「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」が平成25年より11.2ポイント、平成20年より8.5ポイント高くなっています。

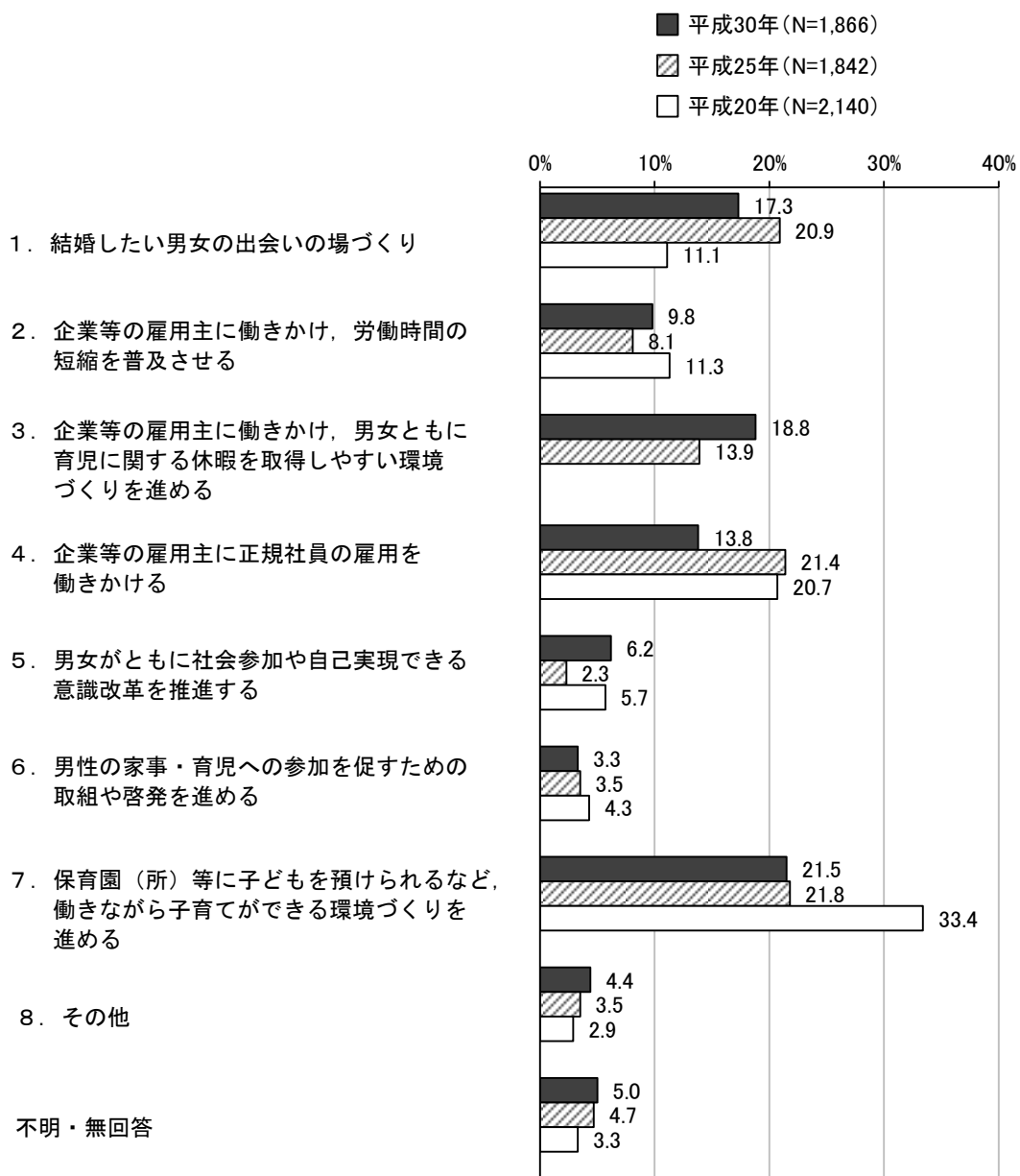
- 1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい
- ▨ 2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
- 3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである
- ▨ 4. その他
- 5. わからない
- 不明・無回答



**問 25 結婚の支援のため、行政が優先して行うべき取組は何ですか。(〇は1つ)**

「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」が21.5%と最も高く、次いで「3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」が18.8%、「1. 結婚したい男女の出会いの場づくり」が17.3%となっています。

平成25年と比較すると、「4. 企業等の雇用主に正規社員の雇用を働きかける」が7.6ポイント、平成20年と比較すると、「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」が11.9ポイント、「4. 企業等の雇用主に正規社員の雇用を働きかける」が6.9ポイント低くなっています。



※「3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」は平成30年、平成25年のみの選択肢

《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 1 性別》

「男性」では「結婚したい男女の出会いの場づくり」, 「女性」では「保育園(所)等に子どもを預けられるなど, 働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	結婚したい 男女の出 会いの場 づくり	企業等の 雇用主に 働きかけ、 労働時間 の短縮を 普及させる	企業等の 雇用主に 働きかけ、 男女ともに 育児に関 する休暇 を取得しや すい環境 づくりを進 める	企業等の 雇用主に 正規社員 の雇用を 働きかける	男女がとも に社会参 加や自己 実現できる 意識改革 を推進す る	男性の家 事・育児へ の参加を 促すため の取組や 啓発を進 める	保育園 (所)等に 子どもを預 けられるな ど, 働きな がら子育 てができる 環境づく りを進める	その他	不明・無回 答
全 体		1,866 100.0	323 17.3	182 9.8	350 18.8	257 13.8	115 6.2	61 3.3	401 21.5	83 4.4	94 5.0
性 別	男性	666 100.0	153 23.0	73 11.0	107 16.1	89 13.4	39 5.9	8 1.2	126 18.9	42 6.3	29 4.4
	女性	1,177 100.0	168 14.3	106 9.0	241 20.5	165 14.0	73 6.2	52 4.4	270 22.9	37 3.1	65 5.5
	答えたくない	16 100.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5	3 18.8	2 12.5	1 6.3	3 18.8	3 18.8	0 0.0

※不明・無回答除く

《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 15(1)結婚の有無別》

「結婚している」では「保育園(所)等に子どもを預けられるなど, 働きながら子育てができる環境づくりを進める」, 「結婚していたことはあるが, 離(死)別した」では「結婚したい男女の出会いの場づくり」, 「結婚していない」では「企業等の雇用主に働きかけ, 男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	結婚したい 男女の出 会いの場 づくり	企業等の 雇用主に 働きかけ、 労働時間 の短縮を 普及させる	企業等の 雇用主に 働きかけ、 男女ともに 育児に関 する休暇 を取得しや すい環境 づくりを進 める	企業等の 雇用主に 正規社員 の雇用を 働きかける	男女がとも に社会参 加や自己 実現できる 意識改革 を推進す る	男性の家 事・育児へ の参加を 促すため の取組や 啓発を進 める	保育園 (所)等に 子どもを預 けられるな ど, 働きな がら子育 てができる 環境づく りを進める	その他	不明・無回 答
全 体		1,866 100.0	323 17.3	182 9.8	350 18.8	257 13.8	115 6.2	61 3.3	401 21.5	83 4.4	94 5.0
結 婚 の 有 無 別	結婚している	1,115 100.0	186 16.7	97 8.7	202 18.1	168 15.1	66 5.9	38 3.4	249 22.3	36 3.2	73 6.5
	結婚していたことはあ るが, 離(死)別した	86 100.0	22 25.6	7 8.1	14 16.3	12 14.0	4 4.7	3 3.5	19 22.1	4 4.7	1 1.2
	結婚していない	657 100.0	114 17.4	77 11.7	134 20.4	77 11.7	45 6.8	20 3.0	129 19.6	43 6.5	18 2.7

※不明・無回答除く



《問 25 行政が優先して行うべき結婚支援×問 15(5)将来の結婚願望別》

「すぐにでもしたい」では「結婚したい男女の出会いの場づくり」, 「いずれはしたい」では「企業等の雇用主に働きかけ, 男女ともに育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める」, 「結婚したくない」では「保育園(所)等に子どもを預けられるなど, 働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	結婚したい 男女の出会いの場 づくり	企業等の 雇用主に 働きかけ, 労働時間の 短縮を 普及させる	企業等の 雇用主に 働きかけ, 男女ともに 育児に関 する休暇を 取得しや すい環境 づくりを進 める	企業等の 雇用主に 正規社員 の雇用を 働きかける	男女がとも に社会参 加や自己 実現できる 意識改革 を推進する	男性の家 事・育児 への参加を 促すため の取組や 啓発を進 める	保育園 (所)等に 子どもを預 けられるな ど, 働きな がら子育 てができる 環境づく りを進める	その他	不明・無回 答
全 体	743 100.0	136 18.3	84 11.3	148 19.9	89 12.0	49 6.6	23 3.1	148 19.9	47 6.3	19 2.6
将 来 の 結 婚 願 望	すぐにでもしたい	26 27.4	17 17.9	15 15.8	11 11.6	1 1.1	0 0.0	21 22.1	4 4.2	0 0.0
	いずれはしたい	74 18.8	37 9.4	97 24.6	43 10.9	28 7.1	12 3.0	76 19.3	19 4.8	8 2.0
	結婚したくない	23 14.6	14 8.9	22 14.0	26 16.6	14 8.9	8 5.1	30 19.1	15 9.6	5 3.2

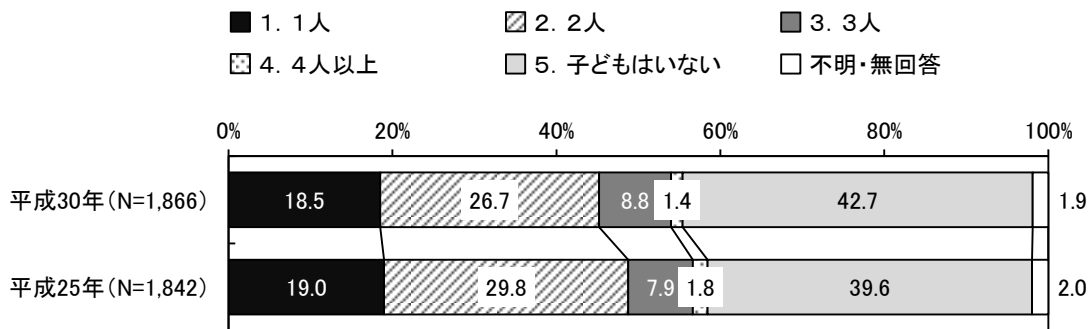
※不明・無回答除く

## 4 出産について

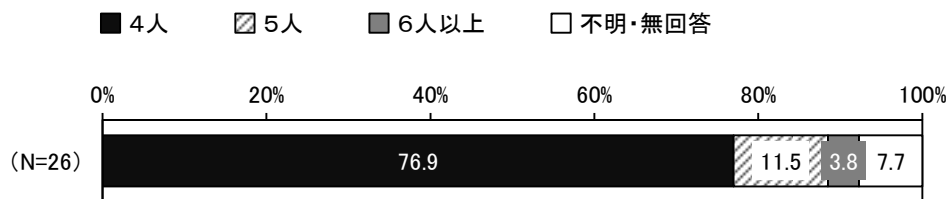
問 26(1) あなたは現在、妊娠中のお子さまも含めて何人のお子さまがいますか。4人以上の場合は（ ）内に具体的な人数をご記入ください。（〇は1つ）

「5. 子どもはいない」が42.7%と最も高く、次いで「2. 2人」が26.7%、「1. 1人」が18.5%となっています。

平成25年と比較すると、特に大きな差はみられません。

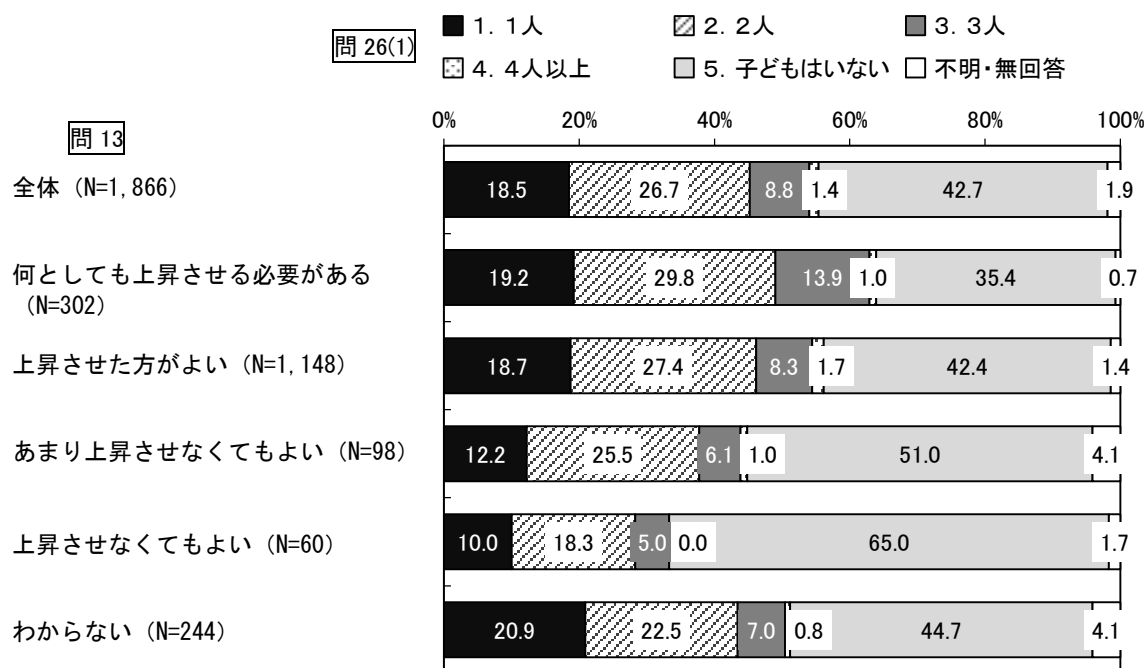


◆(4人以上の場合)具体的な人数



《問 26(1)実際の子どもの人数×問 13 出生率上昇の必要性別》

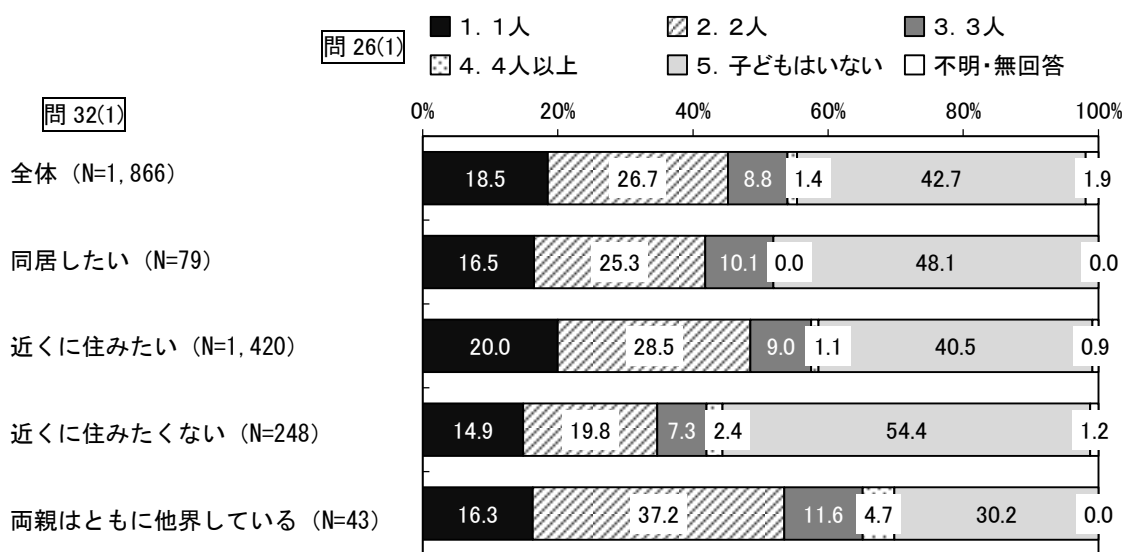
出生率の上昇が必要と思う人ほど、現在子どもがいる割合が高くなる傾向がみられます。



※不明・無回答除く

《問 26(1)実際の子どもの人数×問 32(1)実家との関わり方別》

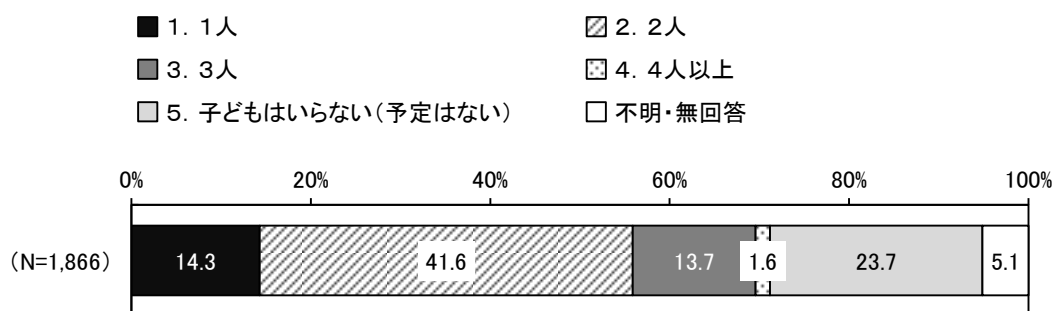
「同居したい」「近くに住みたい」では現在子どものいる人、「近くに住みたくない」では「子どもはいない」の割合が最も高くなっています。



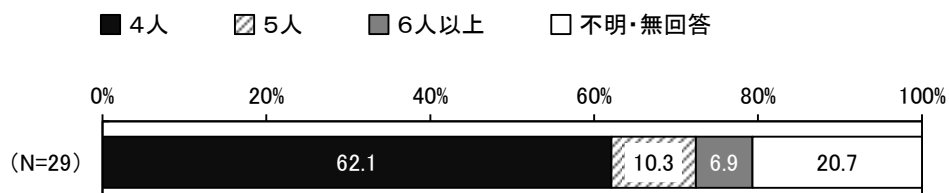
※不明・無回答除く

問 26(2) あなたは何人のお子さまを持つ予定ですか。4人以上の場合は( )内に具体的な人数をご記入ください。(〇は1つ)

「2. 2人」が41.6%と最も高く、次いで「5. 子どもはいらない(予定はない)」が23.7%、「1. 1人」が14.3%となっています。

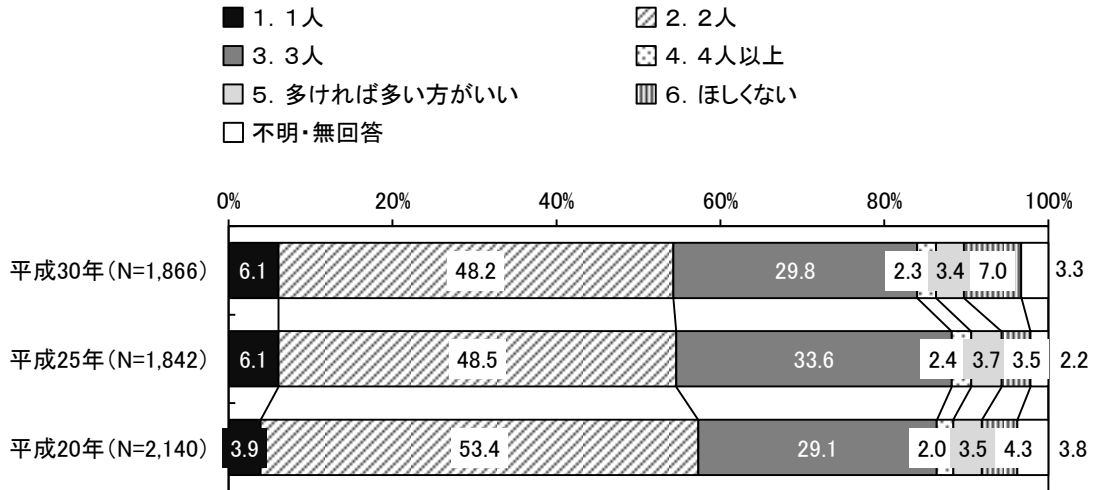


◆(4人以上の場合)具体的な人数

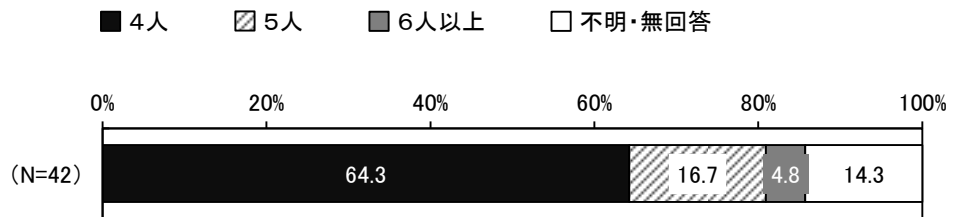


問 27 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子どもの数は何人ですか。4人以上の場合は( )内に具体的な人数をご記入ください。(〇は1つ)

「2. 2人」が48.2%と最も高く、次いで「3. 3人」が29.8%、「6. ほしくない」が7.0%となっています。

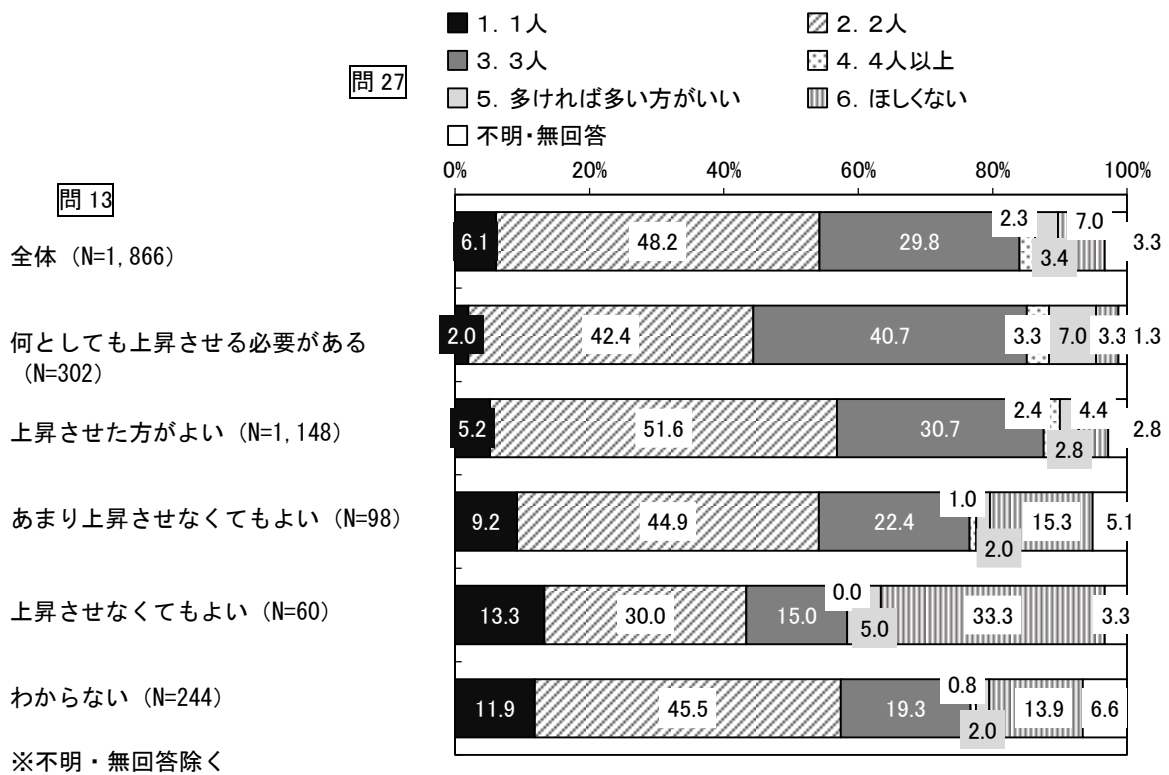


◆(4人以上の場合)具体的な人数



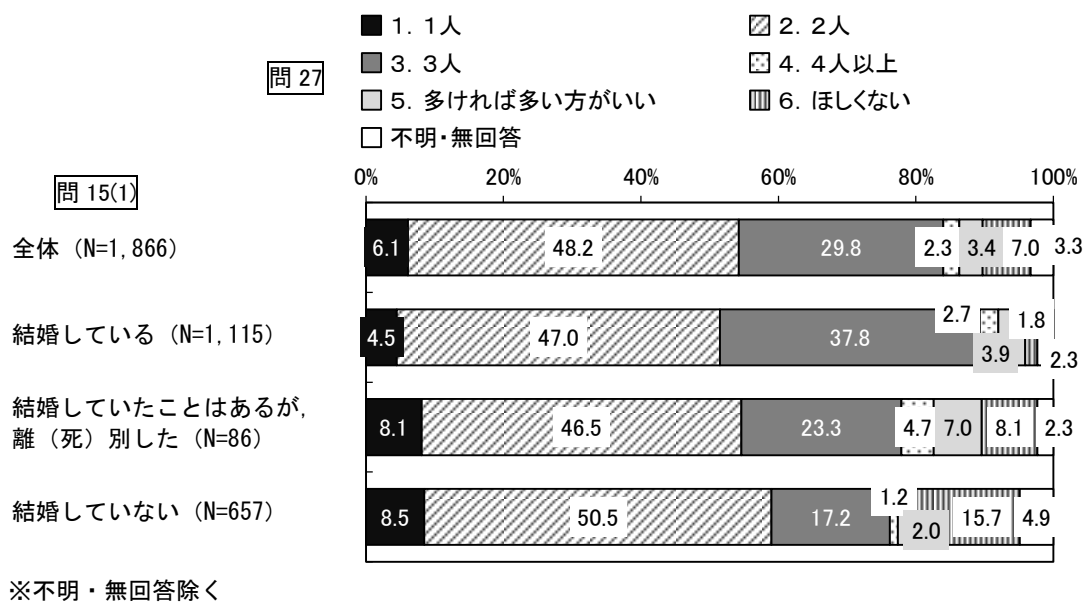
《問 27 理想の子どもの人数×問 13 出生率上昇の必要性別》

「上昇させなくてもよい」では「6. ほしくない」、それ以外の区分では「2. 2人」の割合が最も高くなっています。



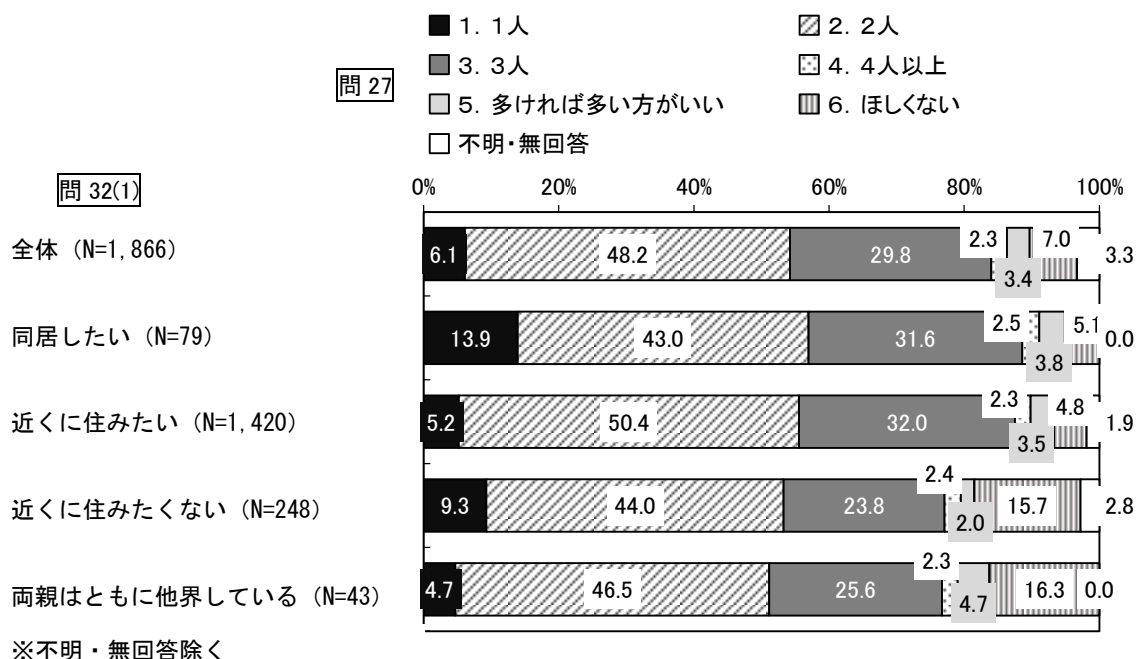
《問 27 理想の子どもの人数×問 15(1)結婚の有無別》

すべての区分で「2. 2人」の割合が最も高くなっています。



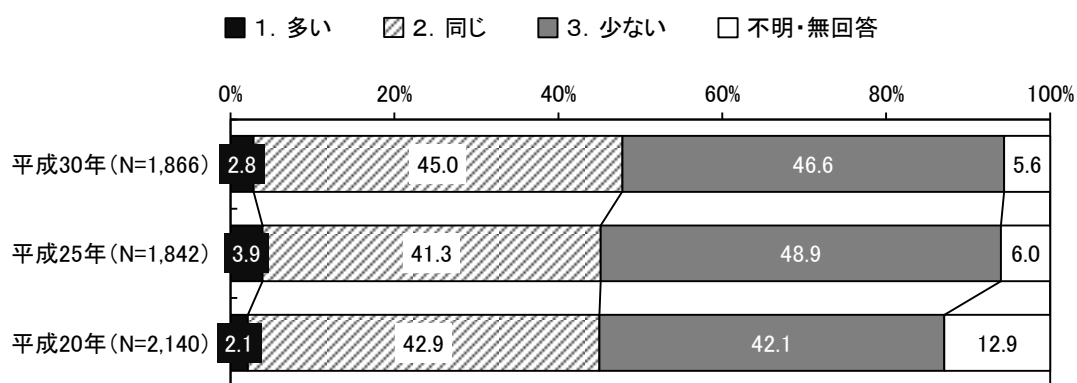
《問 27 理想の子どもの人数×問 32(1)実家との関わり方別》

「同居したい」「近くに住みたい」では、できれば持ちたい理想の子どもが「3人」以上、「近くに住みたくない」では「ほしくない」の割合が他の区分に比べて高くなる傾向がみられます。



問 28 現実にいる子どもの数、もしくは持とうと予定している子どもの数は理想と比べていかがですか。(〇は1つ)

「3. 少ない」が46.6%と最も高く、次いで「2. 同じ」が45.0%となっています。過去調査と比較すると、特に大きな差はみられません。

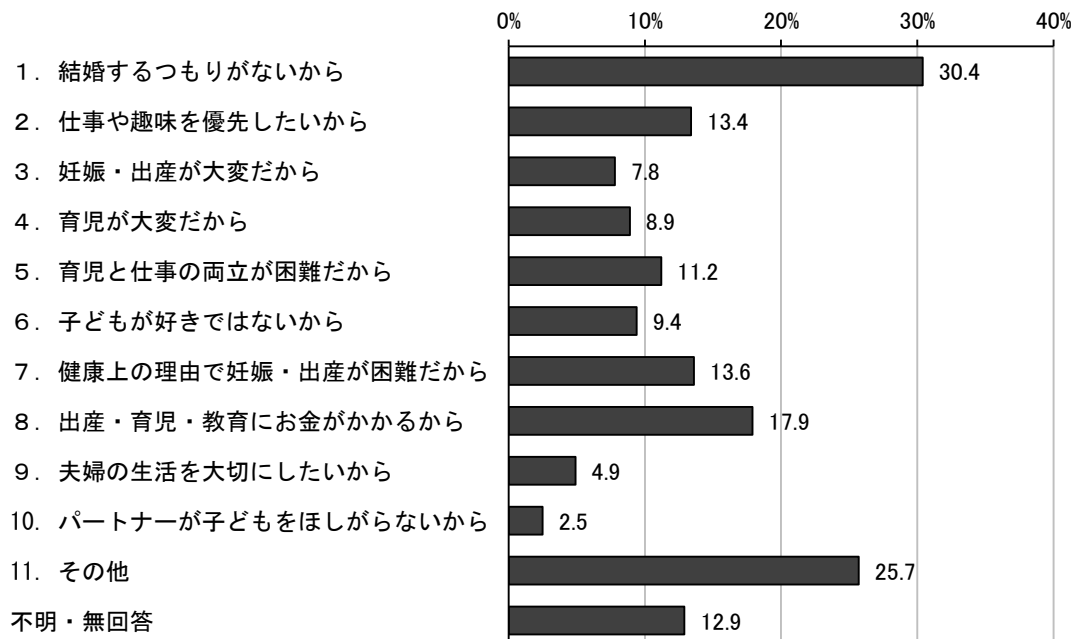


問 26(2)で「5. 子どもはいる(予定はない)」または問 27で「6. ほしくない」と答えた方

問 29(1) 子どもを持たない理由をお答えください。(〇は3つまで)

「その他」を除き、「1. 結婚するつもりがないから」が 30.4%と最も高く、次いで「8. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が 17.9%、「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」が 13.6%となっています。

(N=448)

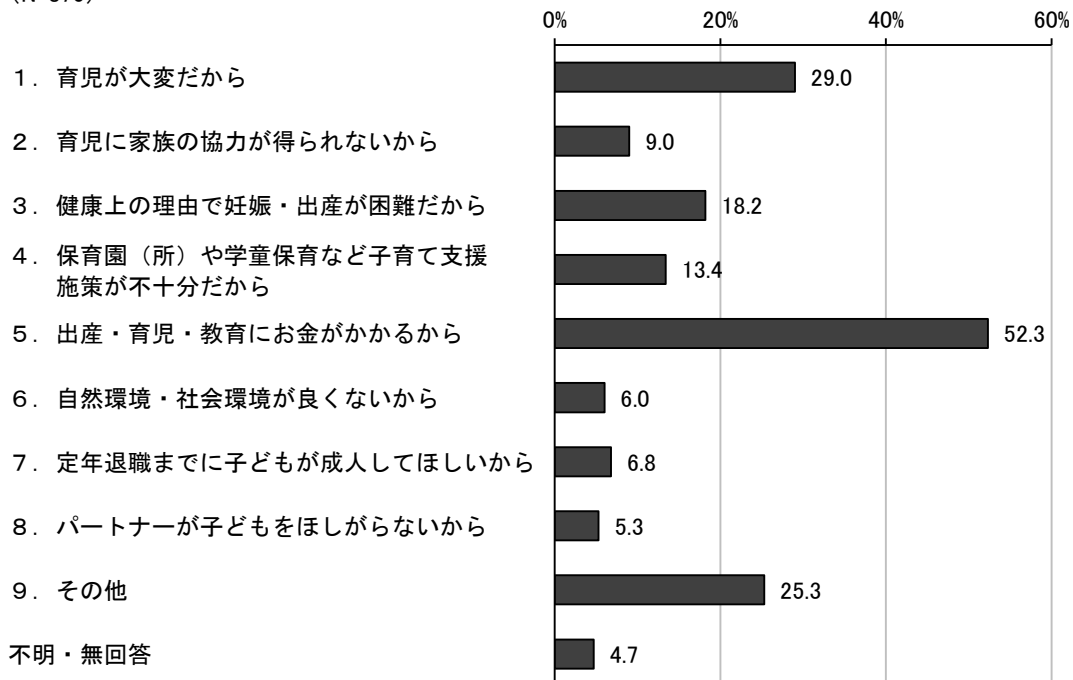


問 28 で「3. 少ない」と答えた方

問 29(2) 子どもの人数が実際には理想より少なくなりそうな理由は何ですか。(〇は3つまで)

「5. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が 52.3%と最も高く、次いで「1. 育児が大変だから」が 29.0%、「3. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」が 18.2%となっています。

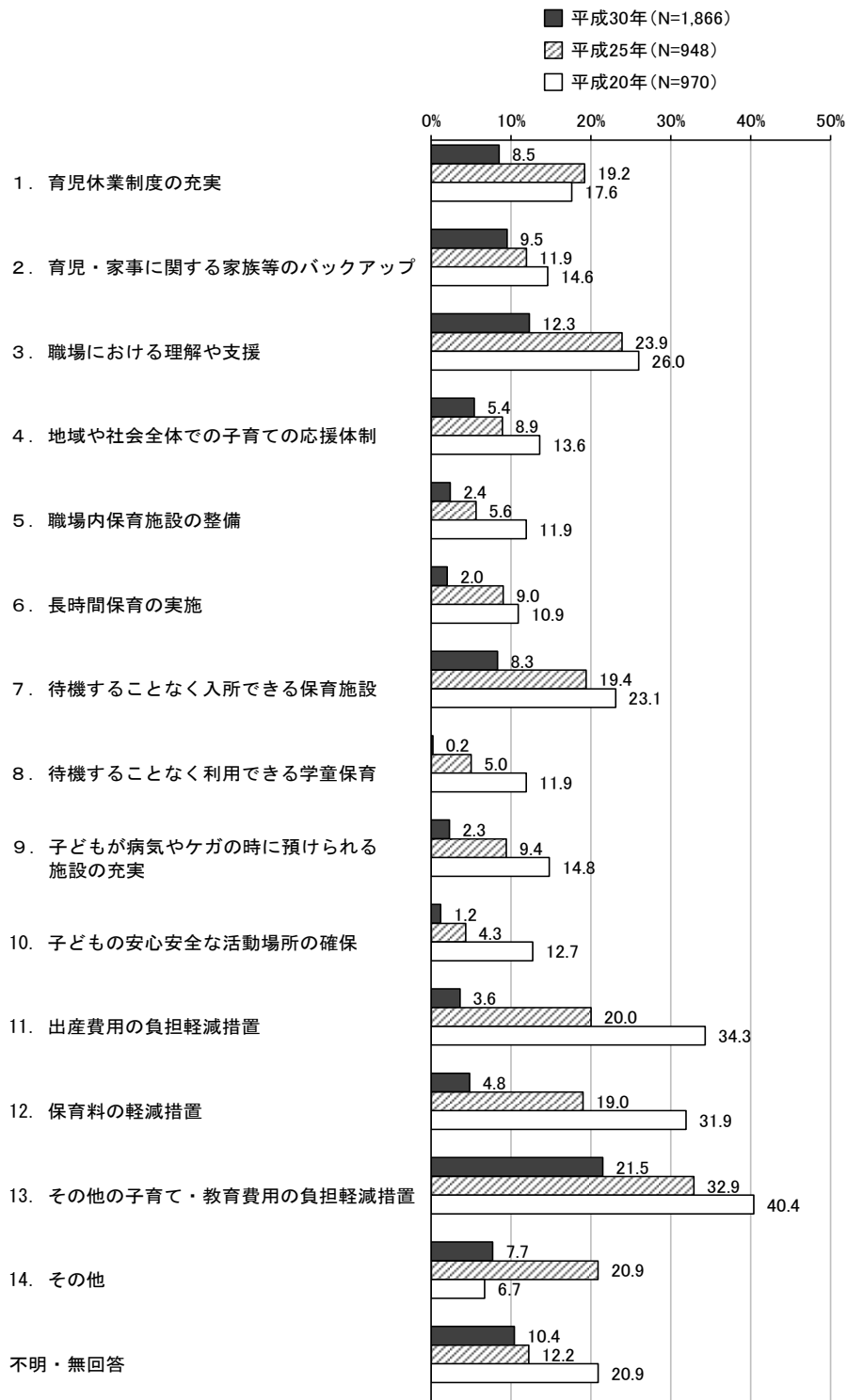
(N=870)





**問 30 子どもを持ったり、理想の子どもの数に近づけるために、これだけあればできるかもしれないと思う最低限必要なものをお答えください。(〇は1つ)**

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」が21.5%と最も高く、次いで「3. 職場における理解や支援」が12.3%、「2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ」が9.5%となっています。



※平成 25 年, 平成 20 年は, 前段の設問で, ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため, サンプル数が異なる

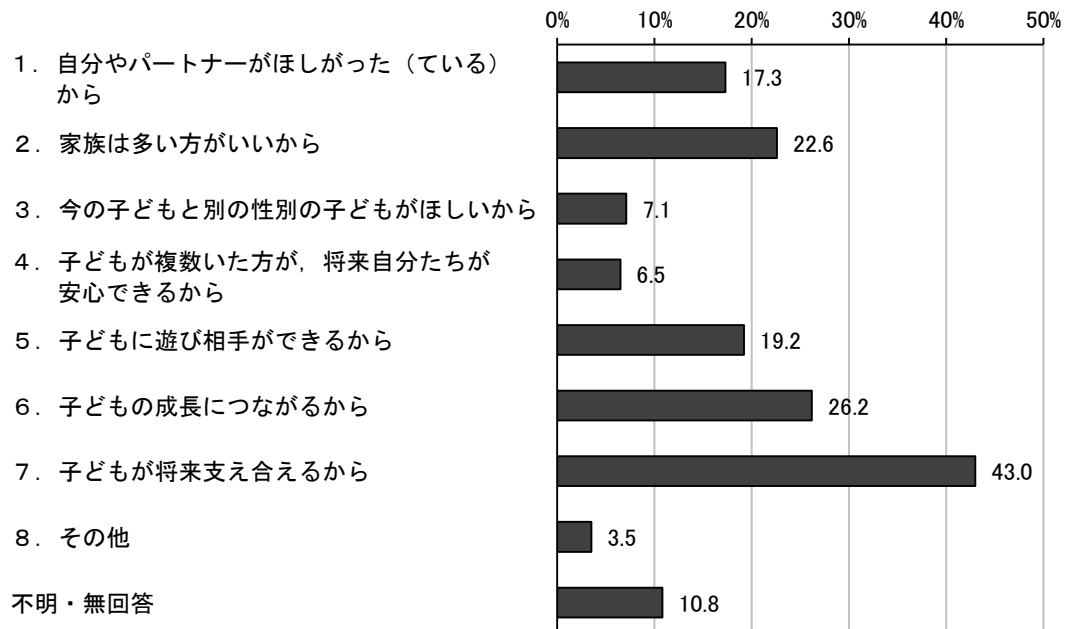
※平成 30 年は, 単数回答であるため, 各回答 (不明・無回答を含む。) の割合の合計は 100.0%となるが, 平成 25 年, 平成 20 年は, 複数回答であるため, 各回答 (不明・無回答を含む。) の割合の合計は 100.0%を超える

問 27 で「2～5」と答えた方

問 31 理想とする子どもの数が2人以上の理由をお答えください。(〇は2つまで)

「7. 子どもが将来支え合えるから」が 43.0%と最も高く、次いで「6. 子どもの成長につながるから」が 26.2%, 「2. 家族は多い方がいいから」が 22.6%となっています。

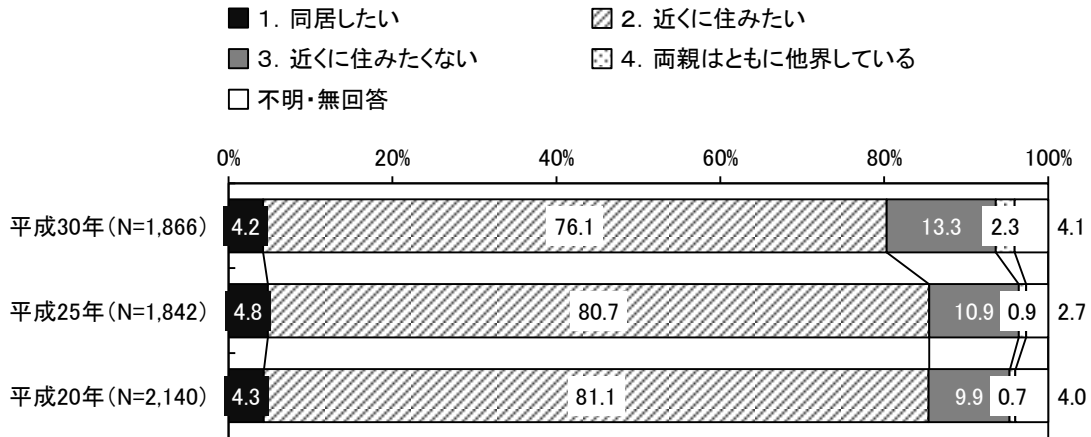
(N=1,560)



**問 32(1) あなたは出産後の実家との関わり方についてどう思いますか。(〇は1つ)**

「2. 近くに住みたい」が76.1%と最も高く、次いで「3. 近くに住みたくない」が13.3%、「1. 同居したい」が4.2%となっています。

過去調査と比較すると、「2. 近くに住みたい」が平成25年より4.6ポイント、平成20年より5.0ポイント低くなっています。

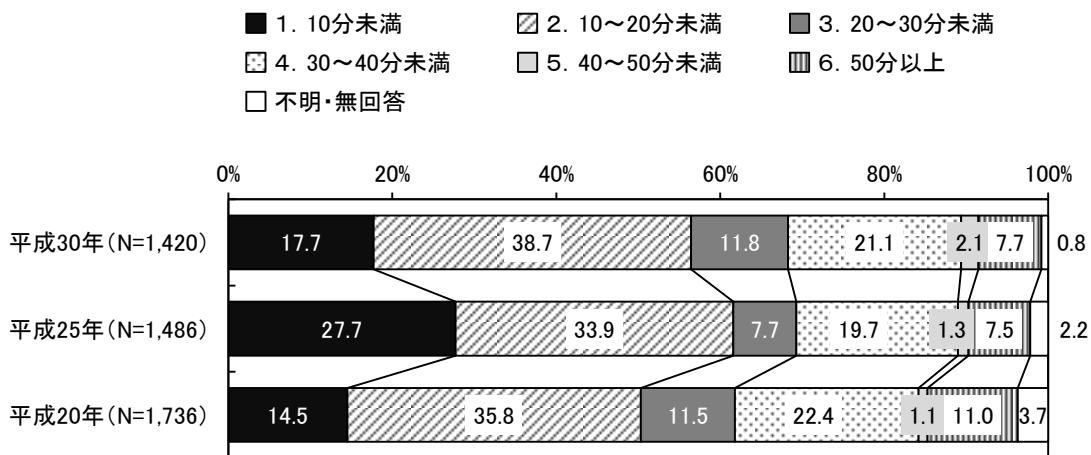


**問 32(1)で「2」と答えた方**

**問 32(2) 実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。**

「2. 10～20分未満」が38.7%と最も高く、次いで「4. 30～40分未満」が21.1%、「1. 10分未満」が17.7%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 10分未満」が10.0ポイント低くなっています。

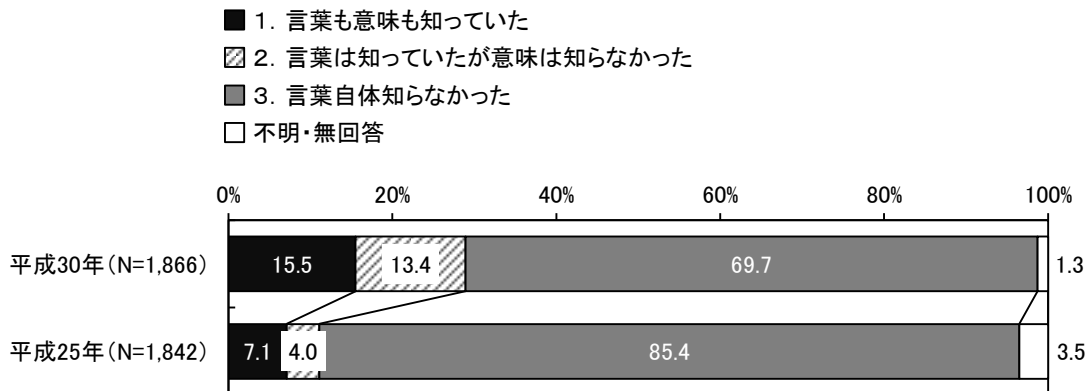


## 5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について

問 33 あなたは、京都市が提案している「真のワーク・ライフ・バランス」について知っていましたか。(〇は1つ)

「3. 言葉自体知らなかった」が 69.7%と最も高く、次いで「1. 言葉も意味も知っていた」が 15.5%となっています。

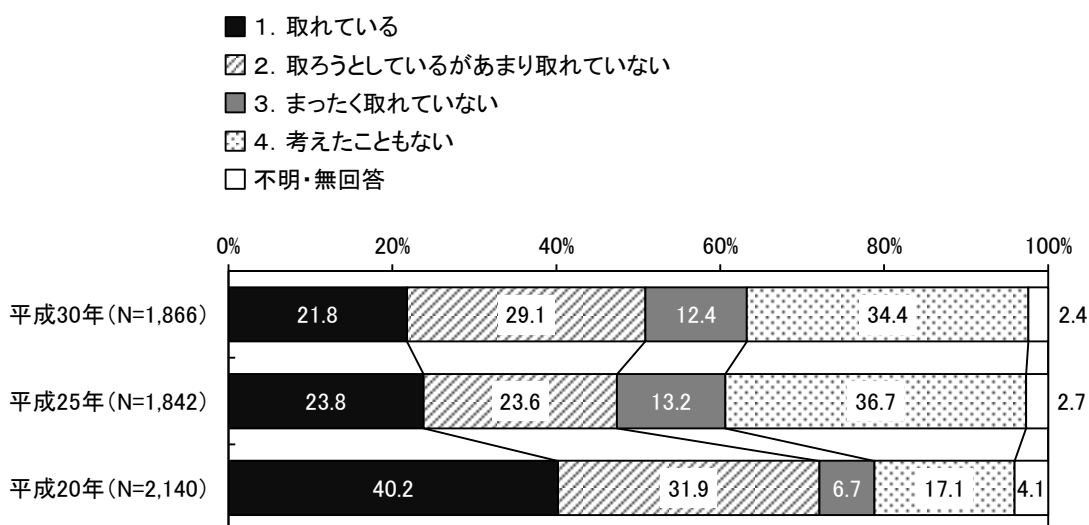
平成 25 年と比較すると、「3. 言葉自体知らなかった」(平成 25 年では「3. 言葉も知らない」)が 15.7 ポイント低くなっています。



問 34(1) あなたは、ご自身やご家族について、希望どおりに「真のワーク・ライフ・バランス」が取れていると思いますか。(〇は1つ)

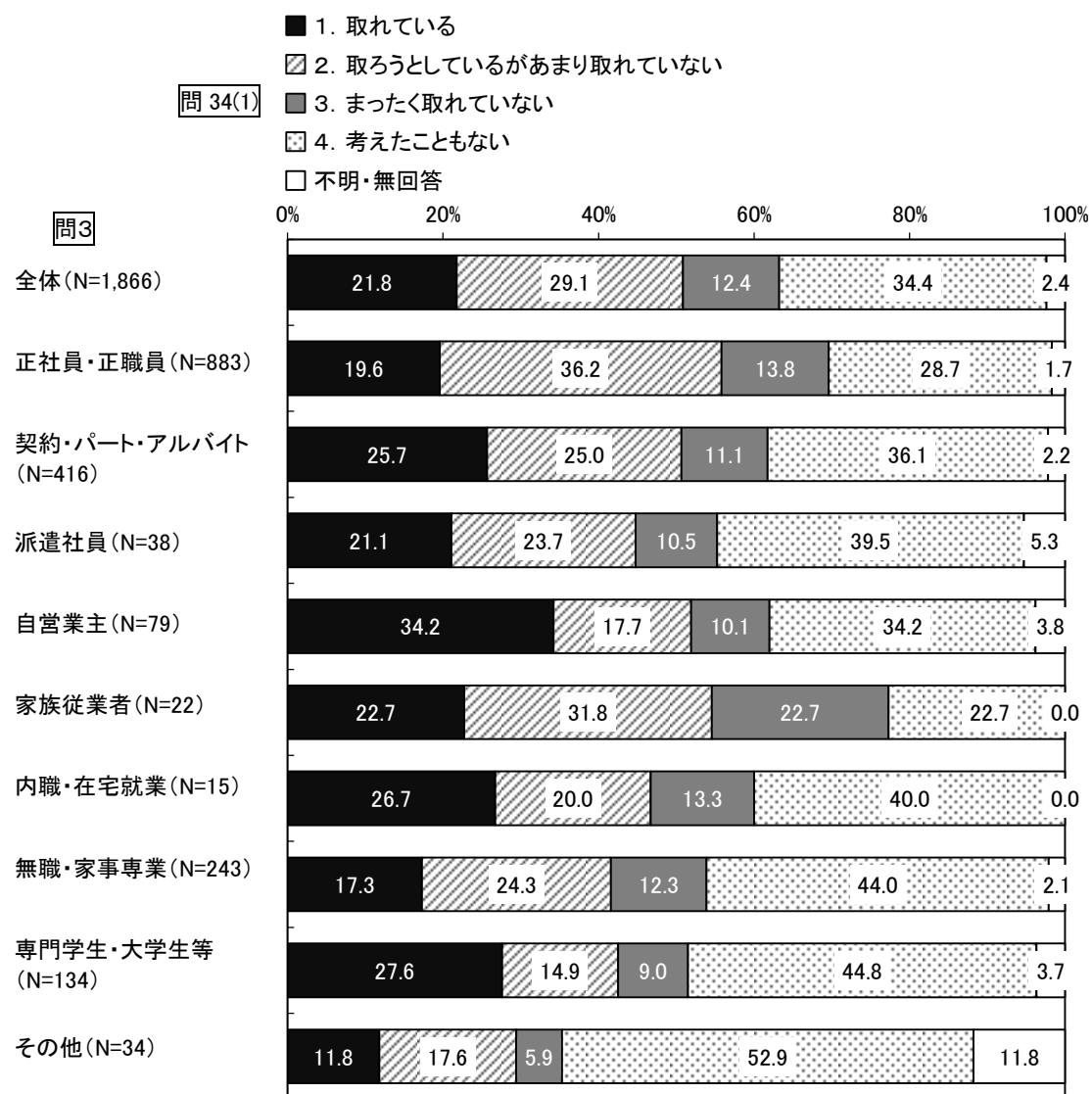
「4. 考えたこともない」が 34.4%と最も高く、次いで「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が 29.1%、「1. 取れている」が 21.8%となっています。

平成 25 年と比較すると、「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が 5.5 ポイント高く、平成 20 年と比較すると、「1. 取れている」が 18.4 ポイント低くなっています。



《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか×問 3 就労形態別》

「正社員・正職員」「家族従業者」では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、 「自営業主」では「1. 取れている」「4. 考えたこともない」、それ以外の区分では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。

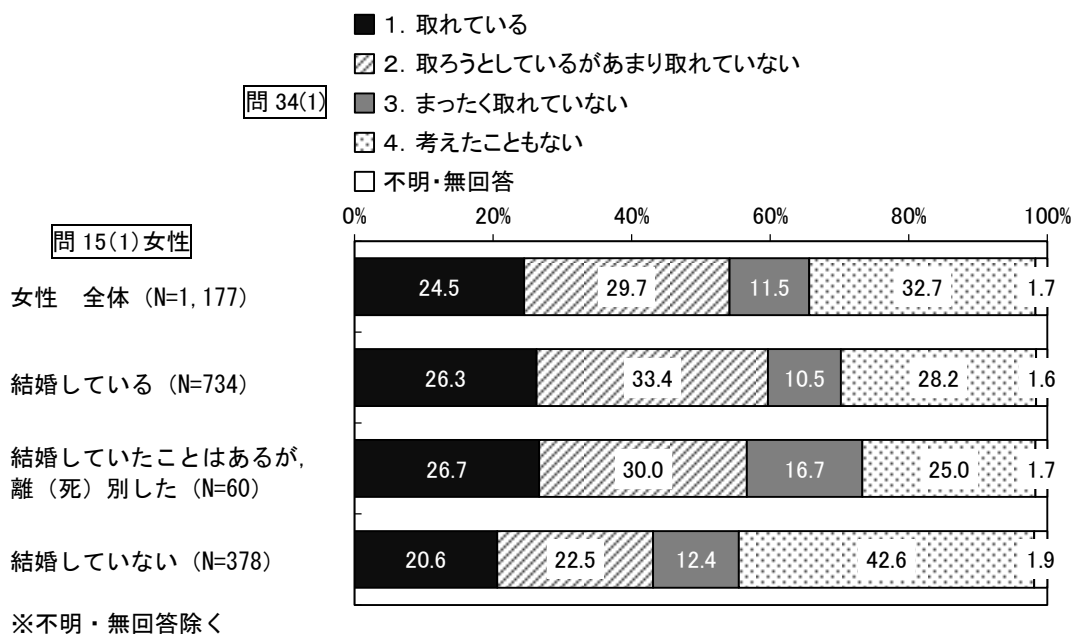
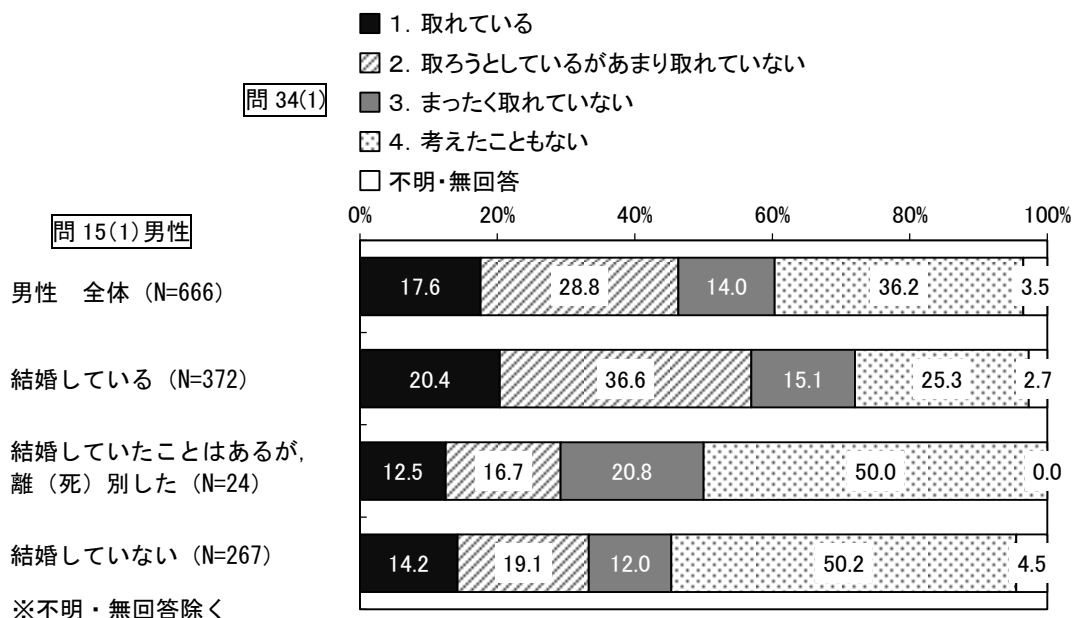


※不明・無回答除く

《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか×問 15(1)結婚の有無別》

男性の「結婚している」では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、それ以外の区分では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。

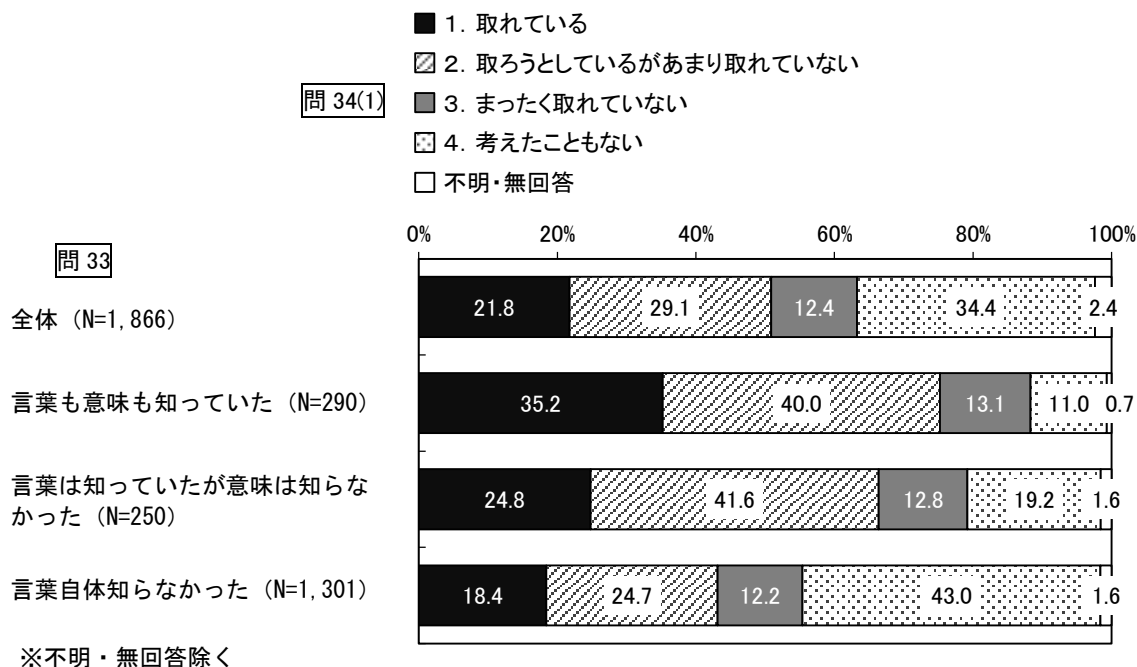
女性の「結婚している」「結婚していたことはあるが、離（死）別した」では「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」、「結婚していない」では「4. 考えたこともない」の割合が最も高くなっています。



《問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」が取れているか》

問 33「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度別》

「真のワーク・ライフ・バランス」について知っている人ほど「取れている」の割合が高くなる傾向がみられます。

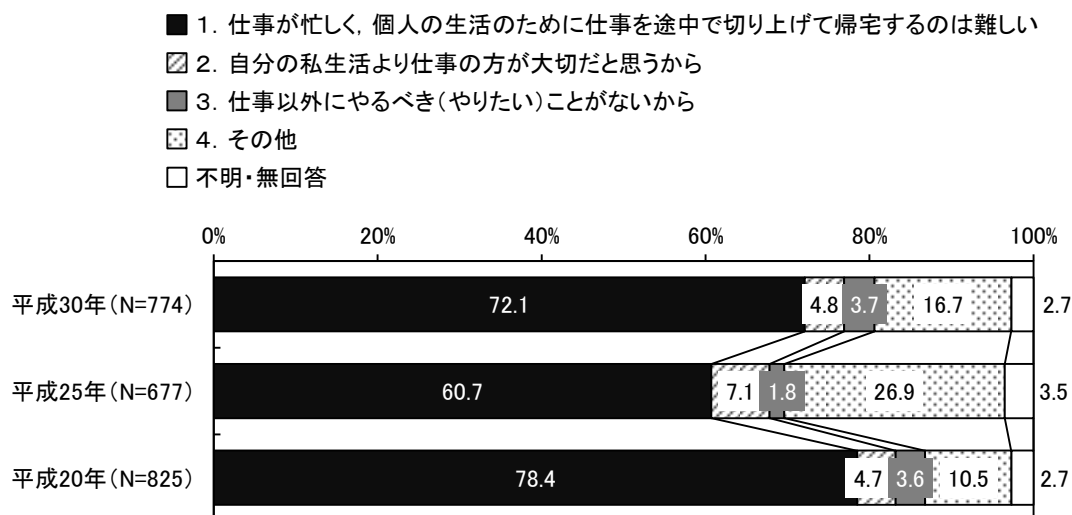


問 34(1)で「2」または「3」と答えた方

問 34(2) 取れていない理由は何ですか。(○は1つ)

「その他」を除き、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を途中で切り上げて帰宅するのは難しい」が72.1%と最も高く、次いで「2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから」が4.8%となっています。

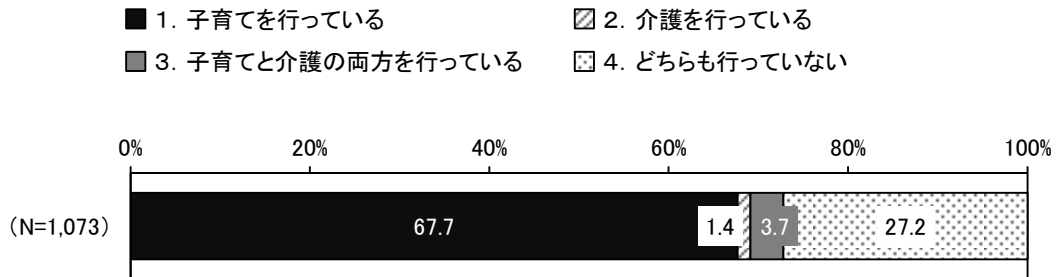
過去調査と比較すると、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を途中で切り上げて帰宅するのは難しい」が平成25年より11.4ポイント高く、平成20年より6.3ポイント低くなっています。



問 35(1) あなたは普段、小学生以下のお子さまの子育てやご家族の介護をされていますか。

(○は1つ)

「1. 子育てを行っている」が67.7%と最も高く、次いで「4. どちらも行っていない」が27.2%、「3. 子育てと介護の両方を行っている」が3.7%となっています。



※不明・無回答除く

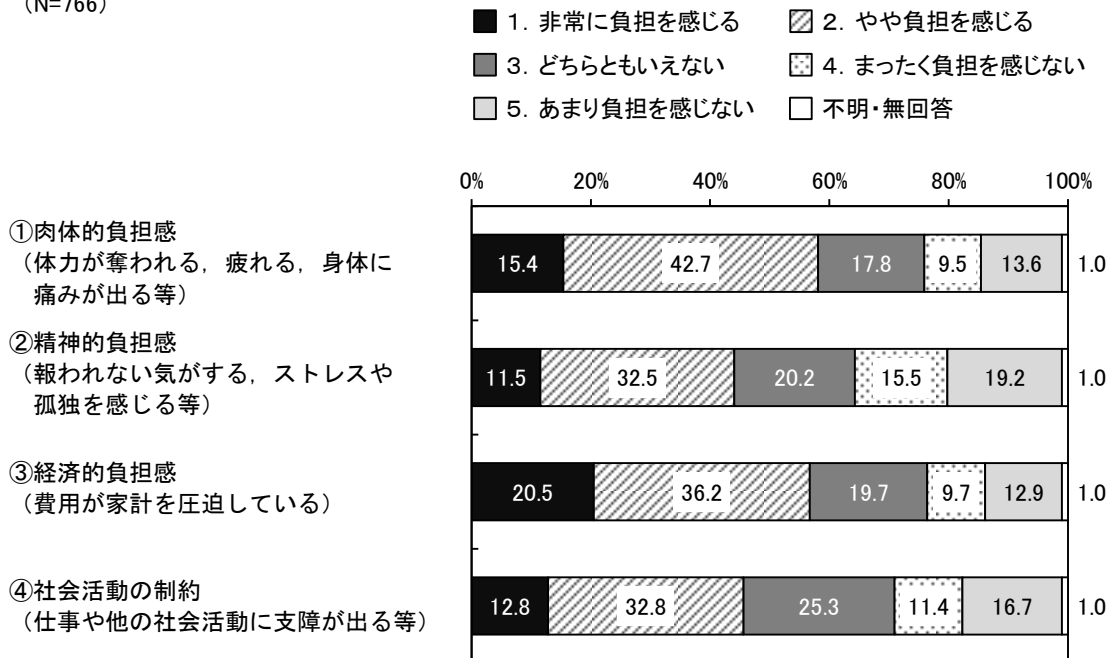
問 35(1)で「1」または「3」と答えた方

問 35(2) あなたは普段、「子育て」に対して以下のような負担を感じますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」は、[①肉体的負担感（体力が奪われる、疲れる、身体に痛みが出る等）]が58.1%と最も高く、次いで[③経済的負担感（費用が家計を圧迫している）]が56.7%となっています。

(N=766)





## 《問 35(2)「子育て」の負担感×問 1 性別》

男性の「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」は、  
 [③経済的負担感（費用が家計を圧迫している）] の割合が最も高くなっています。

女性の「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」は、  
 [①肉体的負担感（体力が奪われる，疲れる，身体に痛みが出る等）] の割合が最も高くなっています。

女性はすべての区分で男性と比べて「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」の割合が高くなっています。

(N=229)

問 1

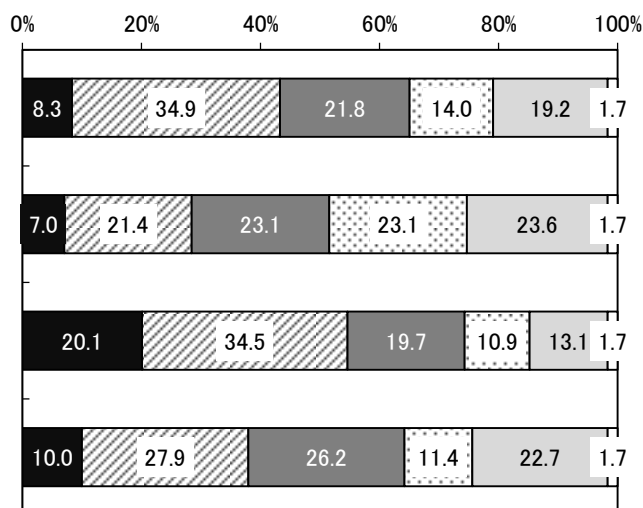
男性

- ①肉体的負担感  
 (体力が奪われる, 疲れる, 身体に痛みが出る等)
- ②精神的負担感  
 (報われない気がする, ストレスや孤独を感じる等)
- ③経済的負担感  
 (費用が家計を圧迫している)
- ④社会活動の制約  
 (仕事や他の社会活動に支障が出る等)

※不明・無回答除く

問 35(2)

■ 1. 非常に負担を感じる    ▨ 2. やや負担を感じる  
 ■ 3. どちらともいえない    ▩ 4. まったく負担を感じない  
 □ 5. あまり負担を感じない    □ 不明・無回答



(N=527)

問 1

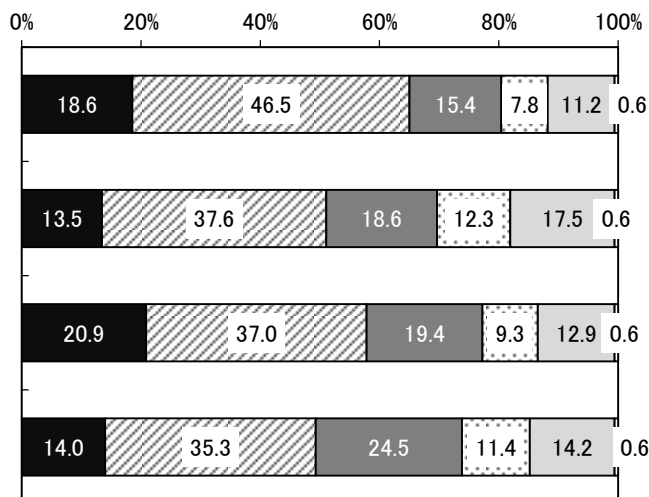
女性

- ①肉体的負担感  
 (体力が奪われる, 疲れる, 身体に痛みが出る等)
- ②精神的負担感  
 (報われない気がする, ストレスや孤独を感じる等)
- ③経済的負担感  
 (費用が家計を圧迫している)
- ④社会活動の制約  
 (仕事や他の社会活動に支障が出る等)

※不明・無回答除く

問 35(2)

■ 1. 非常に負担を感じる    ▨ 2. やや負担を感じる  
 ■ 3. どちらともいえない    ▩ 4. まったく負担を感じない  
 □ 5. あまり負担を感じない    □ 不明・無回答



## 《問 35(2)「子育て」の負担感×問 42(1)居留意向》

居留意向なしでは、すべての区分で居留意向ありと比べて「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」の割合が高くなっています。

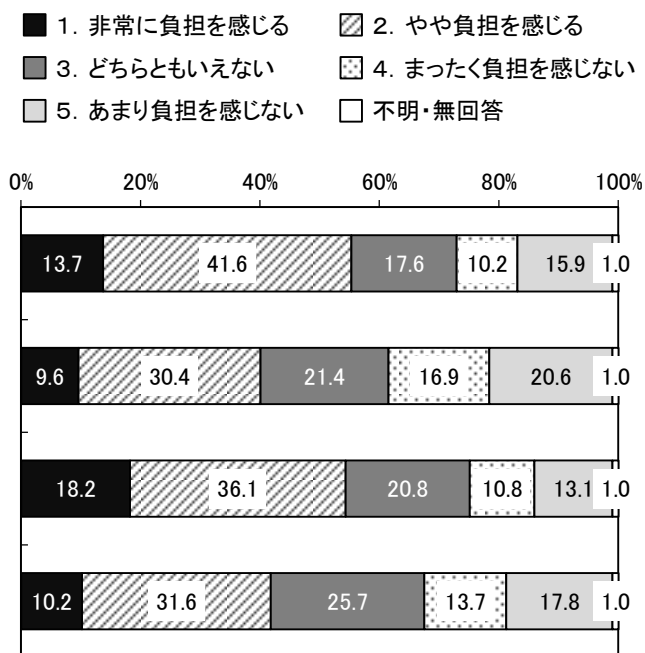
(N=490)

問 42(1)

居留意向あり

- ①肉体的負担感  
(体力が奪われる, 疲れる, 身体に痛みが出る等)
- ②精神的負担感  
(報われない気がする, ストレスや孤独を感じる等)
- ③経済的負担感  
(費用が家計を圧迫している)
- ④社会活動の制約  
(仕事や他の社会活動に支障が出る等)

※不明・無回答除く



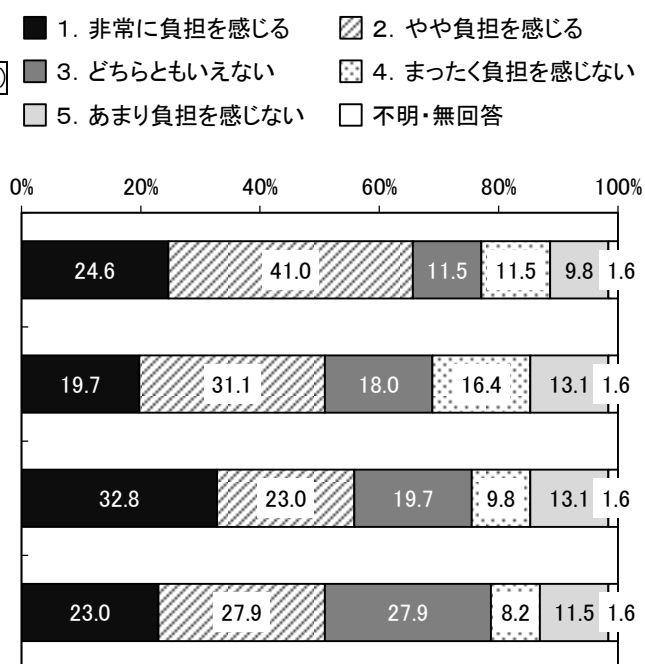
(N=61)

問 42(1)

居留意向なし

- ①肉体的負担感  
(体力が奪われる, 疲れる, 身体に痛みが出る等)
- ②精神的負担感  
(報われない気がする, ストレスや孤独を感じる等)
- ③経済的負担感  
(費用が家計を圧迫している)
- ④社会活動の制約  
(仕事や他の社会活動に支障が出る等)

※不明・無回答除く



問 35(1)で「2」または「3」と答えた方

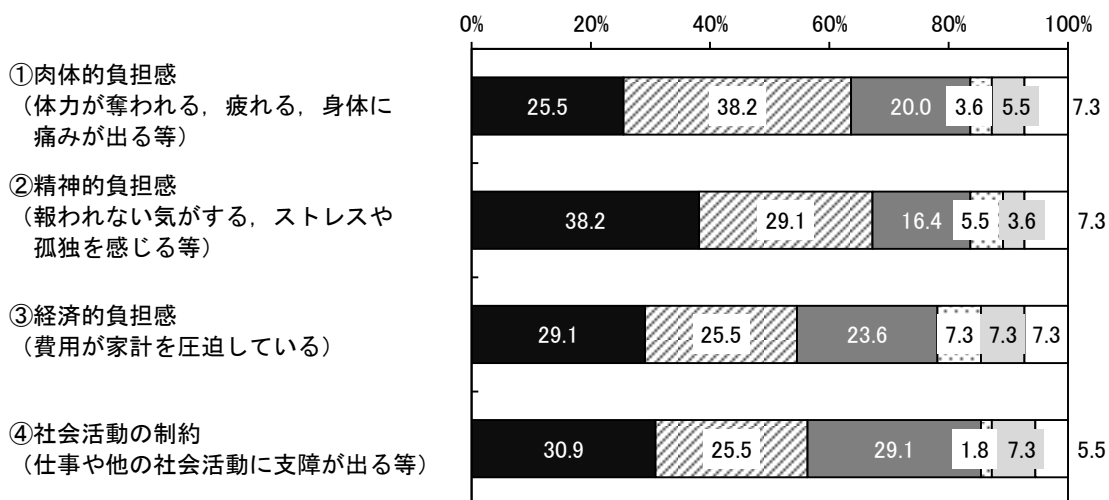
問 35(3) あなたは普段、「介護」に対して以下のような負担を感じますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

「負担を感じる（「1. 非常に負担を感じる」と「2. やや負担を感じる」の合計）」は、[②精神的負担感（報われない気がする，ストレスや孤独を感じる等）]が67.3%と最も高く，次いで[①肉体的負担感（体力が奪われる，疲れる，身体に痛みが出る等）]が63.7%となっています。

(N=55)

- 1. 非常に負担を感じる
- ▨ 2. やや負担を感じる
- 3. どちらともいえない
- ▨ 4. まったく負担を感じない
- 5. あまり負担を感じない
- 不明・無回答

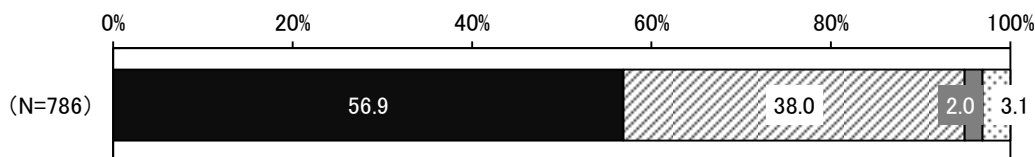


問 35(4) お子さまと一緒に過ごす時間（遊ぶ時間や勉強を教える時間）は取れていますか。

(○は1つ)

「1. 取れている」が56.9%と最も高く，次いで「2. 取ろうとしているがあまり取れていない」が38.0%，「4. 考えたこともない」が3.1%となっています。

- 1. 取れている
- ▨ 2. 取ろうとしているがあまり取れていない
- 3. まったく取れていない
- ▨ 4. 考えたこともない



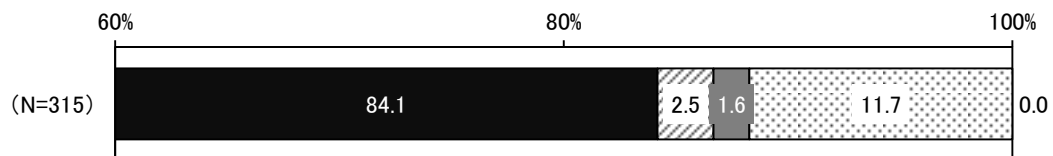
※不明・無回答除く

問 35(4)で「2」または「3」と答えた方

問 35(5) 取れていない理由は何ですか。(〇は1つ)

「その他」を除き、「1. 仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから」が84.1%と最も高く、次いで「2. 子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから」が2.5%となっています。

- 1. 仕事や家事, 介護等が忙しく時間がないから
- 2. 子どもとの時間より, 仕事の方が大切だと思うから
- 3. 子どもとの時間より, 趣味など自分のために使う時間の方が大切だと思うから
- 4. その他
- 不明・無回答



結婚している方（入籍していないいわゆる事実婚も含む。）

**問 36 結婚の前後であなたとパートナーの仕事の状況は変わりましたか。（○はそれぞれ1つずつ）**

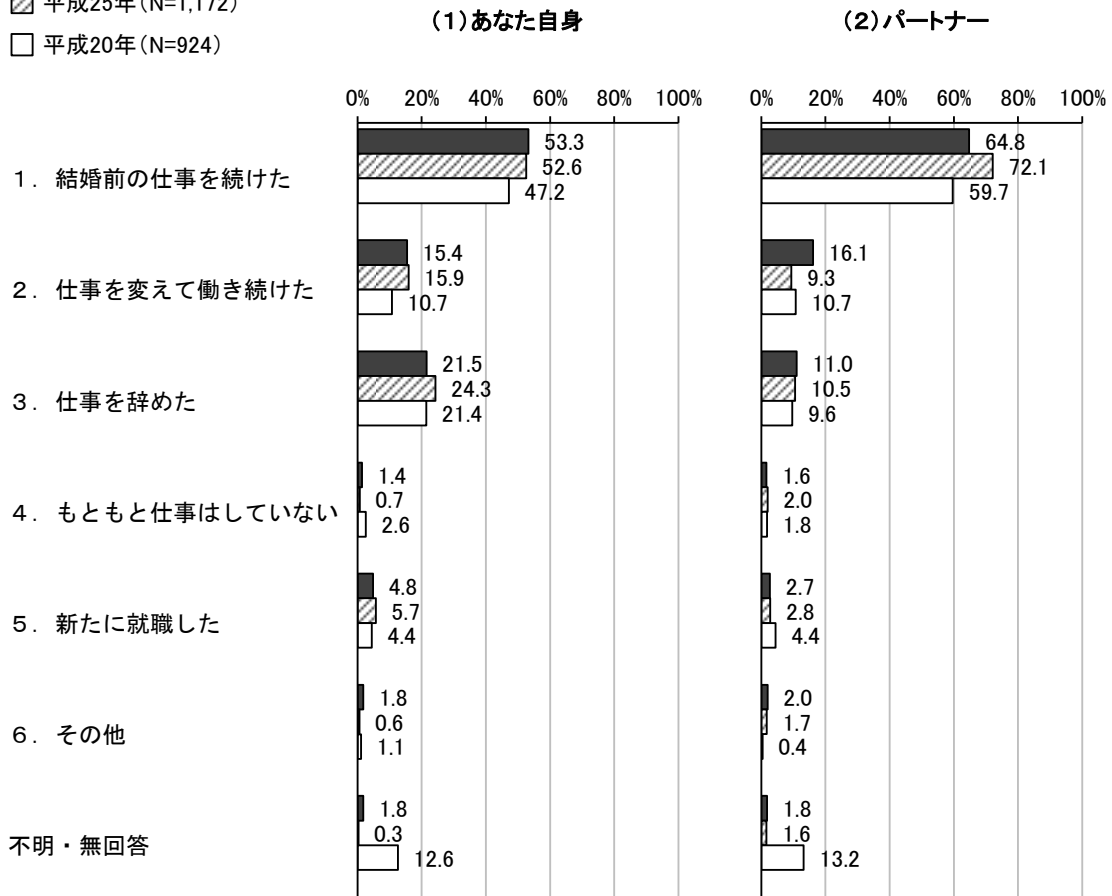
「(1) あなた自身」は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が53.3%と最も高く、次いで「3. 仕事を辞めた」が21.5%、「2. 仕事を変えて働き続けた」が15.4%となっています。

「(2) パートナー」は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が64.8%と最も高く、次いで「2. 仕事を変えて働き続けた」が16.1%、「3. 仕事を辞めた」が11.0%となっています。

過去調査と比較すると、「(1) あなた自身」は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が平成20年より6.1ポイント高くなっています。

「(2) パートナー」は、「1. 結婚前の仕事を続けた」が平成25年より7.3ポイント低く、「2. 仕事を変えて働き続けた」が平成20年より5.4ポイント高くなっています。

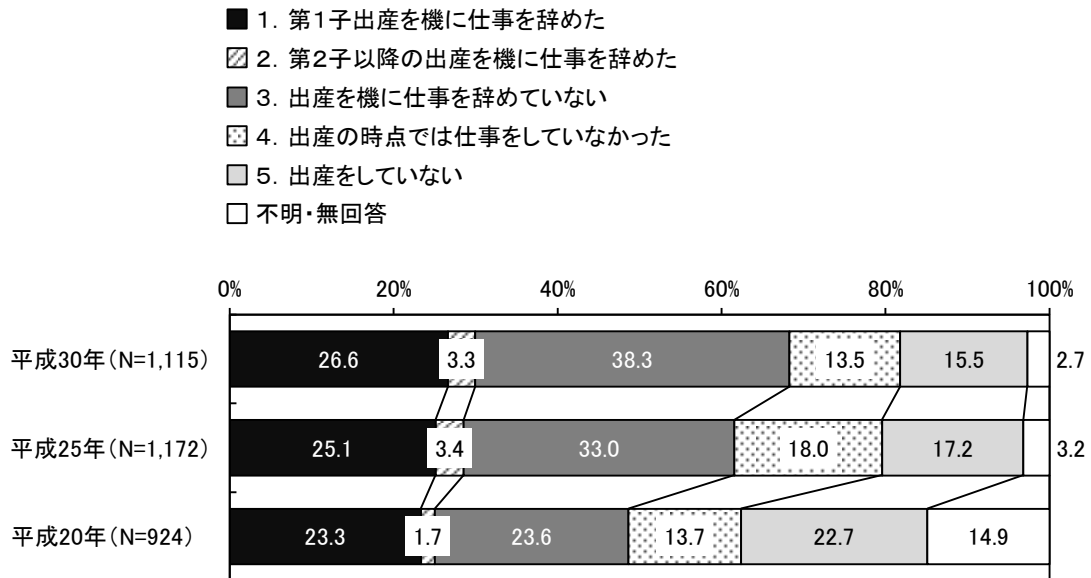
- 平成30年 (N=1,115)
- ▨ 平成25年 (N=1,172)
- 平成20年 (N=924)



**問 37(1) あなたは、出産（パートナーの出産を含む）を機に仕事を辞めた経験がありますか。（〇は1つ）**

「3. 出産を機に仕事を辞めていない」が38.3%と最も高く、次いで「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」が26.6%、「5. 出産をしていない」が15.5%となっています。

過去調査と比較すると、「3. 出産を機に仕事を辞めていない」が平成25年より5.3ポイント、平成20年より14.7ポイント高くなっています。

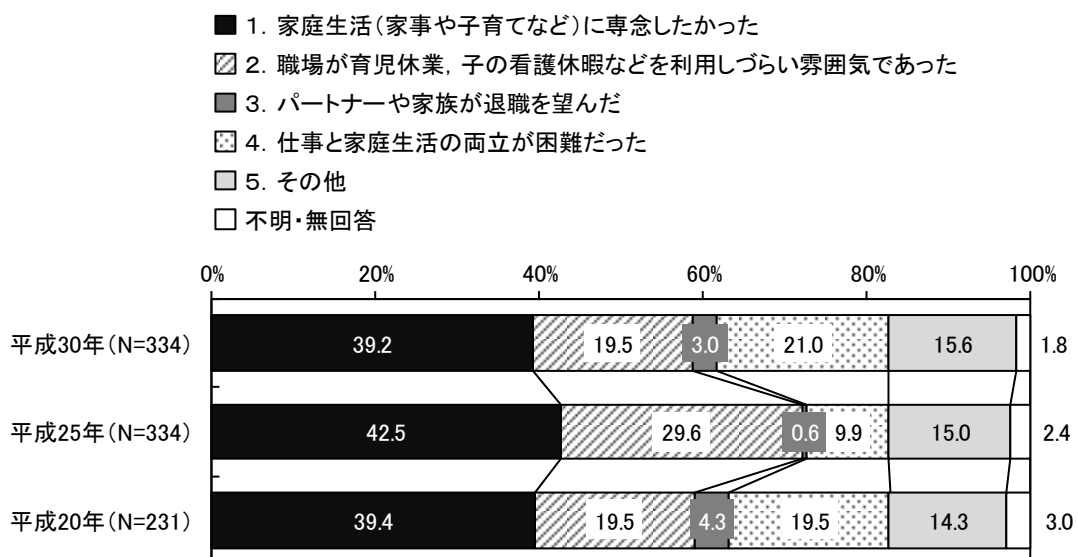


**問 37(1)で「1」または「2」と答えた方**

**問 37(2) 仕事を辞めた理由は何ですか。（〇は1つ）**

「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった」が39.2%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が21.0%、「2. 職場が育児休業、子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」が19.5%となっています。

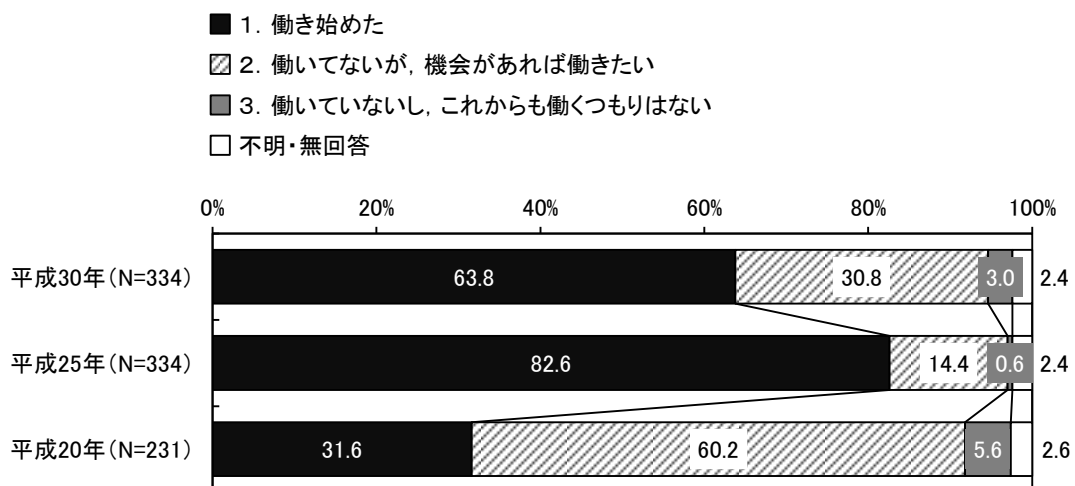
平成25年と比較すると、「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が11.1ポイント高く、「2. 職場が育児休業、子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」が10.1ポイント低くなっています。



### 問 37(3) 仕事を辞めた後、また働き始めましたか。(〇は1つ)

「1. 働き始めた」が63.8%と最も高く、次いで「2. 働いてないが、機会があれば働きたい」が30.8%となっています。

過去調査と比較すると、「1. 働き始めた」が平成25年より18.8ポイント低く、平成20年より32.2ポイント高くなっています。

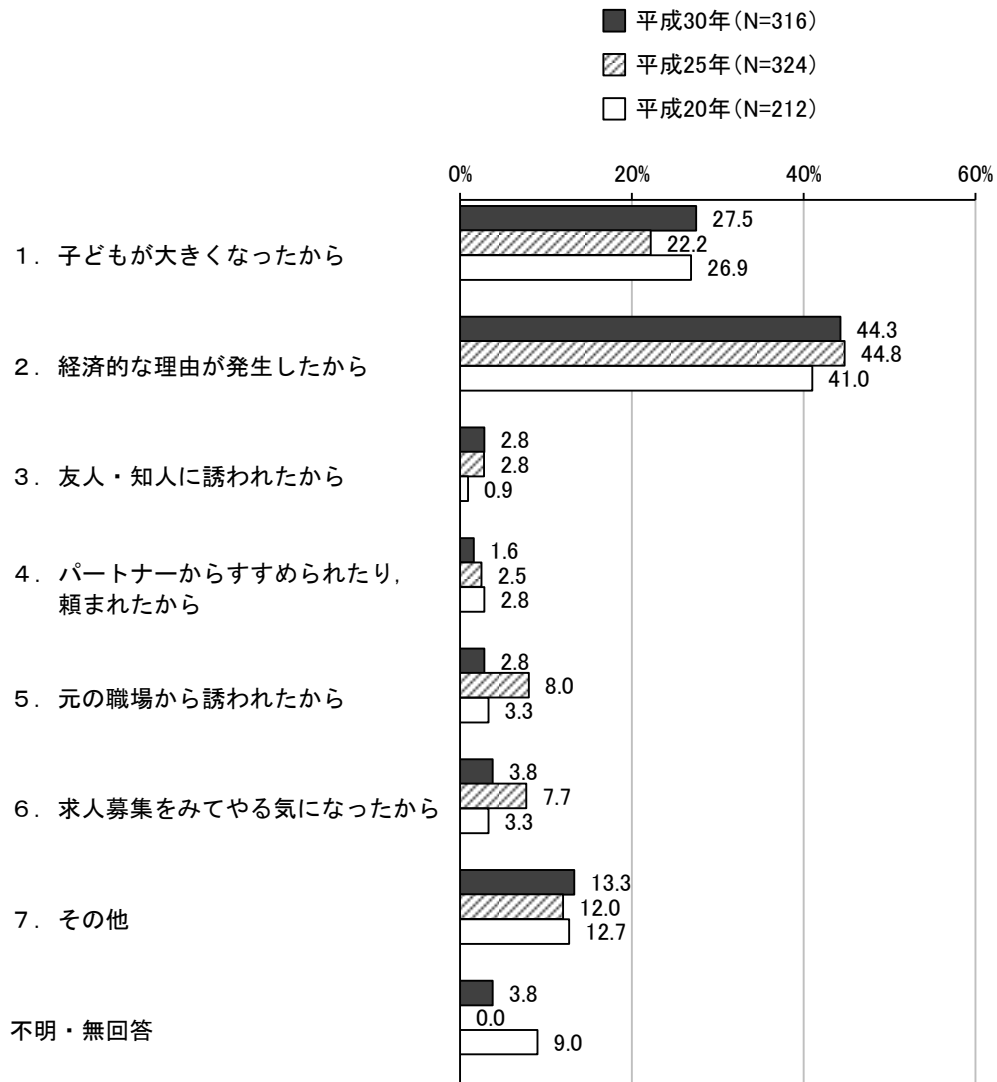


問 37(3)で「1」または「2」と答えた方

問 37(4) また働き始めた、あるいは機会があれば働きたいと思った最も大きなきっかけは何でしたか。(〇は1つ)

「2. 経済的な理由が発生したから」が44.3%と最も高く、次いで「1. 子どもが大きくなったから」が27.5%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 子どもが大きくなったから」が5.3ポイント高く、「5. 元の職場から誘われたから」が5.2ポイント低くなっています。

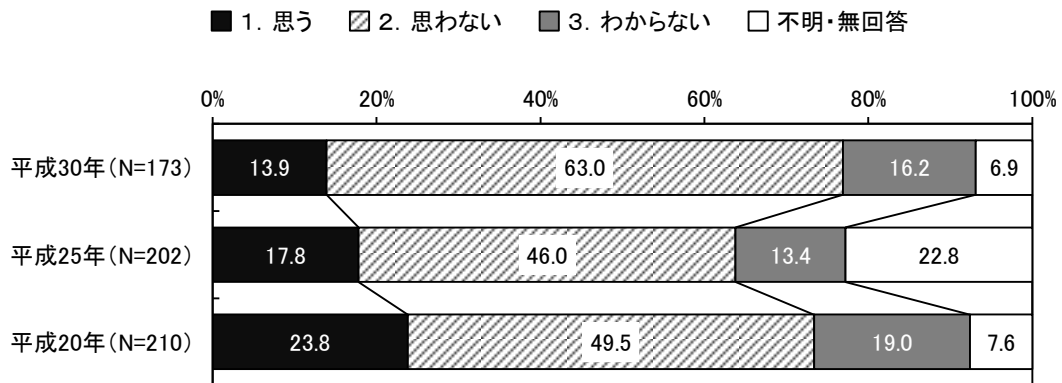




問 37(1)で「5」と答えた方

問 37(5) あなたは、出産（パートナーの出産を含む）を機に仕事を辞めようと思いますか。  
（○は1つ）

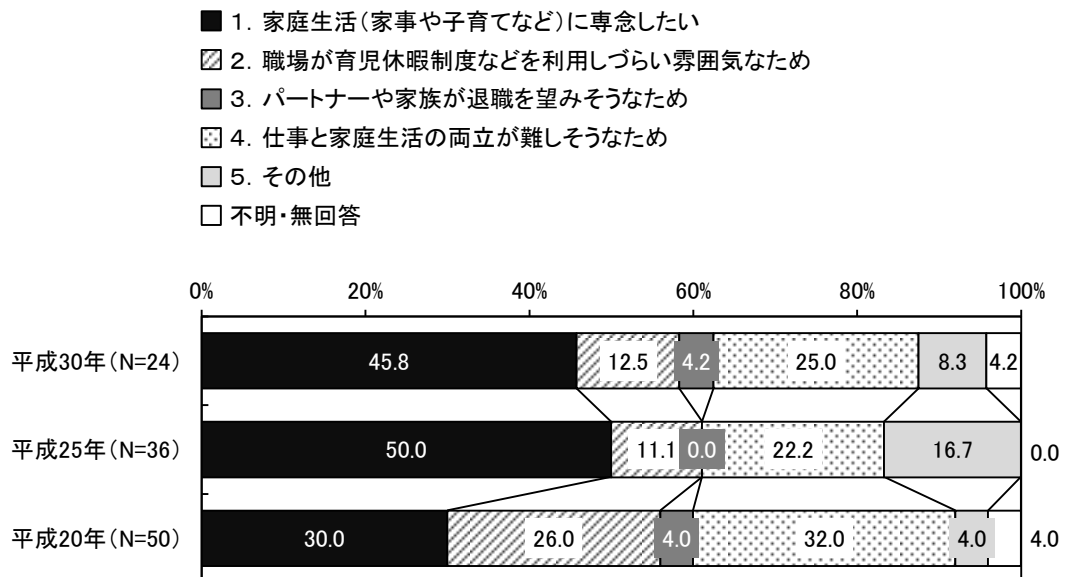
「2. 思わない」が63.0%と最も高く、次いで「3. わからない」が16.2%となっています。  
過去調査と比較すると、「2. 思わない」が平成25年より17.0ポイント、平成20年より13.5ポイント高くなっています。



問 37(5)で「1」と答えた方

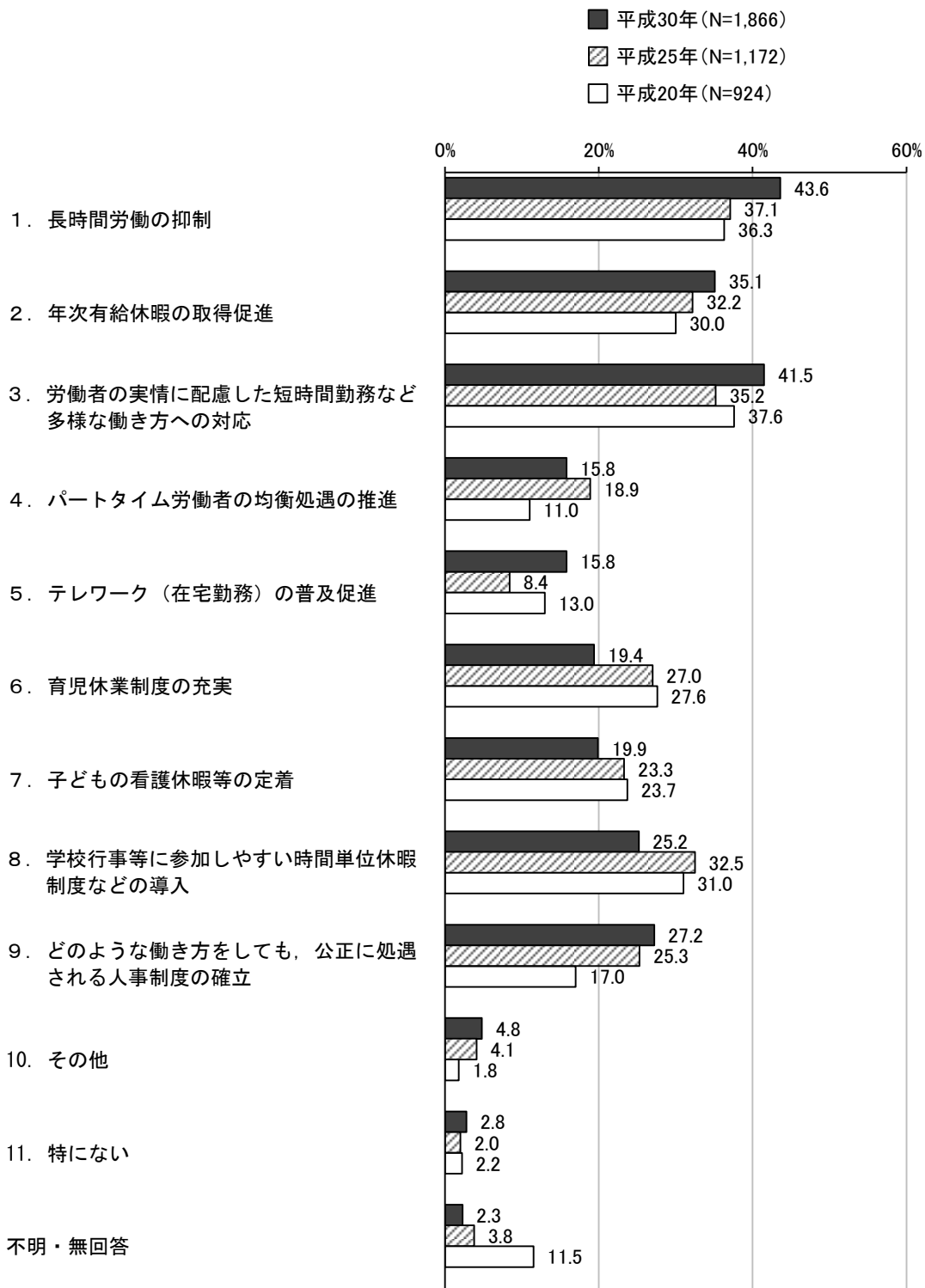
問 37(6) その理由は何ですか。（○は1つ）

「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」が45.8%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」が25.0%、「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」が12.5%となっています。



**問 38 真のワーク・ライフ・バランスの実現のために、企業等にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。(〇は3つまで)**

「1. 長時間労働の抑制」が43.6%と最も高く、次いで「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が41.5%、「2. 年次有給休暇の取得促進」が35.1%となっています。



※平成 25 年、平成 20 年は、前段の設定で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×問 1 性別》

「男性」では「長時間労働の抑制」, 「女性」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	長時間労働の抑制	年次有給休暇の取得促進	労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応	パートタイム労働者の均衡処遇の推進	テレワーク(在宅勤務)の普及促進	育児休業制度の充実
全 体		1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
性別	男性	666 100.0	337 50.6	268 40.2	245 36.8	70 10.5	109 16.4	157 23.6
	女性	1,177 100.0	465 39.5	378 32.1	520 44.2	221 18.8	183 15.5	199 16.9
	答えたくない	16 100.0	7 43.8	6 37.5	6 37.5	1 6.3	2 12.5	4 25.0
上段:件数 下段:%		合計	子どもの看護休暇等の定着	学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入	どのような働き方をしても、公正に処遇される人事制度の確立	その他	特になし	不明・無回答
全 体		1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
性別	男性	666 100.0	89 13.4	122 18.3	173 26.0	38 5.7	24 3.6	25 3.8
	女性	1,177 100.0	280 23.8	344 29.2	328 27.9	52 4.4	29 2.5	15 1.3
	答えたくない	16 100.0	2 12.5	3 18.8	5 31.3	0 0.0	0 0.0	2 12.5

※不明・無回答除く

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 15(1)結婚の有無別》

「結婚している」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」, 「結婚していたことはあるが, 離(死)別した」では「年次有給休暇の取得促進」, 「結婚していない」では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	長時間労働の抑制	年次有給休暇の取得促進	労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応	パートタイム労働者の均衡処遇の推進	テレワーク(在宅勤務)の普及促進	育児休業制度の充実
全体		1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
結婚の有無別	結婚している	1,115 100.0	456 40.9	335 30.0	482 43.2	192 17.2	172 15.4	200 17.9
	結婚していたことはあるが, 離(死)別した	86 100.0	28 32.6	35 40.7	27 31.4	14 16.3	10 11.6	9 10.5
	結婚していない	657 100.0	326 49.6	283 43.1	263 40.0	88 13.4	112 17.0	149 22.7
上段:件数 下段:%		合計	子どもの看護休暇等の定着	学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入	どのような働き方をしても, 公正に処遇される人事制度の確立	その他	特にない	不明・無回答
全体		1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
結婚の有無別	結婚している	1,115 100.0	296 26.5	348 31.2	286 25.7	49 4.4	31 2.8	13 1.2
	結婚していたことはあるが, 離(死)別した	86 100.0	17 19.8	27 31.4	29 33.7	4 4.7	6 7.0	2 2.3
	結婚していない	657 100.0	58 8.8	94 14.3	190 28.9	37 5.6	16 2.4	26 4.0

※不明・無回答除く

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 27 理想の子どもの人数別》

理想の子どもの人数が「1～3人」「多ければ多い方がいい」「ほしくない」では「長時間労働の抑制」,「4人以上」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	長時間労働の抑制	年次有給休暇の取得促進	労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応	パートタイム労働者の均衡処遇の推進	テレワーク(在宅勤務)の普及促進	育児休業制度の充実	
全体	1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4	
理想の子どもの人数別	1人	113 100.0	54 47.8	43 38.1	43 38.1	20 17.7	12 10.6	25 22.1
	2人	899 100.0	398 44.3	321 35.7	393 43.7	149 16.6	142 15.8	171 19.0
	3人	556 100.0	236 42.4	185 33.3	229 41.2	89 16.0	83 14.9	126 22.7
	4人以上	42 100.0	13 31.0	15 35.7	18 42.9	5 11.9	7 16.7	5 11.9
	多ければ多い方がいい	63 100.0	33 52.4	20 31.7	25 39.7	6 9.5	12 19.0	13 20.6
	ほしくない	131 100.0	61 46.6	55 42.0	46 35.1	14 10.7	31 23.7	14 10.7
	全体	1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
理想の子どもの人数別	1人	113 100.0	15 13.3	19 16.8	36 31.9	4 3.5	5 4.4	3 2.7
	2人	899 100.0	174 19.4	239 26.6	229 25.5	39 4.3	15 1.7	14 1.6
	3人	556 100.0	148 26.6	165 29.7	152 27.3	32 5.8	15 2.7	6 1.1
	4人以上	42 100.0	13 31.0	15 35.7	9 21.4	2 4.8	4 9.5	0 0.0
	多ければ多い方がいい	63 100.0	13 20.6	15 23.8	21 33.3	2 3.2	2 3.2	0 0.0
	ほしくない	131 100.0	8 6.1	13 9.9	48 36.6	11 8.4	9 6.9	4 3.1
	全体	1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
1人	113 100.0	15 13.3	19 16.8	36 31.9	4 3.5	5 4.4	3 2.7	
2人	899 100.0	174 19.4	239 26.6	229 25.5	39 4.3	15 1.7	14 1.6	
3人	556 100.0	148 26.6	165 29.7	152 27.3	32 5.8	15 2.7	6 1.1	
4人以上	42 100.0	13 31.0	15 35.7	9 21.4	2 4.8	4 9.5	0 0.0	
多ければ多い方がいい	63 100.0	13 20.6	15 23.8	21 33.3	2 3.2	2 3.2	0 0.0	
ほしくない	131 100.0	8 6.1	13 9.9	48 36.6	11 8.4	9 6.9	4 3.1	

※不明・無回答除く

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 33 「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度別》

「言葉も意味も知っていた」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」, 「言葉は知っていたが意味は知らなかった」「言葉自体知らなかった」では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	長時間労働 の抑制	年次有給休 暇の取得促 進	労働者の実 情に配慮し た短時間勤 務など多様 な働き方へ の対応	パートタイム 労働者の均 衡処遇の推 進	テレワーク (在宅勤務) の普及促進	育児休業制 度の充実
全 体		1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
スラ ーイ 真 のフ の認 ・ワ 知バ 度ラ ク 別ン	言葉も意味も知っていた	290 100.0	127 43.8	109 37.6	143 49.3	43 14.8	54 18.6	46 15.9
	言葉は知っていたが意味は知らなかった	250 100.0	116 46.4	92 36.8	113 45.2	35 14.0	37 14.8	56 22.4
	言葉自体知らなかった	1,301 100.0	563 43.3	450 34.6	512 39.4	216 16.6	201 15.4	259 19.9
上段:件数 下段:%		合計	子どもの看 護休暇等の 定着	学校行事等 に参加しや すい時間単 位休暇制度 などの導入	どのような働 き方をして も、公正に 処遇される 人事制度の 確立	その他	特にない	不明・無回 答
全 体		1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
スラ ーイ 真 のフ の認 ・ワ 知バ 度ラ ク 別ン	言葉も意味も知っていた	290 100.0	64 22.1	67 23.1	91 31.4	17 5.9	2 0.7	4 1.4
	言葉は知っていたが意味は知らなかった	250 100.0	48 19.2	62 24.8	68 27.2	12 4.8	5 2.0	2 0.8
	言葉自体知らなかった	1,301 100.0	258 19.8	340 26.1	343 26.4	61 4.7	45 3.5	25 1.9

※不明・無回答除く

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×  
問 34(1) 「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別》

すべての区分で「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	長時間労働 の抑制	年次有給休 暇の取得促 進	労働者の実 情に配慮し た短時間勤 務など多様 な働き方へ の対応	パートタイム 労働者の均 衡処遇の推 進	テレワーク (在宅勤務) の普及促進	育児休業制 度の充実
全 体		1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
状況別 「真のワーク・ライフ・バランス」の	取れている	407 100.0	178 43.7	139 34.2	177 43.5	72 17.7	64 15.7	89 21.9
	取ろうとしているがあまり取れていない	543 100.0	250 46.0	197 36.3	247 45.5	78 14.4	95 17.5	110 20.3
	まったく取れていない	231 100.0	121 52.4	90 39.0	88 38.1	31 13.4	46 19.9	46 19.9
	考えたこともない	641 100.0	249 38.8	223 34.8	247 38.5	108 16.8	86 13.4	112 17.5
上段:件数 下段:%		合計	子どもの看 護休暇等の 定着	学校行事等 に参加しや すい時間単 位休暇制度 などの導入	どのような働 き方をして も、公正に 処遇される 人事制度の 確立	その他	特になし	不明・無回 答
全 体		1,866 100.0	20 108.0	25 123.0	27 94.0	5 8.0	3 7.0	2 6.0
状況別 「真のワーク・ライフ・バランス」の	取れている	407 100.0	27 113.0	30 146.0	23 165.0	2 37.0	2 5.0	2 3.0
	取ろうとしているがあまり取れていない	543 100.0	21 38.0	27 41.0	30 74.0	7 19.0	1 3.0	1 2.0
	まったく取れていない	231 100.0	17 109.0	18 156.0	32 168.0	8 25.0	1 37.0	1 16.0
	考えたこともない	641 100.0	17 19.2	24 24.8	26 27.2	4 4.8	6 2.0	3 0.8

※不明・無回答除く

《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 35(4)子どもと過ごす時間の取得状況別》

「取れている」「取ろうとしているがあまり取れていない」「まったく取れていない」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」、  
「考えたこともない」では「長時間労働の抑制」「年次有給休暇の取得促進」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	長時間労働 の抑制	年次有給休 暇の取得促 進	労働者の実 情に配慮し た短時間勤 務など多様 な働き方へ の対応	パートタイム 労働者の均 衡処遇の推 進	テレワーク (在宅勤務) の普及促進	育児休業制 度の充実
全 体		1,866 100.0	813 43.6	655 35.1	774 41.5	294 15.8	295 15.8	362 19.4
一 緒 取 得 過 ご す 時 間 の	取れている	447 100.0	181 40.5	129 28.9	196 43.8	64 14.3	72 16.1	89 19.9
	取ろうとしているが あまり取れていない	299 100.0	125 41.8	95 31.8	131 43.8	56 18.7	45 15.1	46 15.4
	まったく取れていない	16 100.0	3 18.8	6 37.5	7 43.8	4 25.0	2 12.5	2 12.5
	考えたこともない	24 100.0	9 37.5	9 37.5	5 20.8	2 8.3	5 20.8	6 25.0
上段:件数 下段:%		合計	子どもの看 護休暇等の 定着	学校行事等 に参加しや すい時間単 位休暇制度 などの導入	どのような働 き方をし ても、公正に 処遇される 人事制度の 確立	その他	特にな い	不明・無回 答
全 体		1,866 100.0	372 19.9	471 25.2	507 27.2	90 4.8	53 2.8	42 2.3
一 緒 取 得 過 ご す 時 間 の	取れている	447 100.0	144 32.2	160 35.8	115 25.7	15 3.4	9 2.0	4 0.9
	取ろうとしているが あまり取れていない	299 100.0	82 27.4	97 32.4	80 26.8	14 4.7	7 2.3	0 0.0
	まったく取れていない	16 100.0	2 12.5	6 37.5	5 31.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0
	考えたこともない	24 100.0	3 12.5	6 25.0	5 20.8	2 8.3	3 12.5	0 0.0

※不明・無回答除く



《問 38 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等に取り組んでほしいこと×

問 37(1)出産を機に仕事を辞めた経験別》

「第1子出産を機に仕事を辞めた」「第2子以降の出産を機に仕事を辞めた」「出産の時点では仕事をしていなかった」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」、  
「出産を機に仕事を辞めていない」「出産をしていない」では「長時間労働の抑制」の割合が最も高くなっています。

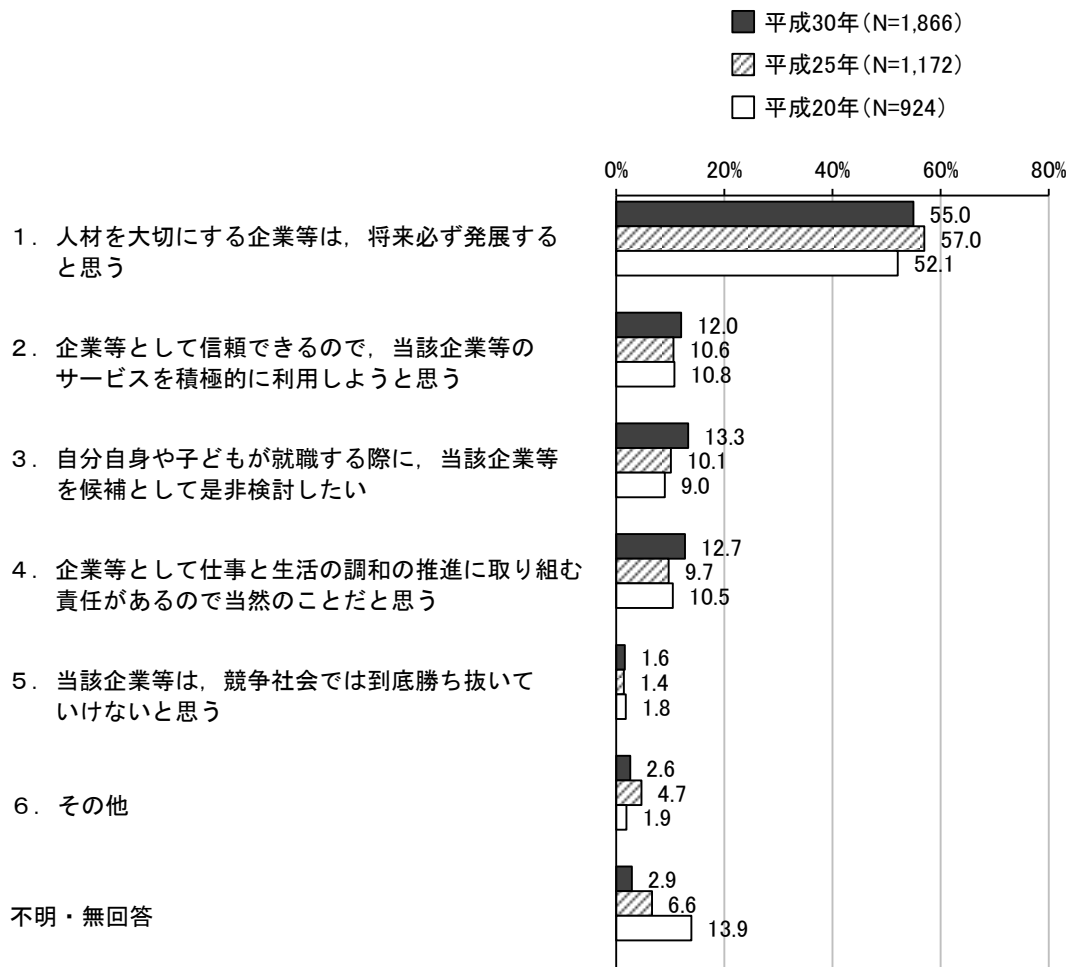
上段:件数 下段:%	合計	長時間労働の抑制	年次有給休暇の取得促進	労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応	パートタイム労働者の均衡処遇の推進	テレワーク(在宅勤務)の普及促進	育児休業制度の充実	
全体	1,115 100.0	456 40.9	335 30.0	482 43.2	192 17.2	172 15.4	200 17.9	
出産を機に仕事を辞めた経験別	第1子出産を機に仕事を辞めた	297 100.0	106 35.7	82 27.6	133 44.8	76 25.6	40 13.5	41 13.8
	第2子以降の出産を機に仕事を辞めた	37 100.0	10 27.0	8 21.6	18 48.6	10 27.0	6 16.2	6 16.2
	出産を機に仕事を辞めていない	427 100.0	203 47.5	151 35.4	185 43.3	43 10.1	75 17.6	90 21.1
	出産の時点では仕事をしていなかった	151 100.0	53 35.1	30 19.9	72 47.7	33 21.9	17 11.3	25 16.6
	出産をしていない	173 100.0	75 43.4	60 34.7	67 38.7	26 15.0	33 19.1	32 18.5

上段:件数 下段:%	合計	子どもの看護休暇等の定着	学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入	どのような働き方をして、公正に処遇される人事制度の確立	その他	特になし	不明・無回答	
全体	1,115 100.0	296 26.5	348 31.2	286 25.7	49 4.4	31 2.8	13 1.2	
出産を機に仕事を辞めた経験別	第1子出産を機に仕事を辞めた	297 100.0	103 34.7	114 38.4	61 20.5	6 2.0	8 2.7	3 1.0
	第2子以降の出産を機に仕事を辞めた	37 100.0	10 27.0	17 45.9	9 24.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	出産を機に仕事を辞めていない	427 100.0	105 24.6	116 27.2	115 26.9	26 6.1	9 2.1	2 0.5
	出産の時点では仕事をしていなかった	151 100.0	43 28.5	61 40.4	35 23.2	2 1.3	5 3.3	0 0.0
	出産をしていない	173 100.0	32 18.5	32 18.5	59 34.1	13 7.5	8 4.6	2 1.2

※不明・無回答除く

**問 39 真のワーク・ライフ・バランスを積極的に推進したり、理解がある企業等についてどのよ  
うに思いますか。(〇は1つ)**

「1. 人材を大切にしている企業等は、将来必ず発展すると思う」が55.0%と最も高く、次いで「3. 自分自身や子どもが就職する際に、当該企業等を候補として是非検討したい」が13.3%、「4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う」が12.7%となっています。



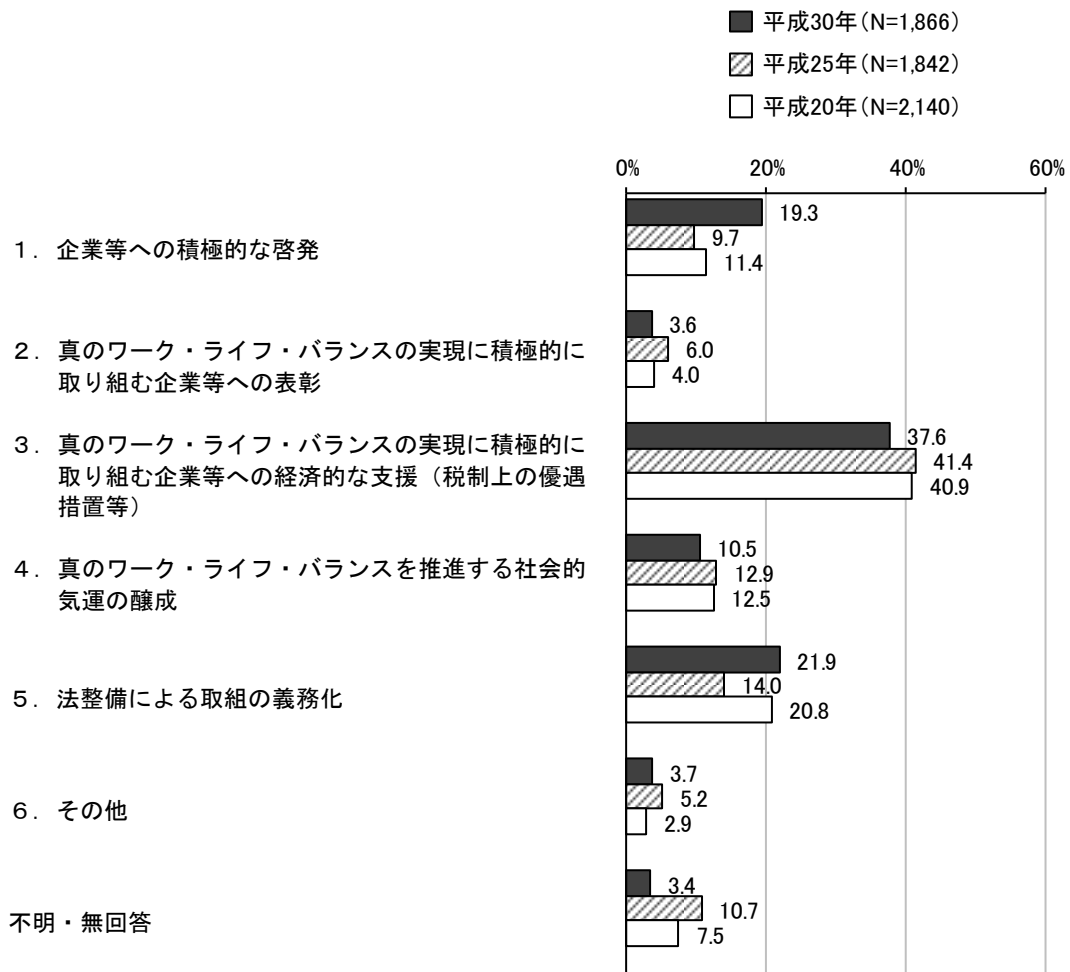
※平成 25 年、平成 20 年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

問 40 真のワーク・ライフ・バランスの実現のため、国や京都市にどのようなことを期待しますか。

(○は1つ)

「3. 真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」が37.6%と最も高く、次いで「5. 法整備による取組の義務化」が21.9%、「1. 企業等への積極的な啓発」が19.3%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 企業等への積極的な啓発」が9.6ポイント、「5. 法整備による取組の義務化」が7.9ポイント高く、平成20年と比較すると、「1. 企業等への積極的な啓発」が7.9ポイント高くなっています。



《問 40 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 27 理想の子どもの人数別》

理想の子どもの人数が「1～4人以上」「ほしくない」では「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」、「多ければ多い方がいい」では「法整備による取組の義務化」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	企業等への積極的な啓発	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への表彰	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)	真のワーク・ライフ・バランスを推進する社会的気運の醸成	法整備による取組の義務化	その他	不明・無回答	
全体	1,866 100.0	361 19.3	67 3.6	701 37.6	195 10.5	409 21.9	69 3.7	64 3.4	
理想の子どもの人数別	1人	113 100.0	22 19.5	4 3.5	41 36.3	12 10.6	26 23.0	5 4.4	3 2.7
	2人	899 100.0	191 21.2	33 3.7	355 39.5	92 10.2	175 19.5	27 3.0	26 2.9
	3人	556 100.0	105 18.9	22 4.0	212 38.1	67 12.1	117 21.0	22 4.0	11 2.0
	4人以上	42 100.0	9 21.4	4 9.5	11 26.2	5 11.9	10 23.8	2 4.8	1 2.4
	多ければ多い方がいい	63 100.0	9 14.3	0 0.0	24 38.1	2 3.2	26 41.3	2 3.2	0 0.0
	ほしくない	131 100.0	14 10.7	2 1.5	44 33.6	13 9.9	43 32.8	8 6.1	7 5.3

※不明・無回答除く

《問 40 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 34(1) 「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別》

すべての区分で「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	企業等への積極的な啓発	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への表彰	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)	真のワーク・ライフ・バランスを推進する社会的気運の醸成	法整備による取組の義務化	その他	不明・無回答	
全体	1,866 100.0	361 19.3	67 3.6	701 37.6	195 10.5	409 21.9	69 3.7	64 3.4	
「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別	取れている	407 100.0	92 22.6	22 5.4	169 41.5	44 10.8	60 14.7	11 2.7	9 2.2
	取ろうとしているがあまり取れていない	543 100.0	75 13.8	14 2.6	221 40.7	73 13.4	138 25.4	15 2.8	7 1.3
	まったく取れていない	231 100.0	35 15.2	5 2.2	77 33.3	24 10.4	75 32.5	13 5.6	2 0.9
	考えたこともない	641 100.0	152 23.7	26 4.1	223 34.8	54 8.4	129 20.1	30 4.7	27 4.2

※不明・無回答除く

《問 40「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために期待すること×

問 37(1)出産を機に仕事を辞めた経験別》

すべての区分で「真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」の割合が最も高くなっています。

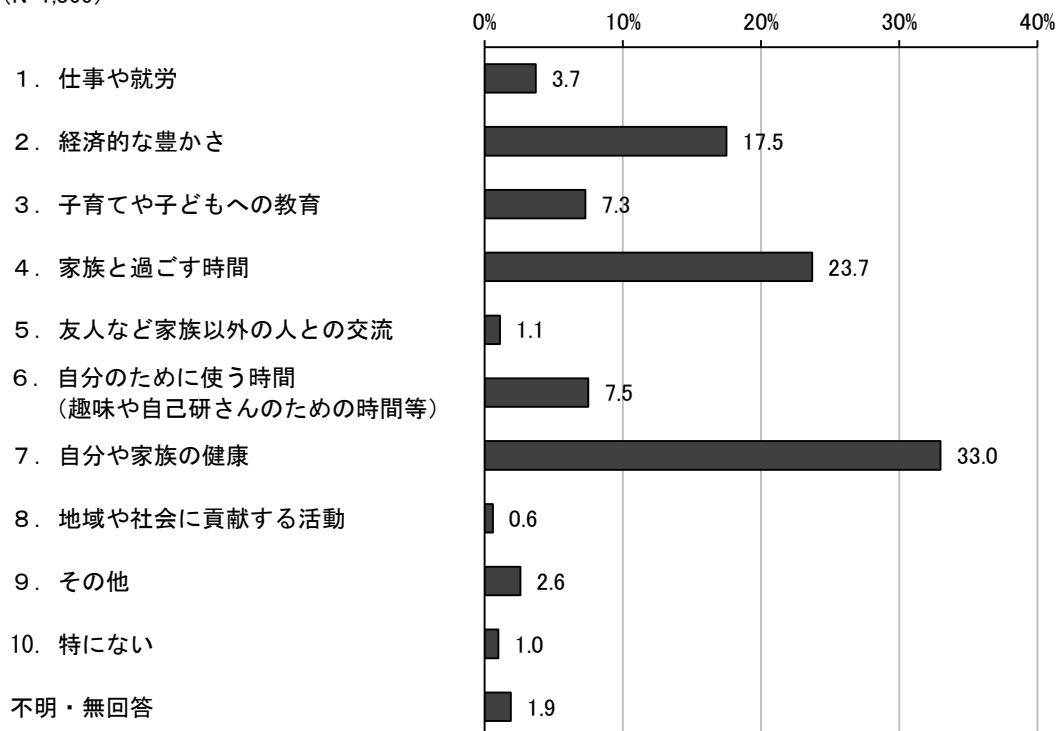
上段:件数 下段:%	合計	企業等への積極的な啓発	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への表彰	真のワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）	真のワーク・ライフ・バランスを推進する社会的気運の醸成	法整備による取組の義務化	その他	不明・無回答	
全体	1,115 100.0	225 20.2	34 3.0	428 38.4	111 10.0	247 22.2	38 3.4	32 2.9	
出産を機に仕事を辞めた経験別	第1子出産を機に仕事を辞めた	297 100.0	64 21.5	15 5.1	122 41.1	23 7.7	59 19.9	9 3.0	5 1.7
	第2子以降の出産を機に仕事を辞めた	37 100.0	8 21.6	4 10.8	12 32.4	4 10.8	8 21.6	1 2.7	0 0.0
	出産を機に仕事を辞めていない	427 100.0	79 18.5	6 1.4	170 39.8	51 11.9	103 24.1	11 2.6	7 1.6
	出産の時点では仕事をしていた	151 100.0	41 27.2	3 2.0	59 39.1	9 6.0	27 17.9	6 4.0	6 4.0
	出産をしていない	173 100.0	30 17.3	4 2.3	61 35.3	21 12.1	43 24.9	9 5.2	5 2.9

※不明・無回答除く

問 41 あなたが生活で、最も重要だと考えていること（価値観）は何ですか。（○は1つ）

「7. 自分や家族の健康」が 33.0%と最も高く、次いで「4. 家族と過ごす時間」が 23.7%、「2. 経済的な豊かさ」が 17.5%となっています。

(N=1,866)



《問 41 最も重要だと考えている価値観×問 1 年齢別》

「18～21 歳」では「経済的な豊かさ」, 「30～34 歳」では「家族と過ごす時間」, それ以外の区分では「自分や家族の健康」の割合が最も高くなっています。

上段: 件数 下段: %	合計	仕事や就労	経済的な豊かさ	子育てや子どもへの教育	家族と過ごす時間	友人など家族以外の人との交流	自分のために使う時間(趣味や自己研さんのための時間等)	
全 体	1,866 100.0	69 3.7	326 17.5	136 7.3	443 23.7	20 1.1	140 7.5	
年 齢 別	18～21歳	116 100.0	7 6.0	31 26.7	2 1.7	28 24.1	1 0.9	13 11.2
	22～25歳	138 100.0	3 2.2	26 18.8	6 4.3	34 24.6	4 2.9	15 10.9
	26～29歳	167 100.0	4 2.4	34 20.4	4 2.4	38 22.8	7 4.2	30 18.0
	30～34歳	279 100.0	8 2.9	45 16.1	17 6.1	89 31.9	2 0.7	23 8.2
	35～39歳	334 100.0	8 2.4	49 14.7	31 9.3	95 28.4	4 1.2	20 6.0
	40～44歳	361 100.0	18 5.0	61 16.9	30 8.3	80 22.2	0 0.0	20 5.5
	45～49歳	402 100.0	18 4.5	76 18.9	41 10.2	63 15.7	2 0.5	18 4.5

上段: 件数 下段: %	合計	自分や家族の健康	地域や社会に貢献する活動	その他	特にない	不明・無回答	
全 体	1,866 100.0	616 33.0	12 0.6	49 2.6	19 1.0	36 1.9	
年 齢 別	18～21歳	116 100.0	25 21.6	0 0.0	5 4.3	0 0.0	4 3.4
	22～25歳	138 100.0	40 29.0	0 0.0	6 4.3	2 1.4	2 1.4
	26～29歳	167 100.0	43 25.7	2 1.2	2 1.2	0 0.0	3 1.8
	30～34歳	279 100.0	77 27.6	2 0.7	8 2.9	5 1.8	3 1.1
	35～39歳	334 100.0	107 32.0	1 0.3	8 2.4	4 1.2	7 2.1
	40～44歳	361 100.0	134 37.1	3 0.8	9 2.5	2 0.6	4 1.1
	45～49歳	402 100.0	160 39.8	3 0.7	9 2.2	4 1.0	8 2.0

※不明・無回答除く

《問 41 最も重要だと考えている価値観×問 3 就労形態別》

「派遣社員」では「経済的な豊かさ」、それ以外の区分では「自分や家族の健康」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	仕事や就労	経済的な豊かさ	子育てや子どもへの教育	家族と過ごす時間	友人など家族以外の人との交流	自分のために使う時間(趣味や自己研さんのための時間等)	
全 体	1,866 100.0	69 3.7	326 17.5	136 7.3	443 23.7	20 1.1	140 7.5	
就 労 形 態 別	正社員・正職員	883 100.0	38 4.3	151 17.1	43 4.9	233 26.4	10 1.1	65 7.4
	契約・パート・アルバイト	416 100.0	9 2.2	72 17.3	53 12.7	84 20.2	6 1.4	37 8.9
	派遣社員	38 100.0	2 5.3	11 28.9	0 0.0	7 18.4	1 2.6	5 13.2
	自営業主	79 100.0	6 7.6	18 22.8	7 8.9	12 15.2	0 0.0	4 5.1
	家族従業者	22 100.0	0 0.0	1 4.5	3 13.6	4 18.2	0 0.0	2 9.1
	内職・在宅就業	15 100.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0
	無職・家事専業	243 100.0	3 1.2	36 14.8	24 9.9	65 26.7	1 0.4	8 3.3
	専門学生・大学生等	134 100.0	8 6.0	29 21.6	3 2.2	30 22.4	2 1.5	17 12.7
	その他	34 100.0	2 5.9	6 17.6	2 5.9	5 14.7	0 0.0	2 5.9

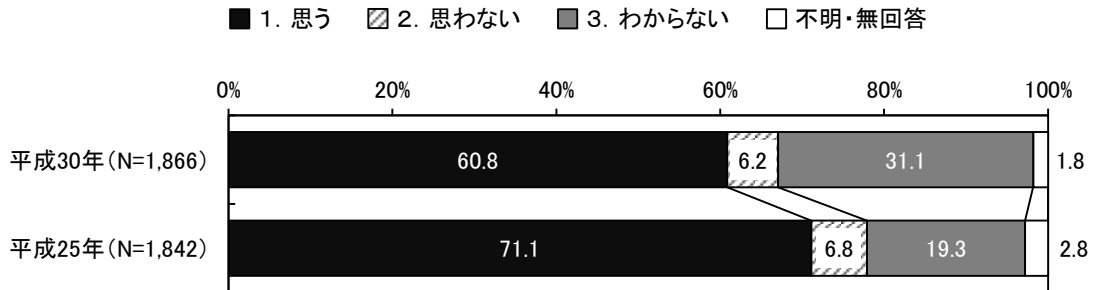
上段:件数 下段:%	合計	自分や家族の健康	地域や社会に貢献する活動	その他	特にない	不明・無回答	
全 体	1,866 100.0	616 33.0	12 0.6	49 2.6	19 1.0	36 1.9	
就 労 形 態 別	正社員・正職員	883 100.0	294 33.3	5 0.6	21 2.4	12 1.4	11 1.2
	契約・パート・アルバイト	416 100.0	136 32.7	3 0.7	7 1.7	2 0.5	7 1.7
	派遣社員	38 100.0	7 18.4	0 0.0	3 7.9	0 0.0	2 5.3
	自営業主	79 100.0	25 31.6	1 1.3	3 3.8	2 2.5	1 1.3
	家族従業者	22 100.0	10 45.5	0 0.0	1 4.5	1 4.5	0 0.0
	内職・在宅就業	15 100.0	6 40.0	0 0.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0
	無職・家事専業	243 100.0	95 39.1	2 0.8	5 2.1	0 0.0	4 1.6
	専門学生・大学生等	134 100.0	33 24.6	1 0.7	5 3.7	1 0.7	5 3.7
	その他	34 100.0	10 29.4	0 0.0	1 2.9	1 2.9	5 14.7

※不明・無回答除く

**問 42(1) あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)**

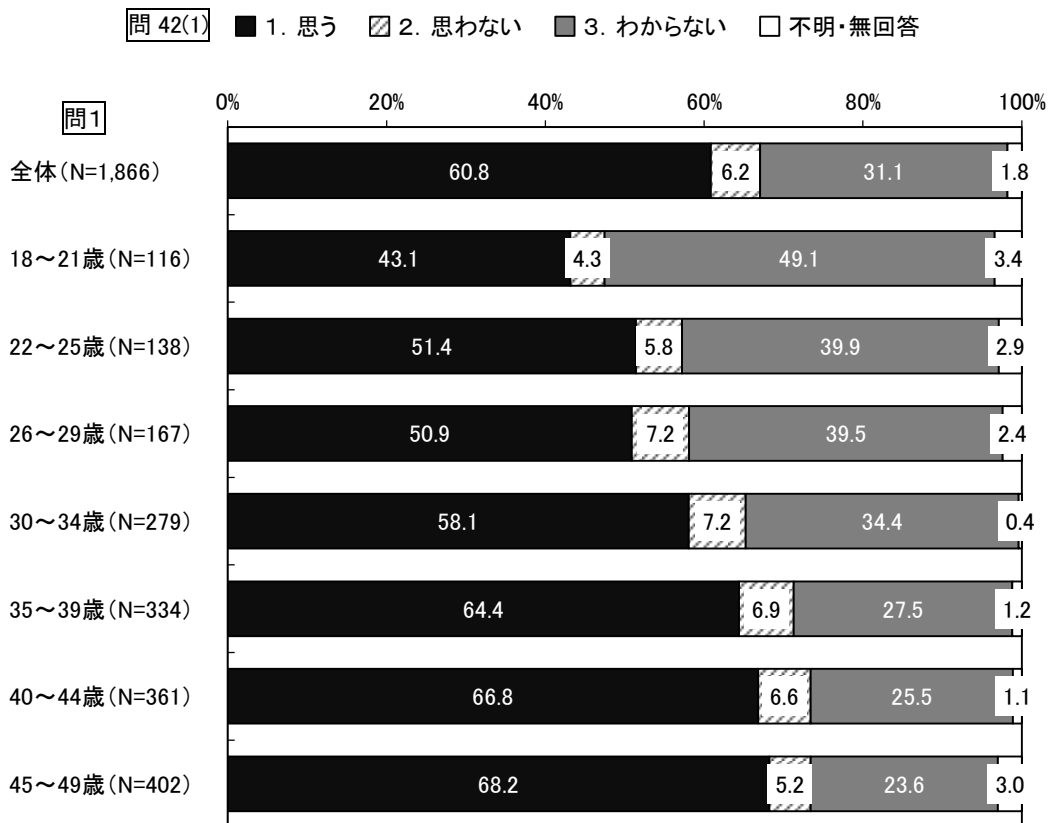
「1. 思う」が60.8%と最も高く、次いで「3. わからない」が31.1%となっています。

平成25年と比較すると、「1. 思う」が10.3ポイント低く、「3. わからない」が11.8ポイント高くなっています。



**《問 42(1)居住意向×問1年齢別》**

「18～21歳」では「3. わからない」、それ以外の区分では「1. 思う」の割合が最も高くなっており、年齢が上がるほど「1. 思う」の割合が高くなる傾向がみられます。

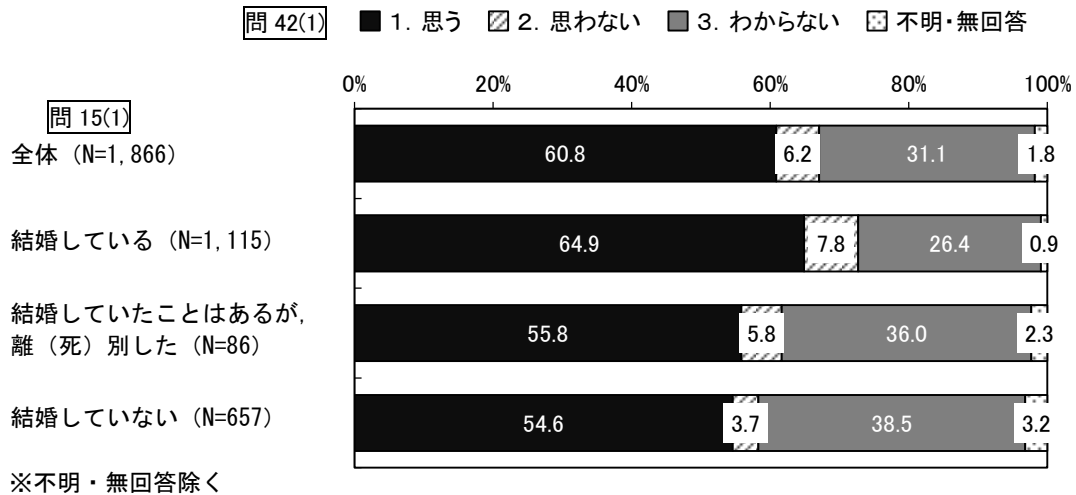


※不明・無回答除く



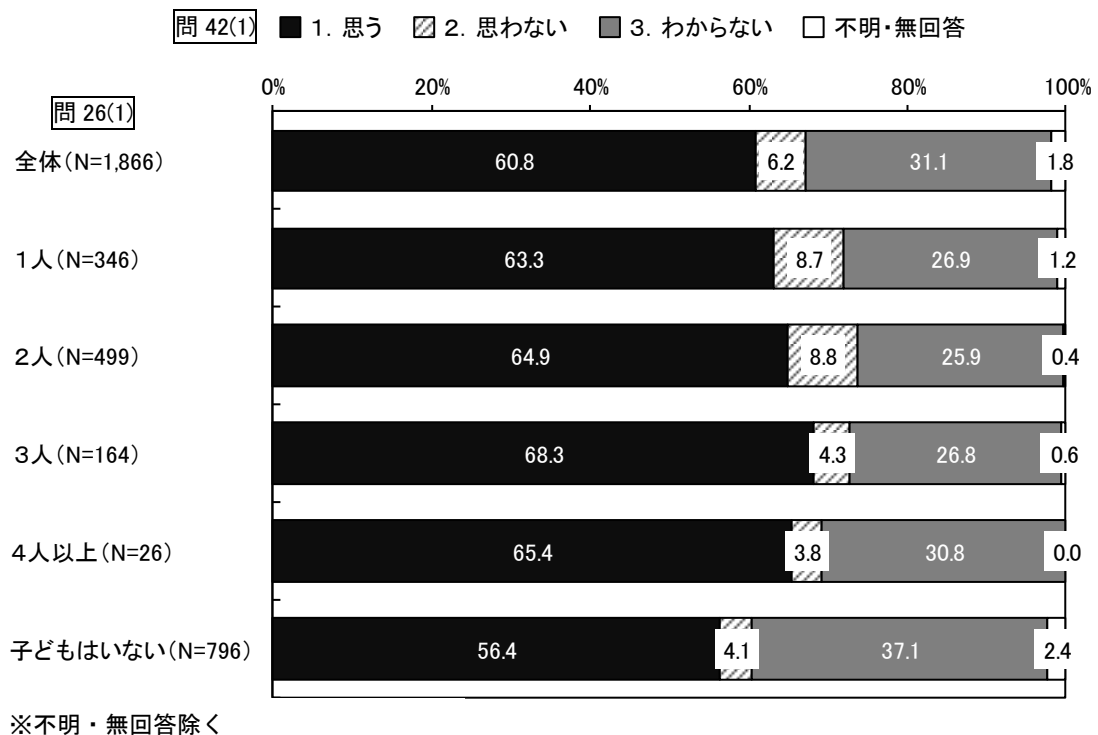
《問 42(1)居留意向×問 15(1)結婚の有無別》

「結婚している」では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。



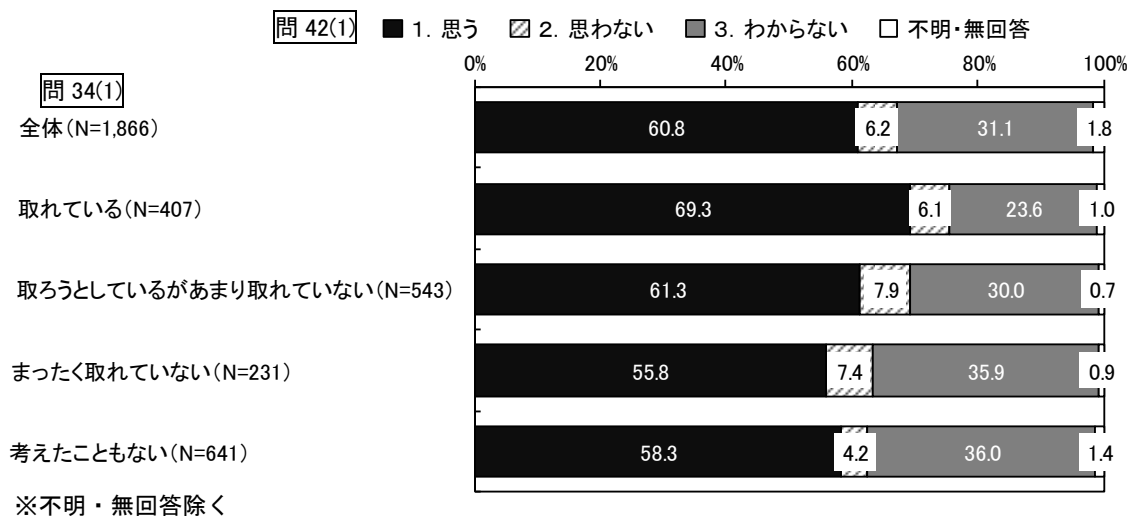
《問 42(1)居留意向×問 26(1)現在の子どもの人数別》

子どもの人数が多くなるほど「1. 思う」の割合が高くなる傾向がみられます。



《問 42(1)居住意向×問 34(1)「真のワーク・ライフ・バランス」の状況別》

「取れている」では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。



《問 42(1)居住意向×問 41 最も重要だと考えている価値観別》

「仕事や就労」「子育てや子どもへの教育」では「1. 思う」の割合が他の区分と比べて高くなっています。

上段: 件数 下段: %		合計	思う	思わない	わからない	不明・無回答
全 体		1,866 100.0	1,135 60.8	116 6.2	581 31.1	34 1.8
最 も 重 要 だ と 考 え て い る 価 値 観 別	仕事や就労	69 100.0	50 72.5	3 4.3	16 23.2	0 0.0
	経済的な豊かさ	326 100.0	190 58.3	23 7.1	110 33.7	3 0.9
	子育てや子どもへの教育	136 100.0	98 72.1	10 7.4	27 19.9	1 0.7
	家族と過ごす時間	443 100.0	285 64.3	31 7.0	126 28.4	1 0.2
	友人など家族以外の人との交流	20 100.0	11 55.0	0 0.0	8 40.0	1 5.0
	自分のために使う時間(趣味や自己研さんのための時間等)	140 100.0	72 51.4	10 7.1	57 40.7	1 0.7
	自分や家族の健康	616 100.0	388 63.0	34 5.5	191 31.0	3 0.5
	地域や社会に貢献する活動	12 100.0	7 58.3	0 0.0	5 41.7	0 0.0
	その他	49 100.0	20 40.8	4 8.2	25 51.0	0 0.0
	特にない	19 100.0	5 26.3	1 5.3	12 63.2	1 5.3

※不明・無回答除く

問 42(1)で「1」または「2」と答えた方

問 42(2) そのように思う理由は何ですか。

【住み続けたいと思う理由】

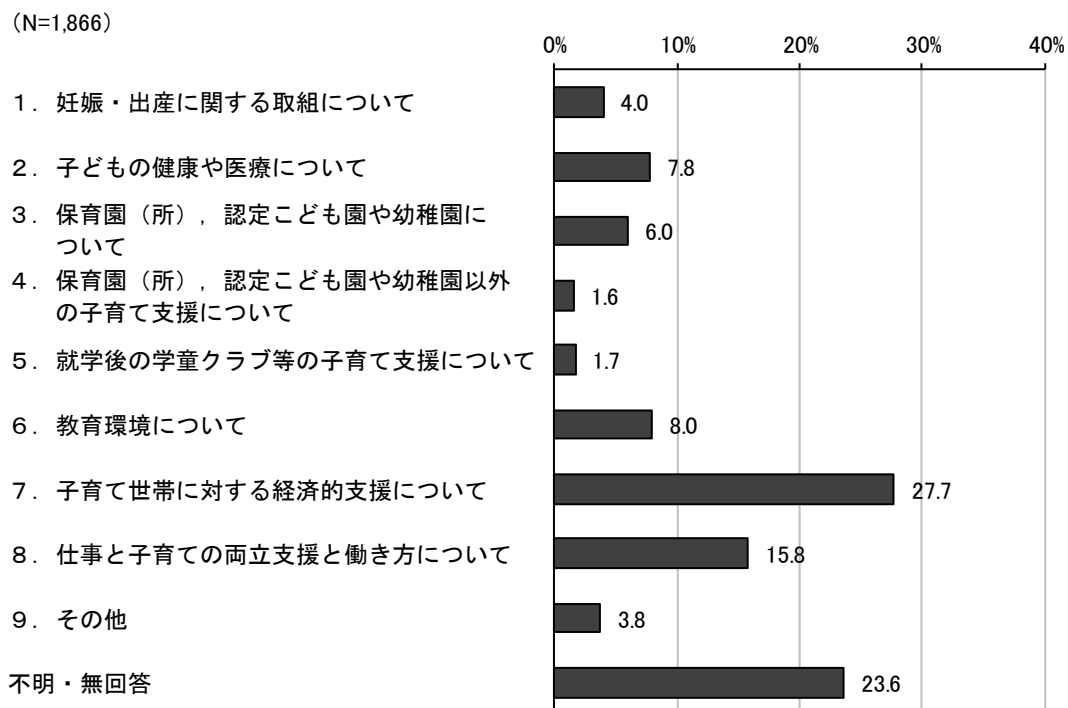
項目	主な記述内容	回答数（件）
生まれも育ちも京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれ育ったまちだから</li> <li>・実家があるから</li> <li>・生まれ育ったまちであるので、他県に行こうと思わない</li> </ul>	339
住環境のよさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れているから</li> <li>・落ち着いた地域で住みやすいから</li> <li>・現状に不満がない</li> </ul>	326
京都市への誇り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都のまちが好きだから</li> <li>・歴史と文化のある素晴らしいまちだと思うから</li> <li>・京都を誇りに思う</li> </ul>	160
生活の利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院や学校などが近いから</li> <li>・公共交通機関も充実していて暮らしやすいから</li> <li>・まちがコンパクトで生活や仕事がしやすい</li> </ul>	88
親や親戚が近くに居住	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が京都に住んでいるから</li> <li>・親戚、兄弟が京都にいるから</li> </ul>	82
就労環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の仕事環境がよいから</li> <li>・職場が京都だから</li> <li>・京都でしかできない仕事だから</li> </ul>	54
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然、文化環境がよく子育てしやすいから</li> <li>・子育てしやすいから</li> </ul>	47
市の施策に満足または期待している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援と教育環境に力を入れているから</li> <li>・取組が充実しているから</li> </ul>	29
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が少ないから</li> <li>・安全・安定したまちだから</li> </ul>	14
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に出ていく理由がないため</li> <li>・京都以外を知らないため</li> </ul>	78

【住み続けたいと思わない理由】

項目	主な記述内容	回答数（件）
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊ぶ環境や子育てサービス等他の自治体の方がよい</li> <li>・子育て支援が少ないから</li> </ul>	35
経済的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価が高いから</li> <li>・保育料が高いから</li> <li>・土地が高いから</li> </ul>	20
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客のまちになってしまっているから</li> <li>・道路の道幅や柵などの改善をしてほしい</li> </ul>	32

**問 43 安心して子どもを生み，子どもを健やかに育てていくための行政の取組や，社会制度のあり方について，特に望むことやご意見がありましたら，ご自由にご記入ください。(〇は1つ)**

「7. 子育て世帯に対する経済的支援について」が27.7%と最も高く，次いで「8. 仕事と子育ての両立支援と働き方について」が15.8%となっています。



項目	主な記述内容	回答数 (件)
1. 妊娠・出産に関する取組について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療に対するサポートを手厚くしてほしい</li> <li>・妊婦検診や出産にかかる費用の負担を軽減してほしい</li> <li>・妊娠・出産・子育てに関する情報発信を強化してほしい</li> </ul>	36
2. 子どもの健康や医療について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳になり、病院に連れていくことをためらうようになった</li> <li>・他の自治体と比較し医療費の負担が大きすぎる</li> <li>・子どもの医療費を無償化してほしい</li> <li>・月200円の対象年齢を拡大してほしい(小学校卒業, 中学校卒業まで)</li> <li>・医療費の還付手続きが面倒である</li> </ul>	59
3. 保育園(所), 認定こども園や幼稚園について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童を解消してほしい</li> <li>・保育料の負担が大きいので見直してほしい</li> <li>・保育士の処遇改善, 保育の質の向上が必要である</li> <li>・一時保育や保護者が病気のときに預けられる施設があれば安心できる</li> </ul>	59
4. 保育園(所), 認定こども園や幼稚園以外の子育て支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育を充実させてほしい</li> <li>・気軽に子どもを預けられる場所やサービスがあればよい</li> <li>・子育てをサポートしてくれる人がいたり, 気軽に相談できる先があれば心強い</li> </ul>	10
5. 就学後の学童クラブ等の子育て支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童クラブ等, 放課後の子どもの居場所を充実させてほしい</li> <li>・学校の敷地内に学童クラブをつくってほしい</li> </ul>	16
6. 教育環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立小学校, 中学校の施設, 設備, 教育内容に差がある</li> <li>・公立小学校, 中学校の質, レベルの向上が必要である</li> <li>・塾に通うのがあたり前という学校教育は義務教育として機能していない</li> <li>・教職員の処遇改善, 資質の向上が必要である</li> </ul>	56

7. 子育て世帯に対する経済的支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得にかかわらず、子どもの人数に応じて平等に援助してほしい</li> <li>・子どもの年齢が離れていても、経済的支援を同じようにしてほしい</li> <li>・義務教育の間だけの支援ではなく、もう少し先(高校～大学)の支援も充実させてほしい</li> <li>・経済的な支援があれば、結婚や出産、子育てに前向きになれると思う</li> </ul>	177
8. 仕事と子育ての両立支援と働き方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間勤務や在宅勤務等、男女ともに柔軟な働き方が選択できればよい</li> <li>・女性の復職や再就職支援を行ってほしい</li> <li>・子どもの夏休み等に合わせた長期休暇や、子どもが病気のと きや学校行事の際に休みが取りやすい職場環境であってほしい</li> <li>・社会全体の意識改革と制度の拡充とともに、職場の理解とサポート体制の整備が必要である</li> <li>・企業等に対する行政の働きかけや法による規制も必要である</li> <li>・企業だけでなく、自営業に対するサポートもあればよい</li> </ul>	97
9. その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚していない人、子どものいない人にも目を向けてほしい</li> <li>・結婚、出産がすべてではない</li> <li>・もっと多様性を認める社会、少数派の意見を受け入れられる社会であってほしい</li> <li>・子どもたちが自由に遊べる場所がほしい</li> </ul>	59